

R3年度前期児童教育学科シラバス目次

共通科目

科目名	担当者	ページ	科目名	担当者	ページ
英語Ⅰ	宮城(慧)	1・2	健康と運動の科学	石垣	23・24
英語Ⅰ	大城(浩)	3・4	沖縄の方言	大田	25
英語Ⅰ	ダグラス	5・6	生活と芸術	玉城(哲)	26・27
中国語Ⅰ	水間	7・8	経済と生活	野原(寿)	28・29
外国語コミュニケーション	高良	9・10	社会と情報	島田	30・31
外国語コミュニケーション	山城	11・12	茶道とマナー	佐久間	32・33
教養演習	大石(英) 上原(勝)	13・14	沖縄の歴史と文化	宮城(茂)	34・35
教養演習	上原(勝)	15・16	日本語学研究Ⅰ	大城(朋)	36・37
健康・運動実技	山入端	17・18	日本語学研究Ⅱ	大城(朋)	38・39
健康・運動実技	田島	19・20	日本国憲法	福里	40・41
健康・運動実技	與那嶺	21・22			

専門科目

科目名	担当者	ページ	科目名	担当者	ページ
子どもと音楽表現Ⅰ	赤嶺	42・43	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	長若(実)	95・96
子どもと音楽表現Ⅲ	大宜見 他	44・45	教育機器演習	新川	97・98
子どもと造形表現Ⅰ	玉城(哲)	46・47	A2教育機器演習	新垣(さ)	99・100
子どもと体育表現Ⅰ	山入端 他	48・49	C1教育機器演習	新垣(さ)	101・102
子どもと体育表現Ⅰ(初等)	石垣	50・51	教材研究 国語	桃原	103・104
子ども家庭福祉	竹藤	52・53	教材研究 算数	浅井	105・106
子ども家庭福祉	宮本	54・55	教育制度論	上原(勝)(実)	107・108
子ども家庭福祉	垣花	56・57	教育実習指導(心理・福祉)	渡名喜 他	109・110
子どもの保健	新垣(利)他(実)	58～60	教育実習指導(初等)	桃原	111・112
乳児保育Ⅰ	大石(洋)(実)	61・62	教育原理	又吉	113・114
特別な支援を要する子どもの理解と実際Ⅰ	嘉数 他(実)	63・64	教育心理学	渡名喜	115・116
社会福祉	上原(健)	65・66	発達心理学	渡名喜	117・118
社会的養護Ⅰ	砂川	67・68	生徒指導	桃原	119・120
社会的養護Ⅱ	後野	69・70	特別活動の指導法	仲西	121
保育実習指導Ⅱ(保)	羽地 他	71・72	道徳教育の指導法	桃原	122・123
保育実習指導ⅠB(施)	砂川 他	73・74	ゼミナール	上原(健)	124・125
保育実習指導Ⅲ(児)	石垣 他	75・76	ゼミナール	新垣(さ)	126・127
保育原理	廣瀬	77・78	ゼミナール	又吉	128・129
保育内容 総論	名渡山	79	ゼミナール	嘉数	130・131
保育内容 健康	石垣	80・81	ゼミナール	渡名喜	132・133
保育内容 人間関係	羽地	82・83	ゼミナール	赤嶺	134・135
保育内容 環境	村吉	84・85	ゼミナール	羽地	136・137
保育内容 表現	赤嶺	86・87	ゼミナール	桃原	138・139
幼児理解	岩井	88・89	ゼミナール	石垣	140・141
児童文化財Ⅱ	大田 他	90	保育・教育インターンシップⅠ	新垣(さ)	142
心理学概論	渡名喜	91・92	保育・教育インターンシップⅡ	新垣(さ)	143
保育内容 環境	名渡山	93・94			

科目区分	共通	科目名	英語 I	担当教	宮城 薫	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング	CB001	資格・免許要件					
授業の到達目標	英語の4技能の「読んで理解する力」、「書いて表現する力」と同時に、運用能力である「聴いて理解する力」と「話して伝える力」を、向上させることを目標とする。								
授業概要	高校までに学んだ英文法を基礎に、ストーリーを精読しながら授業を進めていく。各章ごとの難しい語句で書かれた英文ショートストーリーをリーディングを通して意味を理解しながら、暗記やライティングを通して基本的な文を表現できる力を訓練する。また、いろいろな会話シーンのなかで、ロールプレイングなどでリスニングやスピーキングなど英語の運用能力を高める訓練を実施していく。また、発音やイントネーションなどにも注意して映画鑑賞をしながらネイティブの話し方を模倣を通して英語を楽しみながら学ぶ。小学校での外国語教育を充実させるためには、やはり教師自身の語学能力向上が必須条件であり、繰り返し運用能力の訓練を行って、いかに英語の4技能を高めていくのかを考えながら学習する。								
ディプロマの①内と授業の対応	◎ 1 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ○ 2 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ 3 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ 4 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。 ◎⇒DP 達成の為に特に重要な項目 ○⇒DP 達成の為に重要な項目 △⇒DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1 週	登録確認、講義内容、教科書説明、及び自己紹介 Lesson 1: Kindness by Force (Reading & Understanding)				事前: 自己紹介のイメージ作成と L1 本文の速読、単語学習等 事後: 自己紹介文の復習と L1 本文を精読しストーリーを理解		1H 1H		
2 週	Lesson 1: Kindness by Force (Reading & Understanding) 及び自己紹介				事前: L1 本文の速読、単語学習等 事後: L1 本文を精読しストーリーを理解 自己紹介文の復習		1H 1H		
3 週	Lesson 1: Kindness by Force (Exercise)				事前: L1 Ex 単語学習と設問理解 事後: L1 Ex 各設問と答えの理解		1H 1H		
4 週	Lesson 1: Kindness by Force (Exercise)				事前: L1 Ex 単語学習と設問理解 事後: L1 Ex 各設問と答えの理解		1H 1H		
5 週	Lesson 2: Secret Air-conditioning (Reading & Understanding)				事前: L2 本文の速読、単語学習等 事後: L2 本文を精読しストーリーを理解		1H 1H		
6 週	Lesson 2: Secret Air-conditioning (Reading & Understanding)				事前: L2 本文の速読、単語学習等 事後: L2 本文を精読しストーリーを理解		1H 1H		
7 週	Lesson 2: Secret Air-conditioning (Exercise)				事前: L2 Ex 単語学習と設問理解 事後: L2 Ex 各設問と答えの理解		1H 1H		
8 週	Lesson 2: Secret Air-conditioning (Exercise)				事前: L2 Ex 単語学習と設問理解 事後: L2 Ex 各設問と答えの理解		1H 1H		
9 週	Lesson 3: The Young 'Composer' (Reading & Understanding)				事前: L3 本文の速読、単語学習等 事後: L3 本文を精読しストーリーを理解		1H 1H		
10 週	Lesson 3: The Young 'Composer' (Reading & Understanding)				事前: L3 本文の速読、単語学習等 事後: L3 本文を精読しストーリーを理解		1H 1H		
11 週	Lesson 3: The Young 'Composer' (Exercise)				事前: L3 Ex 単語学習と設問理解 事後: L3 Ex 各設問と答えの理解		1H 1H		
12 週	Lesson 3: The Young 'Composer' (Exercise)				事前: L3 Ex 単語学習と設問理解 事後: L3 Ex 各設問と答えの理解		1H 1H		
13 週	Lesson 4: Don't Walk! Take a Taxi! (Reading & Understanding)				事前: L4 本文の速読、単語学習等 事後: L4 本文を精読しストーリーを理解		1H 1H		
14 週	Lesson 4: Don't Walk! Take a Taxi! (Reading & Understanding)				事前: L4 本文の速読、単語学習等 事後: L4 本文を精読しストーリーを理解		1H 1H		
15 週	Lesson 4: Don't Walk! Take a Taxi! (Exercise)				事前: L4 Ex 単語学習と設問理解 事後: L4 Ex 各設問と答えの理解		1H 1H		

16回	Lesson 4: Don't Walk! Take a Taxi! (Exercise)	事前: L4 Ex 単語学習と設問理解 事後: L4 Ex 各設問と答えの理解	1H 1H
17回	映画鑑賞	事前: ディクテーション訓練 事後: 鑑賞中に学んだ表現のまとめ	1H 1H
18回	映画鑑賞 (続き)	事前: ディクテーション訓練 事後: 鑑賞中に学んだ表現のまとめと感想	1H 1H
19回	Lesson 1 & 2: Dialogue (Reading, Understanding & Exercise)	事前: L1 & 2 Dialogue 学習理解 事後: L1 & 2 Dialogue 重要表現暗記	1H 1H
20回	Lesson 3 & 4: Dialogue (Reading, Understanding & Exercise)	事前: L3 & 4 Dialogue 学習理解 事後: L3 & 4 Dialogue 重要表現暗記	1H 1H
21回	Lesson 5: Shooting in a Wheelchair (Reading & Understanding)	事前: L5 本文の速読、単語学習等 事後: L5 本文を精読しストーリーを理解	1H 1H
22回	Lesson 5: Shooting in a Wheelchair (Reading & Understanding)	事前: L5 本文の速読、単語学習等 事後: L5 本文を精読しストーリーを理解	1H 1H
23回	Lesson 5: Shooting in a Wheelchair (Exercise)	事前: L5 Ex 単語学習と設問理解 事後: L5 Ex 各設問と答えの理解	1H 1H
24回	Lesson 5: Shooting in a Wheelchair (Exercise)	事前: L5 Ex 単語学習と設問理解 事後: L5 Ex 各設問と答えの理解	1H 1H
25回	Lesson 6: The Best Echo in the World (Reading & Understanding)	事前: L6 本文の速読、単語学習等 事後: L6 本文を精読しストーリーを理解	1H 1H
26回	Lesson 6: The Best Echo in the World (Reading & Understanding)	事前: L6 本文の速読、単語学習等 事後: L6 本文を精読しストーリーを理解	1H 1H
27回	Lesson 6: The Best Echo in the World (Exercise)	事前: L6 Ex 単語学習と設問理解 事後: L6 Ex 各設問と答えの理解	1H 1H
28回	Lesson 6: The Best Echo in the World (Exercise)	事前: L6 Ex 単語学習と設問理解 事後: L6 Ex 各設問と答えの理解	1H 1H
29回	Lesson 5 & 6: Dialogue (Reading, Understanding & Exercise)	事前: L5 & 6 Dialogue 学習理解 事後: L5 & 6 Dialogue 重要表現暗記	1H 1H
30回	Lesson 1 ~ 6: Review (Reading, Understanding & Exercise)	事前: L1 ~ 6 本文の復習 事後: L1 ~ 6 Ex 各設問の復習	1H 1H
31回	期末試験		
テキスト	ウィットを楽しむ総合英語 "WITTY TALES": L.A. HILL・安藤賢一、発行所: 成美堂 ¥1,600(税別)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 講義で適宜紹介していくが、絵本や新聞雑誌、インターネット記事などの情報も随時取り上げたい。		
授業の評価方法・基準	評価は講義への参加度 15%、ただ出席か否かではなく能動的な授業への参加、自主的な質問や質問への真面目な対応などの参加度、通称授業対応の課題への真摯な取り組みが 40%、随時のクイズが 15%、期末試験が 30%で総合評価する。		
履修条件	特になし		
関連科目・次のステージ	後期の「英語 II」を引き続き受講し、日常生活では常に UP を意識しながら、授業、予習復習や課題学習で学んだことを実践する。		
オフィスアワー	授業前後は学科準備室で、時間を要する場合はメールで調整: E-mail: s-miyagi@ptl.cwjc.ac.jp		
授業や課題に対するフィードバック	ロールプレイング、課題、クイズや試験のフィードバックにも、後に時間をあててコメント、添削、解答し、次回にはより向上するように導いていく。		
受講生へのメッセージ	すでに終わったレッスンの復習、これから習ふレッスンの予習、特にわからない単語は前もって調べてから授業に出席して欲しい。課題の提出物を必ず提出すること。将来の可能性を広げるためにも英検、TOEIC、その他の英語能力検定試験を受ける気概を持ってほしい。		
7/11(ア)ラーニングの実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク (○) ロールプレイング () 振り返りシート () ディスカッション (○) プロジェクト学習 () ビデオサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート (○) PBL※課題解決型 (○) 反転学習 (○) 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	共通	科目名	英語 I (完数&総点)	編纂者	大城 浩	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	C8001	資格・免許要件					
授業の到達目標	① 音読の効果的なトレーニングを通して世界共通語としての英語の役割を認識するとともに、自己表現力とコミュニケーションスキルを身に付ける								
授業概要	① 多様な題材 (音読、5行エッセイ等) を通して主体的なコミュニケーション能力や自己表現力を育む基礎を学ぶ ② ペア・グループ活動を通して問題解決能力や主体的なコミュニケーション能力を育む基礎を学ぶ ③ 歌や映像などを通して英語を楽しむとともに4技能 (Listening, Reading, Speaking, Writing) の基礎を育む								
ディブ イター の 的と 課 程 の 対 応	○	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1 週	英語 I 講義オリエンテーション (進め方、評価方法等) グローバル時代における英語学習の基本的な考え方					事後：英語学習の基本ルールを整理する		(2h)	
2 週	音読 Lesson1 「The Internet」 (L&R&S&W) =基本トレーニング S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)					事前：Lesson1 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後：Lesson1 の概要整理 (内容等)		(2h) (2h)	
3 週	音読 Lesson1 「The Internet」 (L&R&S&W) =応用トレーニング 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ					事前：Lesson1 のまとめ(語彙/基本表現) 事後：Lesson1 の音読練習・暗唱		(2h) (2h)	
4 週	音読 Lesson2 「The Development of Computers」 =基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)					事前：Lesson2 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後：Lesson2 の概要整理 (内容等)		(2h) (2h)	
5 週	音読 Lesson2 「The Development of Computers」 =応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ					事前：Lesson2 のまとめ(語彙/基本表現) 事後：Lesson2 の音読練習・暗唱		(2h) (2h)	
6 週	音読 Lesson3 「A Blend of Cultures」 =基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)					事前：Lesson3 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後：Lesson3 の概要整理 (内容等)		(2h) (2h)	
7 週	音読 Lesson3 「A Blend of Cultures」 =応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ					事前：Lesson3 のまとめ(語彙/基本表現) 事後：Lesson3 の音読練習・暗唱		(2h) (2h)	
8 週	音読 Lesson4 「A Famous Old Town」 =基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)					事前：Lesson4 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後：Lesson4 の概要整理 (内容等)		(2h) (2h)	
9 週	音読 Lesson4 「A Famous Old Town」 =応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ					事前：Lesson4 のまとめ(語彙/基本表現) 事後：Lesson4 の音読練習・暗唱		(2h) (2h)	
10 週	音読 Lesson5 「A Pajama Party」 =基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)					事前：Lesson5 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後：Lesson5 の概要整理 (内容等)		(2h) (2h)	
11 週	音読 Lesson5 「A Pajama Party」 =応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ					事前：Lesson5 のまとめ(語彙/基本表現) 事後：Lesson5 の音読練習・暗唱		(2h) (2h)	
12 週	音読 Lesson6 「Making a Speech」 =基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)					事前：Lesson6 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後：Lesson6 の概要整理 (内容等)		(2h) (2h)	
13 週	音読 Lesson6 「Making a Speech」 =応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ					事前：Lesson6 のまとめ(語彙/基本表現) 事後：Lesson6 の音読練習・暗唱		(2h) (2h)	
14 週	音読 Lesson7 「Mika's Speech」 =基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)					事前：Lesson7 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後：Lesson7 の概要整理 (内容等)		(2h) (2h)	
15 週	音読 Lesson7 「Mika's Speech」 =応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ					事前：Lesson7 のまとめ(語彙/基本表現) 事後：Lesson7 の音読練習・暗唱		(2h) (2h)	

16回	Coffee Break (英語の歌・演説など) の紹介	事前: 英語の歌を楽しく学ぶポイント 事後: 英語の演説を楽しく学ぶポイント	(2h) (2h)
17回	音読 Lesson8 「Let's Have a Debate!」 = 基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)	事前: Lesson8 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後: Lesson8 の概要整理 (内容等)	(2h) (2h)
18回	音読 Lesson8 「Let's Have a Debate!」 = 応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ	事前: Lesson8 のまとめ(語彙/基本表現) 事後: Lesson8 の音読練習・暗唱	(2h) (2h)
19回	音読 Lesson9 「Ha, ha, ha...」 = 基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)	事前: Lesson9 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後: Lesson9 の概要整理 (内容等)	(2h) (2h)
20回	音読 Lesson9 「Ha, ha, ha...」 = 応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ	事前: Lesson9 のまとめ(語彙/基本表現) 事後: Lesson9 の音読練習・暗唱	(2h) (2h)
21回	音読 Lesson10 「On the Top of the World」 = 基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)	事前: Lesson10 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後: Lesson10 の概要整理 (内容等)	(2h) (2h)
22回	音読 Lesson10 「On the Top of the World」 = 応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ	事前: Lesson10 のまとめ(語彙/基本表現) 事後: Lesson10 の音読練習・暗唱	(2h) (2h)
23回	音読 Lesson11 「Protect Our World」 = 基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)	事前: Lesson11 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後: Lesson11 の概要整理 (内容等)	(2h) (2h)
24回	音読 Lesson11 「Protect Our World」 = 応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ	事前: Lesson11 のまとめ(語彙/基本表現) 事後: Lesson11 の音読練習・暗唱	(2h) (2h)
25回	音読 Lesson12 「I Have a Dream」 = 基本トレ S1(推測 1)→S2(音読)→S3(精読)→S4(音読)→S5(音読筆写)→S6(推測 2)	事前: Lesson12 の事前学習 (語彙/基本表現) 事後: Lesson12 の概要整理 (内容等)	(2h) (2h)
26回	音読 Lesson12 「I Have a Dream」 = 応用トレ 内容理解(Q&A)→Dictation→Recitation→発表→5行エッセイ	事前: Lesson12 のまとめ(語彙/基本表現) 事後: Lesson12 の音読練習・暗唱	(2h) (2h)
27回	音読総まとめ①「Lesson1～Lesson6」 ペア/グループ音読→暗唱	事前: Lesson1～Lesson6 のまとめ 事後: 音読練習/暗唱	(2h) (2h)
28回	音読総まとめ②「Lesson7～Lesson12」 ペア/グループ音読→暗唱	事前: Lesson7～Lesson12 のまとめ 事後: 音読練習/暗唱	(2h) (2h)
29回	定期考査 (筆記テスト)	事前: Lesson1～Lesson12 のまとめ 事後: Lesson1～Lesson12 のまとめ	(2h) (2h)
30回	定期考査 (暗唱テスト)	事前: Lesson1～Lesson12 のまとめ 事後: Lesson1～Lesson12 のまとめ	(2h) (2h)
31回	テスト返却 (解答・解説)、フィードバックとまとめ	事前: 評価 事後: 振り返り (アンケート調査)	(2h) (2h)
テキスト	指定図書「英会話・ぜったい音読・標準編」(国弘正雄、講談社、1200 円)、その他は講義で資料を配布する		
参考資料	英会話・ぜったい音読・標準編(国弘正雄、講談社、1200 円)、ハーバード式英語学習法(菅野仲達、秀和システム、1000 円)		
授業の評価方法・基準	筆記テスト(50%)、暗唱発表(35%)、エッセイ(25%)で評価する (暗唱/エッセイ等については、その都度フィードバックする)		
履修条件	受講マナー(遅刻・欠席・私語・居眠り・携帯電話等)に注意し、授業では積極的に参加すること		
関連科目・次のステージ	留学は実践練習が不可欠であり、その一環として「音読」の必要性を認識し、効果的なトレーニングを通して実践練習に臨むとともに、学習の成果として英語力資格習得(英検/TOEIC 等)を目指しながら英語力向上に努める。		
オフィスアワー	月曜日と水曜日と木曜日の講義終了後の1時間程度		
フィードバック	(1)基本トレーニングでは音読の基本トレーニングである8つのステップ(推測→音読→精読→音読→音読筆写→推測)を反復する。 (2)応用トレーニングでは基本トレで学んだトピックの dictation (書き取り) と recitation (暗唱) と 5 行エッセイを反復する。		
受講生へのメッセージ	世界共通語としての英語の役割や現代英語の特徴を認識し、21世紀の日本を担う若者として、堂々と自らの考えを英語で発表する術を身に付けてほしい。Go for it! (頑張ろう!)		
7対1対7の関	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () デイバート () PBL 課題解決型 (○) 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	共通	科目名	英語 I (1/2)	担当者	ダグラス ドライスタット	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング				資格免許要件	保育士資格選択必修		
授業の到達目標	In order for students to become competent, productive members of our increasingly global society, the primary aim of this course is not simply to learn English through the four skills, but to cultivate in students the ability to become self-motivated autonomous learners, able to take charge of their own learning trajectories. Students learn to set specific short-term and long-term goals, create realistic, sustainable learning plans, and assemble the various resources needed to develop their own personal learning environments. Students acquire the knowledge and strategic skills for linguistic and intercultural communication through both intensive and extensive active learning methods such as pair work, group discussion, and interactive presentations.								
授業概要	This is a four-skills (speaking, listening, reading, writing) course with emphasis on extensive practice, active production of the target language, and the development of autonomous learning strategies. Students learn language acquisition and self-assessment strategies designed to encourage long-term engagement with the target language. Activities are task-based pair work and group work, with special focus on content related to a career in preschool education, such as English song leading. Out-of-classroom activities, including a number of online applications, are used to support classroom activities with the aim of making personal learning environments (PLEs) as ubiquitous as possible.								
ディプロマポリシー (DP) と授業の対応	◎ Students are evaluated highly for active participation. ○ Students are expected to take charge of their own learning, and record their progress using portfolios. ○ Students learn to utilize short-term, long-term, and lifelong learning strategies to achieve their goals. ○ Students actively create their own personalized learning environments								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目								
	○=DP 達成の為に重要な項目								
	△=DP 達成の為に望ましい項目								
授業計画						時間外学習		時間	
1 回	Orientation, How to learn English, Part 1 (video)					事前: Prepare to explain practice methods	1H		
						事後: Write opinions about the video	1H		
2 回	How to learn English, Part 2 (interaction simulation)					事前: Prepare to discuss the video	1H		
						事後: Prepare to discuss simulation	1H		
3 回	How to learn English, Part 2 (discussion)					事前: Prepare to discuss learning styles	1H		
	Self-introductions					事後: What is your personal learning style?	1H		
4 回	LMS, online app, and portfolio orientation					事前: Evaluate personal learning strategies	1H		
	Introducing others					事後: Portfolio first essay	1H		
5 回	Pronunciation Clinic, Vocabulary self-diagnosis					事前: Select a vocabulary learning strategy	1H		
						事後: Practice with partner	1H		
6 回	Help! Learning strategies for English					事前: Vocabulary prep	1H		
						事後: Practice survival expressions	1H		
7 回	Help! More Learning strategies for English					事前: Vocabulary prep	1H		
						事後: Unit Review, Pair Practice	1H		
8 回	Brown Eyed Girl					事前: Vocabulary Prep	1H		
						事後: Practice with partner, Portfolio essay	1H		
9 回	Brown Eyed Girl					事前: Discussion Prep	1H		
						事後: Unit Review, Practice with partner	1H		
10 回	Imagine, part 1					事前: Vocabulary Prep	1H		
						事後: Unit Review, Pair Practice	1H		
11 回	Imagine, part 2,					事前: Vocabulary Prep	1H		
						事後: Pair Practice	1H		
12 回	Introduction to mind mapping – Learning strategies 2					事前: Discussion Prep	1H		
						事後: Practice with partner, Portfolio essay	1H		
13 回	Let's Dance, part 1					事前: Vocabulary Prep	1H		
						事後: Unit Review, Pair Practice	1H		
14 回	Let's Dance, part 2					事前: Vocabulary Prep	1H		
						事後: Practice with partner	1H		
15 回	Proud Mary, part 1					事前: Discussion Prep	1H		
						事後: Review all units	1H		
16 回	Proud Mary, part 2					事前: Review all units	1H		
						事後: Progress Self-evaluation	1H		
17 回	Mid-term exam					事前: Vocabulary Prep	1H		
						事後: Pair Practice	1H		
18 回	Under My Thumb, part 1					事前: Discussion Prep, Portfolio	1H		
						事後: Unit Review	1H		
19 回	Under My Thumb, part 2					事前: Vocabulary Prep	1H		
						事後: Pair Practice	1H		
20 回	Permission to Fly, part 1					事前: Discussion Prep	1H		
						事後: Unit Review	1H		
21 回	Permission to Fly, part 2					事前: Vocabulary Prep	1H		
						事後: Pair Practice	1H		
22 回	Revising Learning Strategies					事前: Discussion Prep	1H		
						事後: Unit Review	1H		
23 回	She's a Woman, part 1					事前: Vocabulary Prep	1H		

		事後: Pair Practice	1H
24 回	She's a Woman, part 2,	事前: Discussion Prep, Portfolio 事後: Unit Review	1H 1H
25 回	After Midnight, part 1	事前: Vocabulary Prep 事後: Pair Practice	1H 1H
26 回	After Midnight, part 2	事前: Discussion Prep 事後: Unit Review	1H 1H
27 回	Portfolio and Learning Strategies review	事前: Vocabulary Prep 事後: Pair Practice	1H 1H
28 回	500 Miles, part 1	事前: Discussion Prep 事後: Unit Review	1H 1H
29 回	500 Miles, part 2	事前: Vocabulary Prep 事後: Pair Practice	1H 1H
30 回	Vocabulary and Pronunciation Strategies Review Semester review	事前: Discussion Prep, Portfolio 事後: Unit Review	1H 1H
31 回	Final Exam	事前: Review all lessons 事後: All Unit Review	1H 1H
テキスト	On Your Marks, Intercomm Press, ¥2700 (税込み)		
参考資料	和英英和辞典, graded readers, online applications.		
授業の評価方法・基準	ディスカッション・授業参加: 60%、クイズ・テスト: 20%、ポートフォリオ・課題: 20%		
履修条件	Each student is expected to <i>actively participate</i> in the design and development of a practical, sustainable, long-term personal English learning environment.		
関連科目・次のステージ	More advanced courses in English or other languages, intercultural communication courses, certification exams such as Eiken, TOEIC, or TOEFL, study abroad.		
オフィスアワー	金曜日 10:30~14:30 (バーチャルオフィス. 詳細は LMS のコースページを参照)		
授業や課題に対するフィードバック	小テストは LMS を活用するため、フィードバックも直ちに行われます。テスト及び課題特に不正解が多かったところについて説明します。		
受講生へのメッセージ	Become active learners!		
アクティブラーニングの実施	(●)ペアワーク (●)プレゼンテーション (●)フィールドワーク (●)ロールプレイング (○)振り返りシート (●)ディスカッション (○)プロジェクト学習 (○)ペアサポート (○)質問及びフィードバック (○)動画等メディア (○)ディベート (○)PBL※課題解決型 (○)反転学習 (●)小テスト (○)ゲストスピーカー (●)その他(LMS 活動、グループワーク)		

科目区分	共通	科目名	中国語Ⅰ	担当者	水間 八重	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング	CB004	資格・免許要件	保潔必				
授業の到達目標	ローマ字による発音表記(ピンイン)と発音に慣れ、基礎的かつ実用的な表現を習得します。また中国語圏の文化や習慣について、いくつか例をあげて他者に紹介できることを目指します。視野を広げ、異なる価値観を受入れる態度を身につけます。								
授業概要	この講座では、言語の習得に加え、言葉の背景にある歴史や文化についても学びます。とりわけ中国と沖縄の歴史的な往来や共通する文化について理解するとともに、国や地域によって習慣やマナーに違いがあることも学びます。また、現在の私たちの暮らしと中国との関係についても理解します。								
ディプロマ(DP)と授業の対応	○① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける △② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。 ○=DP達成のために特に重要な項目 △=DP達成のために重要な項目 ○=DP達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1回	講義概要/中国語の特徴/母音と声調の発音/あいさつと基本表現1(こんにちは)				事後:シラバスの確認、中国語の特徴について要点をまとめる、重要表現の書写・発音		1H		
2回	中国ってどんなところ?(写真と解説)/母音が二つ三つ重なった「複合母音」の発音/あいさつと基本表現2(ありますか)				事前:前回の重要表現を暗誦 事後:中国についての基礎知識を簡単にまとめる、重要表現の書写・発音		0.25H 0.75H		
3回	中国と沖縄について(写真と解説)/ふたつの「ん」~[n]と[ng]がついた「鼻母音」の発音/あいさつと基本表現3(どうぞ)				事前:前回までの重要表現を暗誦 事後:中国と沖縄の関係について簡単にまとめる、重要表現の書写・発音		0.25H 0.75H		
4回	基本の発音と重要表現のおさらい/中国の伝統文化、切り絵(剪紙)を体験しよう				事後:前回までの重要表現の書写・暗誦、中国の切り絵とめだたい形について簡単にまとめる。		1H		
5回	子音の発音/自分の名前を中国語で発音してみよう				事前:前回までの重要表現を暗誦 事後:前回までの重要表現の書写・暗誦、自分の名前を中国の漢字で書き、発音。		0.25H 0.75H		
6回	基本の発音と重要表現 まとめ/小テスト				事前:前回までの重要表現の書写・暗誦		1H		
7回	教科書第1課① 私は~といいますー自分の名前を伝えよう/私は~ですー国籍や身分、所属を表現してみよう				事前①:以下、教科書学習単元1回目共通 教科書本文の内容理解、音声を聴いて音読 事後①:以下、教科書学習単元1回目共通 本文の書写・音読、重要表現や練習問題の確認、関連図書の閲覧やニュースなどの視聴		0.25H 0.75H		
8回	教科書第1課② 前回学習した内容を確認し、教科書の問題を解く。				事前②:以下、教科書学習単元2回目共通 教科書本文の音声を聴き、音読 事後②:以下、教科書学習単元2回目共通 本文の書写・暗誦、重要表現を使った会話文の作成、関連図書の閲覧やニュースなどの視聴		0.25H 0.75H		
9回	中国語音声でみるアニメーション~あいさつや基本表現を聴きとってみよう				事前:これまでの学習内容について確認 事後:今回の学習内容について簡単にまとめる		0.25H 0.75H		
10回	教科書第1課の復習/中国や台湾の地理・歴史を知る~中国の世界遺産と台湾の世界遺産候補地①				事後:今回の学習内容について簡単にまとめ、第15回で発表する世界遺産または候補地を選定し、発表原稿を作成する		1H		
11回	教科書第2課① これは~ですかー疑問詞「吗」を使って質問してみよう/これは~なんですかー疑問詞「什么」を使って質問してみよう				事前① 事後①		0.25H 0.75H		
12回	教科書第2課② 前回学習した内容を確認し、教科書の問題を解く。				事前② 事後②		0.25H 0.75H		
13回	教科書第3課① これはよい、あれはきれいーいろいろなものを評価してみよう/これはいかがですか、あれはどうですかー疑問詞「怎么样」を使って、薦めたり評価を求めたりしてみよう				事前① 事後①		0.75H 0.25H		
14回	教科書第3課② 第3課①で学習した内容を確認し、教科書の問題を解く。				事前② 事後②		0.75H 0.25H		
15回	中国の世界遺産と台湾の世界遺産候補地② 発表(グループワーク)				事前:発表原稿を完成する 事後:今回得られた知識や情報について簡単にまとめる		0.75H 0.25H		
16回	第1課から第3課までのおさらい				事前:これまでの学習内容について確認する		1H		
17回	教科書第4課① いくらですか?・値段をきいてみよう/二個くださいー必要な物や個数を表現してみよう				事前① 事後①		0.25H 0.75H		
18回	教科書第4課② 前回学習した内容を確認し、教科書の問題を解く。				事前② 事後②		0.25H 0.75H		
19回	教科書第5課① どこにありますかー所在を表す「在」を使って、どこにあるのかきいてみよう/~したいー助動詞「想」を使って、したいことを表現しよう				事前① 事後①		0.25H 0.75H		

20 回	教科書第5課② 前回学習した内容を確認し、教科書の問題を解く。	事前② 事後②	0.25H 0.75H
21 回	教科書第6課① ～はありますか、もっていますかー 所有を表す「有」/なんの～、どんな～(疑問詞「什么」2)	事前① 事後①	0.25H 0.75H
22 回	教科書第6課② 前回学習した内容を確認し、教科書の問題を解く。	事前② 事後②	0.25H 0.75H
23 回	プリント教材「喜欢」 ～が好き、～を好むー 動詞「喜欢」を使って、自分の好きなもの・ことを表現してみよう	事前：自分の好きなもの・ことをいくつかあげ、中国語での表現を調べる 事後：好きなもの・ことについて中国語で表現する練習、関連圖書の阅读やニュースなどの視聴	0.25H 0.75H
24 回	中国の習慣・文化理解	事後：配付資料や提示資料を通して、中国の習慣や文化についてより理解を深める	1 H
25 回	教科書第7課① 完了を表す「了」を使って、「～しました」と表現してみよう/Aにしますか、それともBにしますか(選択疑問文「A还是B」)	事前① 事後①	0.25H 0.75H
26 回	教科書第7課② 前回学習した内容を確認し、教科書の問題を解く。	事前② 事後②	0.25H 0.75H
27 回	教科書第8課① 何時ですかー 時刻を表現してみよう/経験を表す「过」を使って、「～したことがある」と表現してみよう	事前① 事後①	0.25H 0.75H
28 回	教科書第8課② 前回学習した内容を確認し、教科書の問題を解く。	事前② 事後②	0.25H 0.75H
29 回	全体のおさらいと自己紹介(ペアワーク)	事後：自己紹介文を暗唱する。定期試験の範囲の確認。これまでに見聞きした関連圖書やニュースについて書き出し、簡単にまとめる。	1 H
30 回	期末テスト		
31 回	中国の習慣・文化理解Ⅱ/テストの解説/総括	事後：後期の授業(中国語Ⅱ)に向け、テストの見直し。全講義内容の再確認。	1 H
テキスト	『(最新版) 1年生のコミュニケーション中国語』 塚本俊一監修 劉順著 白水社 (2200 円+税) その他、適宜資料を配布しますので、A4のファイルをご用意ください。ノートも必須です。		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 『中日辞典』『日中辞典』ともに小学館 ※授業中に辞書を使用することはありませんが、購入予定者にはこの辞書を薦めます。その他、適宜授業で紹介します。		
授業の評価方法・基準	課題・提出物 50%、期末テスト 30%、小テスト+クイズ 10%、ペアおよびグループワークへの参加度 10% を基準に、総合的に評価します。		
履修条件	外国語科目は必修です。中国語か英語のどちらかを履修してください。 授業では発音練習やペアワークによる会話練習を多く行います。積極的に参加してください。		
関連科目・次のステージ	【関連科目】教養演習、保育内容、表現、異文化理解 【類似科目】外国語コミュニケーション 【上位科目】中国語Ⅱ 前期に「中国語Ⅰ」を履修した人は、後期に「中国語Ⅱ」を履修してください。実生活の場では、学習したことを実践できる機会を積極的に話し、また学校においても科目を超えて相互に活用するよう試みることを。		
オフィスアワー	授業の前夜		
授業や課題に対するフィードバック	提出物は添削し、次週の同じ時間までに返却します。また発表に対しては、その場でコメントします。テストについては、成績のねらいや解説、今後の課題について概説し、返却します。		
受講生へのメッセージ	アルバイト先などで実際に中国語圏からの観光客と接する機会が増えていることと思います。「こんな場面で困りました。」「こんなとき、どう言えばいいの?」などの疑問・質問についても随時お答えします。現場で使える中国語と一緒に楽しく学びましょう! また、中国・台湾関連のニュースや話題には、日頃から意識を向けるよう心がけてください。課題については各自まじめに取り組み、期限を守って提出すること。		
7対1ブリーニングの実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL※課題解決型 () 反転学習 (○) 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	共通	科目名	外国語コミュニケーション	担当者	高良宣孝	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選必修	ナンバリング	GA025	資格・免許要件	保必修、勉必修、小必修				
授業の到達目標	・挨拶や自己紹介／他者紹介等を含む英語による日常的なコミュニケーションを取れるようになる。 ・様々なアクティビティを通して、英語の自然な発音を身につける。 ・英語で文章を書き、相手に正しく情報を伝えることが出来る。 ・英語で書かれた文章から情報や考え等を的確に理解し適切にまとめ他者へ伝えることが出来る。								
授業概要	英語でのコミュニケーション力を向上させるために、授業では以下の点について学びます： (1) 音読や歌等の自然な発音を通して、英語のアクセント・リズム・イントネーションを学び、英語の自然な発音を身につける。 (2) 自己紹介・他者紹介やグループでのプレゼンテーションを通じて、様々な情報を適切に聞き手に伝える。 (3) 話し手から発せられた様々な情報を適切に理解しまとめる。 (4) 世界中で話されている英語を通じて、異文化コミュニケーションについて学び理解を深める。 (5) 英語で書かれた文章を読み、内容を理解し適切にまとめ聞き手へ伝える。								
学習目標 (DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1 週	・ Giving a Self-introduction (1) - 自己紹介の準備・練習					事後：自己紹介の準備・練習		2h	
2 週	・ グループ分け ・ Warm-up Activity ・ Giving a Self-introduction (2) - 自己紹介 (Group Activity)					事前：自己紹介の準備・練習 事後：自己紹介の振り返り		2h 2h	
3 週	・ World Englishes: Let's enjoy English all over the world!					事前：世界の英語の予習 事後：単語クイズの勉強、ハンドアウトの内容の復習		1h 2h	
4 週	・ Vocabulary Quiz (1) & Warm-up Activity ・ Writing Letters (1) - 手紙の書き方を学ぶ ・ Storytelling (1) - 絵本の読み聞かせ：準備・練習					事前：単語クイズの勉強 事後：手紙を書く準備、読み聞かせの準備		1h 2h	
5 週	・ Writing Letters (2) - Writing a Letter in English					事前：手紙の書き方の復習 事後：単語クイズの勉強、手紙の書き方の復習		1h 2h	
6 週	・ Vocabulary Quiz (2) & Warm-up Activity ・ Storytelling (2) - 絵本の読み聞かせ：練習&グループ発表					事前：単語クイズの勉強、読み聞かせの準備 事後：読み聞かせの振り返り		2h 2h	
7 週	・ Introducing Your Friend / Family (1) - 他者紹介の準備・練習					事前：他者紹介の準備 事後：単語クイズの勉強、他者紹介の準備・練習		1h 2h	
8 週	・ Vocabulary Quiz (3) & Warm-up Activity ・ Introducing Your Friend / Family (2) - 他者紹介 (Group Activity)					事前：単語クイズの勉強、他者紹介の準備・練習 事後：他者紹介の振り返り		2h 2h	
9 週	・ Describing People & Things (1) - Describing People & Things の準備					事前：Describing People & Things の準備 事後：単語クイズの勉強、Describing People & Things の準備・練習		1h 2h	
10 週	・ Vocabulary Quiz (4) & Warm-up Activity ・ Describing People & Things (2) - Group Presentation (チーム対抗戦)					事前：単語クイズの勉強、Describing People & Things の準備・練習 事後：Describing People & Things の振り返り		2h 2h	

11 週	- Let's Enjoy English Songs! - Listening (& Singing)	事前：英語の歌を聞いてみる 事後：単語クイズの勉強、授業で聞いた曲を聴いて歌う練習をする	1h 1h
12 週	- Vocabulary Quiz (5) & Warm-up Activity - Let's Enjoy American Culture! (1) - Reading Aloud - Comprehension (& Discussion)	事前：単語クイズの勉強、音読練習、単語・熟語の意味確認、本文の内容の確認（英文和訳） 事後：音読と単語・語句の意味の復習	3h 3h
13 週	- Let's Enjoy American Culture! (2) - Reading Aloud - Comprehension (& Discussion)	事前：音読練習、単語・熟語の意味確認、本文の内容の確認（英文和訳） 事後：単語クイズの勉強、音読と単語・語句の意味の復習	3h 3h
14 週	- Vocabulary Quiz (6) & Warm-up Activity - Let's Enjoy American Culture! (3) - Reading Aloud - Comprehension (& Discussion)	事前：単語クイズの勉強、音読練習、単語・熟語の意味確認、本文の内容の確認（英文和訳） 事後：音読と単語・語句の意味の復習、期末試験の勉強	3h 3h
15 週	Final Exam	事前：期末試験のためにこれまでの資料・ハンドアウトの復習 事後：期末試験の振り返り	5h 1h
16 週	- 期末試験返却及び解説 - 授業のまとめ	事前：期末試験の振り返り	1h
テキスト	講義にて適宜資料を配布します。配布された資料を保存するための A4 ファイルを用意しておいてください。		
参考資料など	講義にて適宜紹介します。		
授業の評価方法・基準	- Vocabulary Quizzes (計 6 回予定) : 10% - Giving a Self-introduction (スクリプト・発表・ワークシート) : 10% - Introducing Your Friend / Family (スクリプト・発表・ワークシート) : 10% - Writing a Letter in English (手紙の提出) : 10% - Storytelling (グループ発表) : 10% - Describing People & Things (スクリプト・発表・ワークシート) : 10% - Assignments : 10% - Final Exam : 30%		
履修条件	- 授業でのペアワーク・グループワークなどに対して積極的かつ協力的であること。 - 英語でのコミュニケーションを図ることにに対してポジティブであること - 毎回の授業に必要な資料（辞書を含む）を持参すること。		
関連科目・次のステップ	「異文化理解」等。 - 授業終了後は、積極的に英語でコミュニケーションを取り、異文化理解を楽しんでもらえればと思います。		
オフィスアワー	授業の前夜。または質問等は電子メール (actaharagint@uovs.ac.jp) ・電話 (099-895-8908) でも受け付けます。		
授業や課題に対するフィードバック	- 課題、単語クイズ、期末試験は添削し、返却する。 - プレゼンテーションの為に学生が作成したスクリプトは、添削しコメントを与える。		
受講生へのメッセージ	- 授業では課題・アクティビティで毎回辞書を使いますので、初回の授業から辞書（英和・和英）を持ってきて下さい。 - 単語クイズやプレゼンテーションがたくさんありますので、欠席しないようにしましょう。 - 授業内での様々なアクティビティを通して、英語でコミュニケーションを取る力を伸ばしましょう。 - 授業内外での課題やアクティビティ等を楽しくこなせるよう工夫しますので、一緒に英語コミュニケーションを楽しみましょう。		
7/24(水)からの実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () デイバート () PBL 課題解決型 () 反転学習 (○) 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	共通	科目名	外国語コミュニケーション	担当者	山城莉乃	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング	GA025	資格・免許要件	保育士資格選必、幼免、小免必修				
授業の到達目標	・自己紹介や自分の意見を伝える、相手のことを知るなどの基本的なコミュニケーションを英語でできるようになる。 ・保育の現場で使えるような英語を身につけ、幼保英検4級レベルの単語を学習する。 ・異文化や多様性にふれ、理解や受容を深めることができるようになる。								
授業概要	効果的なコミュニケーションを図るために必要な知識を高め、実践法を身につける。ペアワークやグループワークを通して、協力して問題解決に取り組む。互いの考えや情報を交換することで多様性にふれ、尊重し合う態度を培う。英語の発音やリズム、言い回しなどの英語特有の表現法を学び、活用できるようにする。								
ディプロマ・ラー (DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ○=DP達成のために特に重要な項目 △=DP達成のために重要な項目 △=DP達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション、Why study English? 自己紹介用のアクティビティー、自己目標の設定、				事後：自己・他者紹介のポイントをまとめる。			2H	
2回	Introducing self and others (自己・他者紹介) How well do you know me? (グループワーク)				事前：自分を知ってもらうための質問リストをまとめる。 事後：グループで取り組んだ内容をまとめる。			2H 2H	
3回	異文化理解①: Diversities in English 英語の多様性 Review the similarities and differences (グループワーク)				事前：言葉の多様性についてリサーチ。 事後：講義を受けての自分の意見をまとめる。			2H 2H	
4回	異文化理解②: Diversities in people 人々の多様性 Diversities in Okinawa (グループワーク)				事前：言葉の多様性についてリサーチ。 事後：講義を受けての自分の意見をまとめる。			2H 2H	
5回	保育の英会話①: 簡単な質問と答え/保育園で働く人々/園舎 (ペアワーク) 単語小テスト1 (#1~24)				事前：授業で取り組む会話に目を通し、分からない単語や表現を調べる。 事後：授業で取り組んだ会話を復習し、活用できるようにする。			2H 2H	
6回	保育の英会話②: 外国人の子供の入園とあいさつ/家族紹介/保育室 (ペアワーク)				事前：授業で取り組む会話に目を通し、分からない単語や表現を調べる。 事後：授業で取り組んだ会話を復習し、活用できるようにする。			2H 2H	
7回	保育の英会話③: 家庭調査票を渡して、質問に答えよう。パートナーへのインタビュー (ペアワーク) 単語小テスト2 (#25~48)				事前：授業で取り組む会話に目を通し、分からない単語や表現を調べる。 事後：授業で取り組んだ会話を復習し、活用できるようにする。			2H 2H	
8回	保育の英会話④: 時間/数/入園時の所持品 (ペアワーク)				事前：授業で取り組む会話に目を通し、分からない単語や表現を調べる。 事後：授業で取り組んだ会話を復習し、活用できるようにする。			2H 2H	
9回	保育の英会話⑤: 時間/数/入園時の所持品 (ペアワーク) 単語小テスト3 (#49~72)				事前：授業で取り組む会話に目を通し、分からない単語や表現を調べる。 事後：授業で取り組んだ会話を復習し、活用できるようにする。			2H 2H	
10回	保育の英会話⑥: 保育園周辺のマップ/道順・案内 (ペアワーク)				事前：授業で取り組む会話に目を通し、分からない単語や表現を調べる。			2H 2H	

		事後：授業で取り組んだ会話を復習し、活用できるようにする。	
11 週	保育の英会話⑦： 子供の遊び/園庭の遊具/感情を表す表現（ペアワーク） 単語小テスト4（#78-96）	事前：授業で取り組む会話に目を通し、分からない単語や表現を調べる。 事後：授業で取り組んだ会話を復習し、活用できるようにする。	2H 2H
12 週	保育の英会話⑧： 食事/分量/排泄（ペアワーク）	事前：授業で取り組む会話に目を通し、分からない単語や表現を調べる。 事後：授業で取り組んだ会話を復習し、活用できるようにする。	2H 2H
13 週	保育の英会話⑨： けんか/けが・病気/症状/応急処置（ペアワーク） 単語小テスト5（#97-120）	事前：授業で取り組む会話に目を通し、分からない単語や表現を調べる。 事後：授業で取り組んだ会話を復習し、活用できるようにする。	2H 2H
14 週	期末テスト対策 Review for the final examination	事前：これまでの会話・単語リストの復習 事後：テスト対策プリントの復習	3H 3H
15 週	期末テスト Final Examination (Listening, Reading and Speaking Test)	事前：なし 事後：なし	
16 週	テストの返却、自己評価と次へのステップ	事前：なし 事後：なし	
テキスト	講義にて資料を配布。		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 適宜、講義において紹介します。		
授業の評価 方法・基準	レポート・課題等 30%、小テスト 20%、期末テスト 50%		
履修条件	英語、コミュニケーションに興味・関心があること。ペアワークやグループワークに積極的に取り組むことができること。自身やクラスメートの学びの機会を尊重する受講マナーで積極的に授業に参加すること。		
履修科目・次の ステージ	「異文化理解」「英語プレゼンテーション」		
オフィスアワー	授業の前後またはメールで受け付けます。メール：r-yamashiro@ptl.owjco.ac.jp		
授業や課題に 対するフィード バック	レポート等の課題については、授業内で概要を説明し、Google Classroomにて提出、返却、コメントします。		
受講生へのメッ セージ	英語がわかるようになる、話すのが楽しくなることをみなさんに体験してもらって、それをみなさんが出会う人たちと共有して「学びは楽しい！」の輪を広げていきましょう！		
7/11/17/22/28 の 実施	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL系課題 解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他 ☐		

科目区分	共通	科目名	教養演習	担当教員	上原勝晴・大石英助	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校教諭二種免許状選択必修、幼稚園教諭二種免許状選択必修				
授業の到達目標	教員を志望する学生に対して、教員として社会人として必要な資質能力を身に付けるとともに、学級経営や授業づくりに必要な実践的指導力を身に付ける。また、授業での学びをインターンシップ、教育実習及び関連する科目等に生かせるようにする。								
授業概要	今、教員としての役割を効果的に遂行する能力（教師力）が求められている。そこで、養成段階における教養演習を通して、教員としての資質能力、使命感、実践的実践力等の向上を目指す。また、小学校学習指導要領や本県における教育の現状と課題について理解を深めるとともに、実践事例等を通して「子どもが好き」「学ぶのが好き」「教えるのが好き」という教員の最も基本的な資質能力を身に付けさせる。なお、テーマによってワークショップ等を取り入れ、参加型のアクティブラーニングの授業にしていきたい。								
ディプロマ（DP）と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション、(自己紹介、シラバス、アンケート等)				事前：－ 事後：シラバスの確認等			－ 2H	
2回	教員に必要な資質・能力について自分の考えをまとめる。(幼・小・中・高等学校の恩師を思い出してまとめる)				事前：「教員の資質能力等」の予習 事後：ワークシート、資料等で課題の復習			2H 2H	
3回	今、求められている教師の資質・能力と役割等に理解する。				事前：学習指導要領を読む 事後：ワークシート、資料等で授業の復習			2H 2H	
4回	小学校学習指導要領「前文」の写本と重要語句の意味を調べる。				事前：小学校学習指導要領「前文」を読む 事後：ワークシート、資料等で課題について復習			2H 2H	
5回	小学校学習指導要領について理解する。(法的な位置づけ、内容、改訂のポイント等) ◎NIE新聞切り抜き開始(子ども、学校、教育等)				事前：小学校学習指導要領を読む 事後：ワークシート、資料等で授業の復習			2H 2H	
6回	小・中・高等学校で使用した教科書について、覚えていた教材等をまとめる。(教科書の法的な位置づけについても調べる)				事前：小学校から高校までの教科書を読み返す 事後：ワークシート、資料等で課題について復習			2H 2H	
7回	授業づくり①(主たる教材・教科書の使い方、教材研究、授業の三要素、授業の基本型等)				事前：授業の構成要素について予習 事後：ワークシート、資料等で授業の復習			2H 2H	
8回	「学校教育における指導の努力点」の概要についてまとめる。小・中・高等学校で印象に残っている授業についてまとめる。				事前：指導の努力点について予習 事後：ワークシート、資料等で課題について復習			2H 2H	
9回	授業づくり②(沖縄県が目指す児童像、授業等)				事前：目指す児童像、授業像について予習 事後：ワークシート、資料等で授業について復習			2H 2H	
10回	小・中・高等学校の教室環境をまとめる。(どこに、どんな物があり、どんな掲示物があったか等) ◎NIE新聞切り抜きまとめ				事前：小学校から高校までの教室を思い出す 事後：ワークシート、資料等で課題について復習			2H 2H	
11回	学級経営についてまとめる。(目標、教室経営、支持的風土のある学級づくりの具体的方法等)				事前：学級経営について予習する 事後：ワークシート、資料等で授業について復習			2H 2H	
12回	私の考える理想の教室環境(壁面構成等を立面図にまとめる)				事前：理想の教室環境を考える 事後：ワークシート、資料等で課題について復習			2H 2H	
13回	本県教育の今日的課題(学力向上、いじめ、不登校、貧困問題、SDGsの推進等)				事前：いじめ、不登校の問題について考える 事後：いじめ、不登校についての復習			2H 2H	
14回	試験準備(原稿用紙の使い方、校読調の使い方、論文・レポートの項立て等)				事前：貧困・児童虐待について考える 事後：授業の復習と試験準備			2H 4H	

15 週	授業のまとめ・試験	事前：試験準備 事後：授業の振り返り及び資料の整理等	2 H 1 H
16 週	授業のまとめ（学修ファイルの整理、提出）	事前：既習の自己のキャリア教育のまとめ 事後：資料の整理等	2 H 1 H
学年スト	特になし。授業で配布する資料等を活用する。		
参考資料など	小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）「学校教育における指導の努力点」、「学力向上推進プロジェクト」、「問い」が生まれる授業サポートガイド等の本県の実践（沖縄県教育委員会）		
授業の評価 方法・基準	試験（40%）、課題・授業振り返り（40%）、ペア・グループワーク、発表等（10点）学修ファイル（10点）		
履修条件	学習指導要領、沖縄県教育委員会の施策の理解に努めること。「教員になる」志望を確実にするよう、自主的・計画的に学習を実行すること。		
関連科目・次のス テージ	教師論、教育課程総論及び各教科等に関する科目との関連が深いので、日々の授業を大切にすること。また、インターンシップや教育実習に生かすように努めること。		
オフィスアワー	授業終了後。その他必要に応じて設定しますので、事前に相談してください。		
授業や課題に対 するフィードバッ ク	試験、外部講師の授業の内容及び授業で活用した資料について、クラス全体として理解が不十分な箇所等を再度解説し、理解を図るよう努めます。		
受講生へのメッ セージ	学びの場として、本館2階の「図書館」や「学びの部屋」「自習室」を活用しよう。また、教育研究部の「教員対策講座」を積極的に活用しよう。		
7ヶ月間の 実践	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他（ ）		

科目区分	共通	科目名	教養演習	担当者	上原 勝晴	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校教諭二種免許状選択必修、幼稚園教諭二種免許状選択必修				
授業の到達目標	保育者を志望する学生に対して、保育者として社会人として必要な資質・能力を身に付けるとともに、学級経営や保育実践に必要な実践的指導力を身に付ける。また、本授業での学びをインターンシップ、保育・教育実習及び関連する科目等に生かせるようにする。								
授業概要	今、保育者としての役割を効果的に遂行する資質・能力が求められている。そこで、保育者の養成段階における教養演習を通して、保育者としての資質・能力、使命感、実践的実践力等の向上を目指すとともに、社会人としての必要な資質・能力の基礎を身につける。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育指導要領と小学校学習指導要領や本県における保育・教育の現状と課題等について理解を深めるとともに、実践事例等を通して「子どもが好き」「学ぶのが好き」「教えるのが好き」という保育者・教員の最も基本的な資質能力を身に付けさせる。なお、テーマによってワークショップ等を取り入れ、参加型のアクティブラーニングの授業にしていきたい。								
ディベロップメントと授業の対応	① ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	② ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	③ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	④ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	●=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1 回	オリエンテーション、(自己紹介、シラバス、アンケート等)					事前：— 事後：シラバスの確認等		— 2 H	
2 回	社会人として必要な接遇・マナー①：必要性など各自の考えをまとめる。					事前：接遇・マナーに関する予習 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
3 回	社会人として必要な接遇・マナー②：接遇・マナーの理解と実践					事前：接遇・マナーの予習 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
4 回	読書活動（読み聞かせ等）及び新聞の活用等について①					事前：読書活動（読み聞かせ）に関する予習 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
5 回	読書活動（読み聞かせの実践）、新聞の活用等（NIE）② ※新聞切り抜き開始（幼稚園・こども、教育等）					事前：読書活動（読み聞かせ）に関する予習 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
6 回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、読み、重要語句の意味等を調べる。①					事前：教育要領等についての予習 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
7 回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、そのポイント等を理解する。②					事前：教育要領等についての予習 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
8 回	保育者になる①：自分の目指す保育者像、保育者の仕事等について、各自の考えをまとめる。					事前：保育者像等について考える 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
9 回	保育者になる②：保育者の仕事や意義等を通して幼児教育について実践例を通して理解する。					事前：保育者像等について考える 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
10 回	こども理解①：こどもの発達について各自で調べ、自分なりに考える。（年齢、遊び、保り方等）					事前：こどもの発達等について考える 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
11 回	こども理解②：こどもの発達について、具体的な実践例等を通して理解する。（学級づくり、遊びづくり等）					事前：こどもの発達等について考える 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
12 回	本県における幼児教育の課題等①：待機児童、遊ぶ環境					事前：幼児教育の課題等について考える 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	
13 回	本県における幼児教育の課題②：幼児教育の課題の対応策等、ワークショップを通して考える。					事前：幼児教育の課題等について考える 事後：ワークシート、資料等で授業の復習		2 H 2 H	

14 週	本県におけるSDGの取組及び試験の準備（論文やレポートの作成の仕方等）	事前：SDG等について考える 事後：授業の振り返りと試験準備	2 H 4 H
15 週	試験	事前：試験準備 事後：授業の振り返り及び資料の整理等	2 H 1 H
16 週	授業のまとめ（ファイルの整理、提出）	事前：授業のまとめ 事後：資料の整理、提出等	2 H 1 H
テキスト	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説		
参考資料など	小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）「学校教育における指導の努力点」、「学力向上推進プロジェクト」等の本県の教育施策（沖縄県教育委員会）		
授業の評価方法・基準	試験（50%）、ペア・グループワーク・発表等（40%）、課題・毎時間の授業評価アンケート（10%）		
履修条件	学習指導要領、沖縄県教育委員会の施策の理解に努めること。「教員になる」志望を確実にするよう、自主的・計画的に学習を実行すること。		
関連科目・次のステップ	教師論、教育課程総論及び各教科等に関する科目との関連が深いので、日々の授業を大切にすること。また、インターンシップや教育実習に生かすように努めること。		
オフィスアワー	授業終了後。その他必要に応じて設定しますので、事前に相談してください。		
授業や課題に対するフィードバック	試験、外部講師の授業の内容及び授業で活用した資料について、クラス全体として理解が不十分な箇所等を再度解説し、理解を図るよう努めます。		
受講生へのメッセージ	学びの場として、本館2階の「図書館」や「学びの部屋」「自習室」を活用しよう。また、教育研究部の「教員対策講座」を積極的に活用しよう。		
7月17日（金）の授業	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他（ ）		

科目区分	共通	科目名	健康・運動実技	担当教員	山入 恵子	授業形態	実技	単位数	1
卒業要件	必修	ナンバリング	CA027	資格・免許要件	幼必修・小必修				
授業の到達目標	幼児の健康・安全や人間関係などの指導に携わる際の視点や基本的姿勢を身につける 幼児が安心感を持って、明るく伸び伸びと行動することの援助ができる体力を養う								
授業概要	・バドミントン・バレーボール・バスケットボールの技能を獲得し、獲得した技能で工夫した楽しみ方を学ぶ ・仲間とともに実践した活動が、運動することが楽しいと感じる幼児を育てる力となるように体験を深める								
ディプロマ (DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1 週	課題 1 「体づくり運動」日常的に実践できるトレーニングを考える				事後：体力づくり運動(トレーニング)を考え、実施する		1H		
2 週	・オリエンテーション(到達目標・授業概要・評価・活動方法等) ・体づくり運動(体力測定等)				事後：授業の目標や流れを読み返し、今後の授業をイメージする 体力づくり(トレーニング)を行う		0.5H 1H		
3 週	課題 2 「バドミントンのルール」を調べる				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
4 週	バドミントン① (シングル) 簡易ゲーム→基本的な技の練習→簡易ゲーム				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
5 週	(補講) バドミントン② (ダブルス) 弱点の練習→ゲーム→弱点の練習→ゲーム				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
6 週	バドミントン③ グループ対抗ゲーム 弱点の練習→ゲーム				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
7 週	課題 3 「バレーボールのルール」を調べる				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
8 週	バレーボール① グループ編成→ゲーム→グループ再編成→ゲーム				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
9 週	課題 4 「バレーボールの練習方法」を調べる				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
10 週	バレーボール② 弱点の練習→グループ対抗リーグ戦				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
11 週	課題 5 「バスケットボールのルール」を調べる				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
12 週	バスケットボール① グループ編成→ゲーム→グループ再編成→ゲーム				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
13 週	課題 6 「バスケットボールの練習方法」を考える				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
14 週	バスケットボール② 弱点の練習→グループ対抗リーグ戦				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
15 週	課題 7 「高齢化社会における運動の意義」について				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		
16 週	体づくり運動(体力測定)・授業のまとめ				事後：体力づくり(トレーニング)を行う		1H		

テキスト	なし
参考資料など	適宜プリントを配布または提示する
授業の評価 方法・基準	技能の向上度；30% 個人カードの記入状況(振り返りや次時の課題の捉え方の深み)；20% 安全・衛生への配慮；15% グループワークへの参加態度(リーダー性や協力的態度等)；20% 授業態度(準備・片付け・整理)への配慮；15%
履修条件	日常より体づくり(スポーツ含む)に親しむ
関連科目・次のス テージ	運動習慣を身につける 幼児の活動に関心を持ち、あらゆる場で幼児の発達段階や身体活動を観察する
オフィスアワー	授業後の時間に体育館 事前に連絡があれば他の時間でも設定可能
授業や課題に対 するフィードバッ ク	体づくり運動については、時間外学習やW-up・C-downで実施し生活化を目指す 各球技については、工夫した練習を充実させることにより、レベルアップしたゲームが楽しめるようにする
受講生へのメッ セージ	幼児の活動をしっかり支援できる体力と配慮のある保育士をめざして、楽しい授業をつくっていきましょう
アクティビティの 実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック () 動画等メディア () ディベート () PBL系課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他()

科目区分	共通	科目名	健康・運動実技	指導者	田島 佳代子	授業形態	実技	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校二種必修・幼稚園二種必修・保育士必修				
授業の到達目標	様々な運動種目を通して身体を動かす事の楽しさを知り、保育士として幼児が明るく伸び伸びと行動する援助ができる体力を養う。								
授業概要	様々な運動種目を通して、身体を動かす事の楽しさを知り、仲間と協力する事で社会に出た時のコミュニケーション能力を育成する。								
ディプロマ (DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション、バレーボールのルール確認・基本練習 遠隔授業①					事後：オリエンテーションの振り返り		1	
2回	バレーボール：チーム編成・練習試合 対面授業①					事前：ルールの確認 事後：練習試合の振り返り		1	
3回	バレーボール：リーグ戦1 遠隔授業②					事前：ポジションの確認 事後：リーグ戦の振り返り		1	
4回	バレーボール：リーグ戦2 対面授業②					事前：ポジションの確認 事後：リーグ戦の振り返り		1	
5回	バレーボール：トーナメント戦1 遠隔授業③					事前：チーム内連携の確認 事後：チーム内連携を意識した振り返り		1	
6回	バレーボール：トーナメント戦2 対面授業③					事前：チーム内連携の確認 事後：チーム内連携を意識した振り返り		1	
7回	卓球：ルール確認・基本練習/ミット打ち：基本練習 遠隔授業④					事前：ルールの確認 事後：技術向上を意識した振り返り		1	
8回	卓球：チーム分け・練習試合/ミット打ち：基本練習 対面授業④					事前：ペア内役割の確認 事後：技術向上を意識した振り返り		1	
9回	卓球：リーグ戦1/ミット打ち：護身術 遠隔授業⑤					事前：ペア内役割の確認 事後：技術向上を意識した振り返り		1	
10回	卓球：リーグ戦2/ミット打ち：護身術 対面授業⑤					事前：ペア内役割の確認 事後：技術向上を意識した振り返り		1	
11回	バドミントン：ルール確認・基本練習 遠隔授業⑥					事前：ルールの確認 事後：技術向上を意識した振り返り		1	
12回	バドミントン：チーム分け・練習試合 対面授業⑥					事前：ペア内動き方の確認 事後：技術向上を意識した振り返り		1	
13回	バドミントン：リーグ戦1 遠隔授業⑦					事前：ペア内動き方の確認 事後：技術向上を意識した振り返り		1	
14回	バドミントン：リーグ戦2 対面授業⑦					事前：ペア内動き方の確認 事後：技術向上を意識した振り返り		1	
15回	バドミントン：トーナメント戦 遠隔授業⑧					事前：ペア内動き方の確認 事後：運動会の計画を立てる		1	
16回	テスト・授業のまとめ：運動会 対面授業⑧					事前：運動会の準備・実施 事後：運動会全体の振り返り		1	

科目区分	共通	科目名	健康・運動実技	担当者	奥部 尚進	授業形態	実技	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	CA027	資格・免許要件	幼稚園・小学校教諭二種免許状必修、保育士資格選択必修				
授業の到達目標	1. 各競技種目のルールや特性を理解し、自己の体力・技能レベルに即して段階的に技能を習得できる。 2. 運動・スポーツへの多様な関わり方（行う・見る・支える）ができる。 3. 主体的に自他の安全を確保し、他者との協働的な活動を通して、より良い人間関係を築くことができる。								
授業概要	生涯を通じて運動・スポーツを継続する資質・能力を育むために、各競技種目の技能を習得する活動を通して、運動への様々な関わり方を主体的に実践し、自他の健康を保持増進していくための態度を養い、運動・スポーツの必要性を理解する。								
ディプロマラー (DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎＝DP達成の為に特に重要な項目 ○＝DP達成の為に重要な項目 △＝DP達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション、アイスブレイキング					特になし			
2回	【体づくり運動】 体ほぐしの運動					事前：自己の運動習慣及び日常の運動実践について考える。		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
3回	【体づくり運動】 体ほぐしの運動、体力を高める運動					事前：自己の課題に見合った運動を行う		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
4回	【体づくり運動】 体ほぐしの運動、体力を高める運動					事前：自己の課題に見合った運動を行う		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
5回	【ソフトバレーボール】 基礎練習、簡易ゲーム					事前：学習する競技について調べる。		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
6回	【バレーボール】 基礎練習、ルール等の調整、簡易ゲーム					事前：学習する競技について調べる。		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
7回	【バレーボール】 基礎練習、ルール等の調整、ゲーム					事前：学習する競技について調べる。		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
8回	【ボール遊び・ドッジボール】 ボールを用いた運動、基礎練習、ゲーム					事前：学習する競技について調べる。		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
9回	【様々なドッジボール】 基礎練習、ルール等の調整、ゲーム					事前：学習する競技について調べる。		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
10回	【ドッジビー、アルティメット】 基礎練習、ルール等の調整、ゲーム					事前：学習する競技について調べる。		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
11回	【ドッジビー、アルティメット】 基礎練習、ルール等の調整、ゲーム					事前：学習する競技について調べる。		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	
12回	【バドミントン】 基礎練習、シングルスでのゲーム					事前：学習する競技について調べる。		1時間	
						事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する		1時間	

13回	【バドミントン】 基礎練習、ダブルスでのゲーム	事前：学習する競技について調べる。 事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する	1時間 1時間
14回	【バドミントン】 基礎練習、団体戦でのゲーム	事前：学習する競技について調べる。 事後：学習した競技における自らの課題を分析し、授業外で練習する	1時間 1時間
15回	【スポーツ大会】 予行演習、ルール等の調整	事前・事後：スポーツ大会の準備	2時間
16回	【スポーツ大会・総合評価】 運営・実施・振り返り	事前：スポーツ大会の準備	1時間
テキスト	特になし		
参考資料など	特になし		
授業の評価 方法・基準	授業態度 60% 毎時間のリフレクションシート 40%		
履修条件	運動着を着用し、体育館シューズを持参すること。 大学が実施する「定期健康診断」を受信していること。 学校教育研究災害障害保険等に加入していることが望ましい。		
関連科目・次のステップ	「健康と運動の科学」 運動・スポーツの必要性を理解し、日常生活の中で習慣的に運動を実施して欲しい。		
オフィスアワー	授業前後		
授業や課題に対するフィードバック	運動技能に関するフィードバックは授業内で即時行うよう努める。課題等に関しては e-mail 等の通信機能を活用する。		
受講生へのメッセージ	医師より運動制限されている学生は事前に申し出てください。		
7つの授業の 実践	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 (○) ピアサポート (○) 質問及びフィードバック () 動画等メディア () ディベート () PBL 課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	共通	科目名	健康と運動の科学	担当者	石垣愛一郎	授業形態	講義	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校教諭二種免許状(必修)・幼稚園教諭二種免許状(必修)・保育士資格免許(選択必修)				
授業の到達目標	スポーツ心理学を中心としたメンタル技法の応用を講義、実技を通して理解する。受講者の自己を見つめる機会を設け、内面的向上につながる様々な方法を学び、実践的方法論を習得する。								
授業概要	教室または体育館で行う講義及び実践、また遠隔授業を通して自分自身を知り、自己成長し続けるための様々なヒントを考える。								
ディプロマ(DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りをもち、心豊かな感性を身につける。							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎	⑤ DP 達成の為に特に重要な項目 ②							
	○	DP 達成の為に重要な項目 ③、④							
	△	DP 達成の為に望ましい項目 ①							
		授業計画				時間外学習		時間	
1回	授業内容説明 自己紹介 目標設定と「動機づけ」の関係について ※面接授業				事後：授業でゲームを通して学んだ自分自身の「やる気」について振り返り、考える。		(1)		
2回	セルフトークについて ～自分の声に耳を傾ける～ ※遠隔授業				事後：自分の内なる声の存在を認識し、今後活かすために振り返り、日常で実践する。		(1)		
3回	リラックスと奮起のバランスについて (体育館集合) ※面接授業				事後：実践を通して学んだリラックス法と奮起する方法を振り返り、模索し、確立する。		(1)		
4回	エンブティチュア(空椅子の技法)の実践 ～客観性について考え、実践する～ ※遠隔授業				事後：自身の客観性を将来に向けてどう活かすか計画を立てる。		(1)		
5回	集中力を考える ～「今、ここで」～ ※面接授業				事後：配布資料等を通じて学んだ内容を振り返り、自身の日常への応用を考える。		(1)		
6回	セルフイメージについて ～自分は自分をどうみているのか～ ※遠隔授業				事後：授業で学んだテーマについて資料を振り返り、今後の自身の人生へどう当てはめていくかを考える。		(1)		
7回	コミュニケーションについて ～解決志向アプローチの実践～ ※面接授業				事後：授業で学んだコミュニケーションの取り方を振り返り、自身のコミュニケーションの活かし方を考える。		(1)		
8回	これまでのまとめ、レポート課題の説明、提出期限を決める、質疑応答、その他 ※遠隔授業				事後：授業内容を自身に当てはめて振り返り、これまでの学びを総合的にまとめて、最終レポートのテーマ、内容を決定、仕上げる。		(3)		

テキスト	なし
参考資料など	参考資料の配布
授業の評価 方法・基準	授業に対する積極的態度 40%、課題の提出：配布資料から出される課題の提出 40%、 レポート提出：授業を通して学んだこと及び実践した体験談をまとめる 20%
履修条件	授業内で学んだこと理論を実践することで自分自身の内的向上を前向きに取り組むことに興味を持つこと。
関連科目・次のス テージ	「こういう教師（将来像）になりたい」というイメージを明確にして、それに近づく努力をすることで 2 年間の全ての履修に なげる。
オフィスアワー	事前に打ち合わせをした上で、空き時間すべてをオフィスアワーとする。石垣研究室：5 階 13 番 研究室
授業や課題に対 するフィードバッ ク	毎回テーマに沿って授業を進めるが、内容を積み上げ方式にしているため、これまでのテーマ、内容、応用の実行計画を必要 に応じて各講義内容に含める。
受講生へのメッ セージ	自分自身の内面と楽しく向き合い、学びを深め、今後の学生生活に活かしましょう！ 連絡先：ishigaki-akio@ipc.ac.jp
7 行（グループ）の 実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション (○) プロジェクト学習 (○) ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディ (○) ディベート (○) PBL 系課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()

科目区分	共通	科目名	沖縄の方言（児童教育）	担当者	大田 利津子	授業形態	講義・演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		免許・資格要件等					
授業の到達目標	沖縄の文化、精神世界は沖縄方言（しまくとぅば）に込められてきた。そのことを学び、社会人として、沖縄について語れる力を身につける。方言で、挨拶、自己紹介ができるようにする。								
授業概要	沖縄の歴史を確認し、沖縄の方言（言葉）の歴史を学ぶ。種々の沖縄の文化を取り上げ、授業の言葉も方言を多様しつつ、その内容、精神世界を学びあいたい。その中で、自分が受け継ぎたい事、受け継ぎたい言葉をみつける。沖縄の美しい言葉で作られた、歌、ことわざ、物語など、耳で聞き、発声し、覚え、話せるようにしたい。県内各地の方言の現状も話題にするが、方言の習得、使用は中南部方言とし、那覇方言を中心に行う。								
ディプロマポリシーと授業の対応	◎	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。							
	○	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。							
	1回	沖縄の方言	私の方言環境・方言であいさつ	事前：自分の方言歴史・環境を調べる（1h） 事後：方言であいさつしてみよう（1h）					
	2回	沖縄方言の歴史	沖縄の歴史と方言	事後：配布プリントを熟読する（2h）					
	3回	沖縄方言 特質 I	日本語と琉球語	事後：配布プリントを熟読する（2h）					
	4回	沖縄方言 特質 II	文法入門	事後：配布プリントを熟読する（2h）					
	5回	方言五十音表をつくる		(遠隔)	事前：配布Pの中から方言語彙を集める1h 事後：五十音表をつくる				
	6回	沖縄の伝承文化	人生儀礼・年中行事	事後：自分の伝承文化体験を振り返る（1h）					
	7回	わらべうた、民謡、方言の歌詞を読み解く I		事後：歌ってみよう（1h）					
	8回	わらべうた、民謡、方言の歌詞を読み解く II		(遠隔)	事後：歌ってみよう（1h）				
	9回	沖縄の民謡 I	歴史と特質	事後：沖縄の民謡絵本・民謡集を読む（2h）					
	10回	沖縄の民謡 II	沖縄各地の語りを方言で聞く	(遠隔)	事後：まわりの人に語ってみよう（1h）				
	11回	ことわざ（黄金言葉）I		事後：配布資料を音読する（2h）					
	12回	ことわざ（黄金言葉）II		(遠隔)	事後：自分分の黄金言葉を見つける（2h）				
	13回	沖縄の伝統料理 I	（料理名・材料・用語の語彙を知る）	事前：方言でレシピを作ろう（1h）					
	14回	沖縄の伝統料理 II	沖縄料理を作ろう（自宅実習）	(遠隔)	事後：自宅でも作ろう（2h）				
	15回	方言で自己紹介をつくる		(遠隔)	事後：実際に行ってみよう（1h）				
	16回	テスト							
テキスト	『高校生のための「郷土のことば」～沖縄県（琉球）の方言』沖縄県教育委員会発行 『読谷村のしまくとぅば～子どもの成長～ 読谷村役場発行 ￥100 『那覇の方言 那覇市方言記録保存調査報告書』那覇市教育委員会・沖縄言語研究センター発行 コピー配布								
参考資料等	『沖縄語辞典』国立国語研究所編・大蔵省印刷局発行 『沖縄語辞典』内間直仁・野原三編 編著／研究者発行								
授業の評価方法・基準	レポート、実技 50% テスト 50%								
履修条件	沖縄タイムス、琉球新報などの地元新聞を読む、文化欄、方言（しまくとぅば）関連の記事に注目する。								
関連科目・次のステージ	覚えた方言を実際に使い、年配の方々に話しかけてみよう。コミュニケーション ツールとして役立てよう。								
学びの場	授業終了後。分からない方言訳についても、おいにたずねてください。								
受講生へのメッセージ	沖縄で生まれたこと、沖縄に今、住んで居ることが、少しでも誇りに思えるようになって欲しい。そのために、伝えたいことがたくさんあります。一緒に見つけましょう。								
アクティブラーニングの実施	(○) プレゼンテーション (○) 動画等メディア (○) PBL(課題解決型学習)								

令和3年度（2021

年度）

科目区分	共通	科目名	生活と芸術	担当者	玉城哲人	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件					
授業の到達目標	「美術」について多面的に考察し、「自分なりのものの見方・考え方」（アート思考）を身につけ、主体的に学び続けることで、児童・幼児の「豊かな感性」の育成と「創造的な活動」の指導に活かすことができることを到達目標とする。								
授業概要	・「美術表現」の変遷と、多種多様なアートの制作や絵画技法の演習を通して、「ものの見方を広げ、自分なりの答えを生み出す」ことに力点をおいた表現を考察しながら授業を進める。								
ディプロマ（DP）と授業の対応	◎	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1 回（面接授業）	・オリエンテーション：授業概要の説明、実技演習のねらい、受講心得、評価の方法等について ・実技演習：「身に付けているものを表現してみよう」[靴]				事後：思考			1 時間	
2 回（通隔授業）	・実技演習：「自画像を描く」				事前： 事後：思考			2 時間	
3 回（面接授業）	・「イメージと表現」：演習「絵の秘密」を通して				事前： 事後：思考			2 時間	
4 回（通隔授業）	・実技演習：「リアルなサイコロを描く」				事前： 事後：思考			2 時間	
5 回（面接授業）	・「アート思考ってなんだろう？」 演習：完全なタンポポ ・[靴] [自画像] [サイコロ] を鑑賞して：「なぜ？どこが良いと思うのか」				事前： 事後：思考			2 時間	
6 回（通隔授業）	・好きな音楽を紙の上に表現してみよう！ 一音を色に、リズムを形に				事前： 事後：思考			2 時間	
7 回（面接授業）	・アート作品の「見方」とは？ 一想像力をかき立てるもの				事前： 事後：思考			2 時間	
8 回（通隔授業）	・アートの常識をめぐる5つの質問				事前： 事後：思考			2 時間	
9 回（面接授業）	・アートの「常識」ってどんなもの？ 一「視覚」から「思考」へ				事前： 事後：思考			2 時間	
10 回（通隔授業）	・5 分間のラクガキ				事前： 事後：思考			2 時間	
11 回（面接授業）	・私たちの目には「なに」が見えている？ 一「窓」から「床」へ ・アートってなんだ？ 一アート思考の極致				事前： 事後：思考			2 時間	
12 回（通隔授業）	・「愛すること」がある人のアート思考				事前： 事後：思考			2 時間	
13 回（面接授業）	・「NEW ART」				事前： 事後：思考			2 時間	
14 回（通隔授業）	・「ミクストメディア」又は「コラージュ」（1）				事前： 事後：制作			2 時間	
15 回（面接授業）	・「ミクストメディア」又は「コラージュ」（2）				事前： 事後：制作			2 時間	

16 回	・まとめ	事前： 事後：	
テキスト	随時資料等を配布する		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 「視覚デザイン」（ワークスコーポレーション）、「13 歳からのアート思考」（ダイヤモンド社）		
授業の評価 方法・基準	提出物（レポート・作品等）90%、授業態度 10%をもって総合的に評価する。		
履修条件	特になし		
関連科目・次のス テージ	関連科目：「子どもの造形表現Ⅰ・Ⅱ」、「教材研究図工」、「ゼミナール」		
オフィスアワー	授業の前後、月曜日 3 校時、金曜日 5 校時、プレイルーム、玉城研究室（5 階 18 番）		
授業や課題に対 するフィードバッ ク	授業・実技演習終了後や作品提出後の質疑応答を通して、アートの視点や技能等について解説する		
受講生へのメッ セージ	・「アート思考」の知識や技能は、保育や学校の現場で活かすことができます。楽しく取り組んでください。 【お願い】 ・レポート、作品等の提出期限は守ってください。 ・授業時間内で作品が完成出来ない場合は、事後に補習してください。 ・欠席した場合は、必ず「欠席届」の提出と「課題の申し出」をしてください。（個別で対応します） ・各自で材料や道具等を用意することがあります。 ・進度によっては内容を変更することがあります。		
アクティブラーニングの 実施	（○）ペアワーク （ ）プレゼンテーション （ ）フィールドワーク （ ）ロールプレイング （ ）振り返りシート （○）ディスカッション （ ）プロジェクト学習 （ ）ピアサポート （○）質問及びフィードバック （○）動画等メディア （ ）ディベート （ ）PBL※課題解決型 （ ）反転学習 （○）小テスト （ ）ゲストスピーカー その他（制作演習）		

科目区分	共通	科目名	経済と生活	担当教	野原 寿加子	単位数	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件					
授業の到達目標	お金の使い方や管理の仕方を身につける。								
授業概要	社会人になって自分でお金を稼ぐようになると、限られた収入の中で支出をコントロールし、収入の範囲で生活しなくてはならなくなる。この授業では家計管理、貯蓄、仕事とお金、結婚、住まい、保険、老後資金、投資など、お金に関して社会人が知っておきたい基本的な知識を幅広く学んでいく。								
ディプロマ （関）と授業の対 応	①	① 常に問題意識を持ち、積極的な課題の発見やそれに対する解決方法を立案・実行できる能力（課題発見力・計画力・創造力・実行力）							
	②	② 自分の考えをきちんと順序立てて説明し、相手の理解する能力（コミュニケーション能力）							
	③	③ 結果を冷静に振り返り、統括し、周囲と共有することのできる能力（状況把握力・前に進み出す力）							
		●=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目							
	授業計画				時間外学習			時間	
1 回	オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の読み返し			1.5H	
2 回	お金とは				事前：教科書第一章 予習 事後：配布資料の読み返し			0.5H 0.5H	
3 回	貯蓄				事前：教科書第二章 予習 事後：配布資料の読み返し			0.5H 0.5H	
4 回	仕事とお金				事前：教科書第三章 予習 事後：配布資料の読み返し			0.5H 0.5H	
5 回	結婚とお金				事前：教科書第四章 予習 事後：配布資料の読み返し			0.5H 0.5H	
6 回	家や車を購入する				事前：教科書第五章 予習 事後：配布資料の読み返し			0.5H 0.5H	
7 回	保険				事前：教科書第六章 予習 事後：配布資料の読み返し			0.5H 0.5H	
8 回	老後資金について				事前：教科書第七章 予習 事後：配布資料の読み返し			0.5H 0.5H	
9 回	投資について考える				事前：教科書第八章 予習 事後：配布資料の読み返し			0.5H 0.5H	
10 回	ディスカッション				事前：配布資料 予習 事後：他者の意見と自身の考えをまとめ、意見を整理			1H 1H	
11 回	ニュースの中のお金①				事前：配布資料 予習 事後：関連内容について情報を収集する			1H 1H	
12 回	ニュースの中のお金②				事前：配布資料 予習 事後：関連内容について情報を収集する			1H 1H	
13 回	ニュースの中のお金③				事前：配布資料 予習 事後：関連内容について情報を収集する			1H 1H	
14 回	ディスカッション				事前：配布資料 予習 事後：他者の意見と自身の考えをまとめ、意見を整理			1H 1H	
15 回	まとめ				事前：教科書の内容の復習 事後：わかった内容や疑問点の整理、解決			1H 1H	
16 回	試験				事前：教科書の内容の復習 事後：			1H	

テキスト	「お金の基本」 丸田隆 新星出版社 ¥1,000+税
参考資料など	【購入を必須としないもの】 もしドラえもん「ひみつ道具」が実現したら
授業の評価 方法・基準	期末試験 70%、提出課題（レポート） 20%、授業・ディスカッションへの参加度 10%
履修条件	受講マナーに注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと。
開講科目・次のス テージ	
オフィスアワー	授業の前後。
授業や課題に対 するフィードバッ ク	提出課題（レポート）については、全体的な傾向、課題について解説し、返却いたします。
受講生へのメッ セージ	毎日、ニュースと新聞の目を通すように意識することを心掛けてください。
7月17日からの 実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック () 動画等メディア () ディベート () PBL※課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()

科目区分	共通	科目名	社会と情報	担当者	島田 陽也	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選必修	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格：選択必修				
授業の到達目標	・情報通信技術（ICT）が社会のあらゆる分野にまで浸透した現在社会の特徴を他者に説明することが出来る。 ・情報化によりメディアの形態が変化の中で「メディアリテラシー（情報を読み解く力・活用する力）」を習得している。								
授業概要	情報の重要性を学ぶ科目である。キーワードはメディアとコミュニケーション、メディアについての理解と情報を適切に判断する力やコミュニケーション能力を高めてもらう機会を提供する。学生の興味・関心や理解度に応じて内容を調整することもあるが、概ね授業計画に示した内容で進めていく。プロジェクターやテキスト配布に添って講義形式で進める。最初はメディアとコミュニケーションの最先端に関わる分野の専門家をゲストとして招くことも予定にしている。グループワークやプレゼンテーションによる双方向のコミュニケーションを重視した講義にしていく。								
学習目標	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。								
授業計画	○＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画		時間外学習				
1 講	オリエンテーション 講義内容の説明 講師の自己紹介			事前：情報化社会に関する情報を収集 事後：配布資料の読返し、シラバス再確認	2 H 2 H				
2 講	人間にとって情報とは何か？ 「情報」「データ」「知識」の違い		(情報の本質)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
3 講	社会にとって情報とは何か？ 「情報化社会」について		(情報社会)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
4 講	情報通信技術（ICT）の進化（Ⅰ） 電気通信の始まりからコンピューターまで		(デジタルワーク)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
5 講	情報通信技術（ICT）の進化（Ⅱ） インターネットとスマホの出現まで		(情報の流通)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
6 講	情報通信技術（ICT）の進化（Ⅲ） AIとIoTとビックデータが創る新たな時代とは		(未来社会)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：ICTについてレポートに纏める	2 H 2 H				
7 講	社会とメディア（Ⅰ） メディアとは何か？その本質について		(メディア)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
8 講	社会とメディア（Ⅱ） マスメディアとは何か？その役割について		(マスメディア)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
9 講	社会とメディア（Ⅲ） インターネットとマスメディアの関係		(ネットメディア)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：メディアについてレポートにする	2 H 2 H				
10 講	権力とマスメディア フェイクニュースとメディアとの関係		(情報倫理)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
11 講	パブリシティと広告 マスメディアの中立性と信用		(ジャーナリズム)	事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
12 講	メディアとマーケティング（Ⅰ） 航空会社のメディア広報戦略について			事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
13 講	メディアとマーケティング（Ⅱ） 観光業界のメディア広報戦略について			事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：配布資料を読返し、要点を整理する	2 H 2 H				
14 講	要点の整理と解説 グループワーク（講義内容をグループで纏める）			事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：これまでの講義内容の要点	2 H 2 H				
15 講	講義内容の総括 プレゼンテーション（グループで整理事項を発表する）			事前：配布資料や web で事前の情報収集 事後：課題レポートを纏める。	2 H 2 H				

18 期	テスト レポートの提出	事前： 事後：	
テキスト	特になし (配布プリントで対応)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 講義の際に随時で紹介する。		
授業の評価 方法・基準	試験40%、レポート40%、受講態度20%		
履修条件	特になし		
関連科目・次のス テージ	私が顧問を務めている「沖大メディア研究会」に参加して沖縄大学の学生と一緒に、テレビ番組やラジオ番組の制作、各地域の 市町村や観光協会とタイアップした色々なプロモーションの企画に関わることができます。		
オフィスアワー	講義の後(火曜日5限の後)に教室で対応。グループLINEにて随時対応。		
受講生へのメッ セージ	情報化により社会の変化は益々加速しています。人々の暮らしや仕事や考え方も大きく変化しています。この講義を通じてメ ディアやIT技術についての関心を深めて下さい。希望する学生には私が顧問を務める「沖大メディア研究会」で活動してもら うことが出来ます。色々な企業やメディアとタイアップした具体的で実践的な活動を行うチャンスがあります。また、私が毎週 出演しているラジオ番組「RCK 沖縄羅針盤(日曜日 16:30~17:00)」もwebで聴いて下さい。 http://rashinban.okinawa ~皆さんのこれからの人生において「大いに役立つ」講義になると思います! そうなるよう私も頑張ります~		
実務経験	情報通信企業勤務経験やメディアに関わった経験から、情報を基にどのように産業や社会で活かされていくか解説する。		

科目区分	共通	科目名	茶道とマナー	担当教員	佐久間エリザ	授業形態	講義・演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	CA017	資格・免許要件	保育士資格選択必修				
授業の到達目標	・日本の伝統文化である茶道を通して、伝統文化の歴史的意義を学び、礼儀・作法として息づく先人の智慧に気づき、習得する。 ・2グループに分かれ、茶会を催す。その際、学習した内容をまとめて他者にわかりやすく伝え、共有し、コミュニケーション能力を身につける。								
授業概要	日本の伝統文化である茶道の歴史、茶道具、客・点前作法を学習することにより、礼儀・作法の意義・目的を理解する。 特に幼児・児童に関わるコースであるため、自然に目を向け、人との関わり方、思いやりの心、感謝の心を育む一つの方法として茶道を学ぶ。								
ディプロマ取得と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。								
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目								
	○＝DP 達成の為に重要な項目								
	△＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1 回 対面	オリエンテーション・茶道を学ぶ意義 立ち居振る舞い（お辞儀の仕方・立ち方・座り方・歩き方）				事後：テキストの関連項目を読み返し、動作の反復練習			2H	
2 回 遠隔	茶の心・客の心得 立ち居振る舞い（お辞儀の仕方・立ち方・座り方・歩き方）				事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料の読み返し、動作の反復練習			2H 2H	
3 回 対面	茶・菓子について お茶・お菓子の頂き方 制糖古（煎炒のつけ方、懐中の仕方）				事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料の読み返し、制糖古の反復練習			2H 2H	
4 回 遠隔	茶の古典 制糖古（煎・茶杓の清め方）				事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料の読み返し、制糖古の反復練習			2H 3H	
5 回 遠隔	茶道の成り立ち(1) 制糖古（茶葉通し、茶碗の清め方）				事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料の読み返し、盆路点前の反復練習			2H 1H	
6 回 対面	点前の道具(1) 盆路点前				事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料の読み返し、盆路点前の反復練習			2H 1H	
7 回 遠隔	茶道の成り立ち(2) 盆路点前				事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料の読み返し、盆路点前の反復練習			2H 1H	
8 回 対面	点前の道具(2) 盆路点前				事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ。 事後：配布資料の読み返し、盆路点前の反復練習			2H 1H	
9 回 遠隔	茶室・露地・煎茶道歌 盆路点前				事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料の読み返し、盆路点前の反復練習			2H 1H	
10 回 対面	立礼 盆路点前（ペアワーク）				事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料等を読み返し、盆路点前の反復練習			2H 3H	
11 回 遠隔	茶会・案内状・シナリオについて 盆路点前				事前：配布資料等、関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料の読み返し、盆路点前の反復練習 演技テストに向けて稽古をする			2H 3H	
12 回 対面	茶会役割分担 盆路点前演技テスト				事前：配布資料等、関連項目に目を通して概要をつかむ 事後：配布資料を読み返し、茶会での役割の練習をする			2H 3H	
13 回 対面	茶会				事前：茶会での役割を確認し、本番に備える 事後：茶会の振り返りをする			3H 2H	
14 回 遠隔	総復習				事前：これまでの授業の振り返り 事後：テキスト・配布資料等を読み返し、試験に備える			1H 2H	
15 回 対面	試験、試験の解答				事前：テキスト・配布資料等を読み返し、試験に備える 事後：間違えた問題をテキスト等から調べる			3H 2H	
16 回 遠隔	総括				事後：授業の振り返りをする			2H	

テキスト	学校茶道教本編集委員会編、千玄室・千宗直監修・指導『はじめての茶道』財団法人今日庵、1987年。 学校茶道教本編集委員会編、千宗直監修『裏千家茶道』財団法人今日庵、2004年。
参考資料など	三田富子『お茶を楽しむために』株式会社淡交社、1995年。千玄室『一瞬からピースフルネスを』株式会社淡交社、2009年。
授業の評価 方法・基準	積極的な授業参加（準備・片付け含む）10%、課題の提出（提出期限の厳守）30%、実技テスト10%、 知識テスト40%、ミニ茶会10%
服装条件	靴下を着用する（白色が好ましい）。長めのスカート。髪をまとめる。
関連科目・次のス テージ	学んだ立ち居振る舞いを日常生活の中で実践しましょう。茶道検定にチャレンジしましょう。茶道教室に通い、学びを続け、 許状取得を目指しましょう。
オフィスアワー	授業の前夜
授業や課題に付 するフィードバッ ク	課題については、クラス全体の傾向について概説します。
受講生へのメッ セージ	この授業で学んだことを、日常に活かしましょう。また学校茶道交流茶会等、学外の茶会へ参加するとより実践の場が広がります。
7対7対7の 実践	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 授け返りシート () ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL系課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()

科目区分	共通	科目名	沖縄の歴史と文化	担当教員	宮城茂雄	授業形態	単位数
卒業要件		ナンバリング		資格・免許要件			
授業の到達目標	琉球の時代より現在まで伝承されている琉球芸能について学ぶことで、 沖縄の歴史と文化について理解を深める。						
授業概要	沖縄の伝統芸能として現在に継承されている組踊や琉球舞踊は、 国の重要無形文化財の指定を受け、日本を代表する古典芸能でもある。 その表現方法や歴史を学ぶことで、沖縄の歴史や文化について理解を深める。 琉球語による歌（琉歌）を理解し、すらすらと音読できるようにする。						
学習成果の 期待と授業の対 応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。						
	○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。						
	△ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。						
	△ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。						
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目						
	授業計画				時間外学習		時間
1 週	授業説明・琉歌を音読する				事前：シラバスを読む 事後：琉歌音読の復習		
2 週	琉球芸能の歴史				事前：琉球史について 事後：琉球芸能の歴史について復習		
3 週	三線音楽と琉歌				事前：三線音楽について資料を読む 事後：琉歌音読の練習		
4 週	琉球舞踊概説				事前：琉歌の表記法について 事後：琉球舞踊の歴史について復習		
5 週	老人踊り・若衆踊り①				事前：琉球舞踊の分類について 事後：老人・若衆踊りの詞草について		
6 週	老人踊り・若衆踊り② 映像鑑賞を中心に				事前：老人・若衆踊りの扮装について 事後：老人・若衆踊りの表現について		
7 週	女踊り・二才踊り①				事前：女・二才踊りの歴史背景について 事後：女踊りの歌詞の音読練習		
8 週	女踊り・二才踊り② 映像鑑賞を中心に				事前：二才踊りの音曲について 事後：女・二才踊りの表現について		
9 週	鐘踊り				事前：琉球芸能史の再確認 事後：鐘踊りの表現方法について		
10 週	琉球舞踊の衣装				事前：琉球舞踊についてレポート作成 事後：衣装の特徴について		
11 週	組踊概説				事前：組踊の歴史について 事後：組踊の表現方法について		
12 週	組踊「二重敵討」を鑑賞する				事前：二重敵討のあらすじを予習 事後：二重敵討の表現について		
13 週	組踊「二重敵討」を読む				事前：二重敵討の内容を復習 事後：組踊のせりふを音読する		
14 週	まとめ				事前：資料やノートの読み返し 事後：組踊についてのレポート作成		
15 週	組踊の実技体験				事前：組踊のせりふを暗唱 事後：組踊の囃え方の練習		

18回	テスト	事前：用語などの理解 事後：
テキスト	テキストは指定しません。 解説プリントなどを作成して配布します。	
参考資料など	【購入を必須としないもの】 組踊への招待 矢野輝雄著 琉球新報社 琉舞手帖 大瀧勇著 ボーダーインク	
授業の評価 方法・基準	試験 60% レポート 30% 琉歌音読等の授業参加度 10%	
履修条件	①授業プリントの解説のほかに、口頭での解説も多くなります。各自ノートやプリントに記録してください。 ②課題授業の際は、インターネット（国立劇場の芸術学習サイト等）の活用を予定しています。 ③芸術についてのレポート提出を予定しています。	
関連科目・次のス テージ		
オフィスアワー	授業の前後	
授業や課題に対 するフィードバッ ク	提出していただいたレポートは、確認した後に返却します。	
受講生へのメッ セージ	琉球芸術には、沖縄の歴史や文化が表現の中に込められています。歌を音読し身体表現などを学ぶことで、沖縄の文化について 理解を深めていただきたいと思います。 舞踊の衣装や小道具を実際に見ていただき、芸術の身体表現を体験していただく予定です。 受講生の積極的な授業参加を望みます。	
7ヶ月間の 実施	() ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート () ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL※課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()	

科目区分	共通	科目名	日本語研究1	編纂者	大城 朋子	担当科目	講義・演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士資格選択必修			
授業の到達目標	現代語としての日本語に関する基礎的知識を体系的に理解し、適切な運用ができコミュニケーションにつなげることができる。 各品詞の分類と用法等について理解を深め、分析的に学んだ知識を言語教育に活用できる力を身につけている。 日常使用している言語表現・用法と、規範的な日本語の差異を意識しながら日本語の感性を磨き活用できる。								
授業概要	日本語文法の基本的な用語と概念を理解し、課題に実践に取り組み、分析・整理を試みる。そして、実際に教育の現場で活用できるような知識と運用力を身につけていく。加えて、日本語の変化にも触れ、地域語と日本語共通語の比較も行いながら日本語の感性を磨いていく。授業は、課題解決型学習をアクティブ・ラーニング(協働学習、討論、発表等)を通して行っていく。								
学習目標 的と授業の対 応	① 語士に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	② 保育者・教育者としての専門知識・技能・技術を身につける。								
	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画				時間外学習		時間	
1 回	オリエンテーション 日本語とは				事前： 事後：配布資料の振り返り		1H		
2 回	日本語文の構造				事前：品詞の関連用語を確認する。 事後：配布資料の振り返り。		1H 2H		
3 回	品詞分類				事前：各品詞の定義を考える。 事後：品詞分類を確認する。		1H 2H		
4 回	動詞の分類①				事前：課題①を考える。 事後：配布資料の振り返り		1H 2H		
5 回	動詞の活用②				事前：課題②を考える。 事後：動詞の活用を整理し発表する。		1H 2H		
6 回	自動詞と他動詞				事前：課題③を解く 事後：自動詞を他動詞の弁別を整理する。		1H 2H		
7 回	形容詞・形容動詞①				事前：課題④を考える。 事後：形容詞の分類・活用を整理する。		1H 2H		
8 回	形容詞・形容動詞②				事前：課題⑤を考える。 事後：形容詞動詞の分類・活用を整理する。		1H 2H		
9 回	副詞・連体詞				事前：課題⑥を考える。 事後：副詞・連体詞について整理する。		1H 2H		
10 回	接続詞				事前：課題⑦を考える。 事後：接続詞を整理する。		1H 2H		
11 回	助動詞				事前：課題⑧を考える。 事後：助動詞について整理し発表する。		1H 2H		
12 回	助詞①				事前：課題⑨を考える。 事後：助詞について整理する。		1H 2H		
13 回	助詞②				事前：課題⑩を考える。 事後：助詞に関する誤用を考える。		1H 2H		
14 回	運用				事前：課題⑪を考える。 事後：総合問題を解く。		1H 2H		
15 回	まとめ				事前：学んだ用語・使い方等を総復習する。 事後：配布資料の振り返り。		1H 2H		
16 回	最終試験				事前：総復習を行う。 事後：テキスト・資料の振り返り。		2H 2H		
テキスト	『現代日本語入門 改訂版』秋野慎男 『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』原沢伊都夫 『日本語教育文法講義』アルク 以上の図書等をベースに教師がテキスト資料を作成し配布する。								
参考資料など	『みがこう、あなたの日本語力』川本雅幹 『日本語バイリンガルへのパスポート』沖縄国際大学日本語教育教材開発研究会 『日本語検定公式模範別紙問題集「文法」/「語彙・意味」』東京書籍								

	『言い換え問題』サンマーク出版 他
授業の評価 方法・基準	クラス活動への参加度・問題への取り組み・発表・提出物(70%)、最終試験(30%)から総合的に判断する。5回以上欠席した場合 は受験資格を失う。よって、評価は不可となる。遅刻は3回で1回の欠席となる。
履修条件	事前・事後の時間外学習をしっかりと行うこと。そして、協働学習は積極的にを行い授業の準備を入念に行うこと。
関連科目・次のス テージ	「日本語学研究 II」が次の関連科目となるが、同科目を受講することで心豊かな日本語の感性とコミュニケーション能力を身に つける。そして、主体的に学び続ける力を身につける。
オフィスアワー	授業の前後に
授業や課題に対 するフィードバッ ク	プレゼンテーションに関しては、その場でピア・教師の両方がコメントしサポートを行う。また、小クイズに関しては、授業内 で振り返り、その他の課題は原則し、次の授業で返却する。
受講生へのメッ セージ	日本語学（日本語教育学）の基礎知識を習え、社会の変化に対応できるコミュニケーション力を身につけて欲しい。そして、グ ループ作業、ピア・ラーニングを通して、主体的に参加し学びを深め協働し創造していく力をつけて欲しい。
7ヶ月間の 実施	(*) ベアワーク (*) プレゼンテーション (*) フィールドワーク (*) ロールプレイング (*) 振り返りシート (*) ディスカッション (*) プロジェクト学習 (*) ピアサポート (*) 質問及びフィードバック (*) 動画等メディア () ディベート () PBL課題解決型 (*) 反転学習 (*) 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()

科目区分	共通	科目名	日本語学研究 II	担当者	大城 節子	授業形態	講義・演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格選択必修				
授業の到達目標	「日本語学研究 I」で文法の基本知識を学んだが、引き続き、現代語としての日本語の基礎となる知識を「日本語学研究 II」で深めていく。日本語という言語の全体像を捉えていくが、日本語学研究 II では、特に、日本語の語彙・文法・意味・表記・文体等を分析的に理解し、それらをコミュニケーションに繋げていく。その際に、日本語と文化、そして社会、地域の関わりについても分析的に考えることができるようになる。								
授業概要	日本語文法の基本的な用語と概念を理解し、課題に実際に取り組み、分析・整理を試みる。また、語彙・文法・意味・表記・文体等について分析的に学び、適切に活用する技術も身につけていく。加えて、日本語の変化に触れ、日本語(文化を含む)と地域語(文化を含む)の比較を行いながら日本語という言語の視野を広げていく。授業では、課題解決型学習をグループワーク、ディスカッションを通してアクティブに行っていく。								
学習目標(専門的知識の対応)	① 語彙に誇りをもち、心豊かな感性を身につける。 ② 保育者・教育者としての専門知識・技能・技術を身につける。 ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。 ○＝DP 達成の為に特に重要な項目 △＝DP 達成の為に重要な項目								
			授業計画		時間外学習		時間		
1 週			オリエンテーション 言語とアイデンティティ	事前: 事後:					
2 週			日本語の語彙(1) (語彙の概念、語彙の類別、語彙の使い分け)	事前: (課題: 語彙収集) を行う。 事後: 日本語の語彙に関して資料を読む。	1H 1H				
3 週			日本語の語彙(2) (文法的機能から見た語彙、派生語、複合語、合成語、他)	事前: 課題(1)を解く 事後: 日本語の語彙の振り返り。	1H 1H				
4 週			日本語の意味(1) (意味領域、語彙体系、意味変化、他)	事前: 課題(2)を解く 事後: 日本語の意味について資料を読む	1H 1H				
5 週			日本語の意味(2) (句、文、文章語の意味まで)	事前: 課題(3)を解く 事後: 発表を聴く。	1H 2H				
6 週			ヴォイス	事前: 課題(4)を解く 事後: ヴォイスについて整理する。	1H 1H				
7 週			テンスとアスペクト	事前: 課題(5)を解く 事後: テンスとアスペクトを確認する。	1H 1H				
8 週			モダリティ	事前: 課題(6)を解く 事後: モダリティについて資料を読む。	1H 1H				
9 週			待読表現	事前: 課題(7)を解く 事後: 待読表現について整理する。	1H 1H				
10 週			敬語	事前: 課題(8)を解く 事後: 敬語の活用練習を行う。	1H 2H				
11 週			表現と文体(1)	事前: 課題(9)を解く 事後: 表現と文体の資料を読む。	1H 1H				
12 週			表現と文体(2)	事前: 課題(10)を解く 事後: 表現と文体を整理する。	1H 1H				
13 週			日本語の表記	事前: 課題(11)を解く 事後: 表記に関する問題を解く。	1H 1H				
14 週			日本語と社会言語学 (1)	事前: 課題(12)を解く 事後: 配布資料を読む。	1H 2H				
15 週			日本語と社会言語学 (2)	事前: 課題(13)を解く 事後: 配布資料の振り返り。	3H				
16 週			最終試験	事前: 総復習を行う。 事後: テキスト・資料の振り返り。					
テキスト	『現代日本語学入門 改訂版』 萩野朝男 『奇えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』 原沢伊都夫 『日本語教育文法講義』 アルク 以上の図書等をベースに教員がテキスト資料を作成し配布する。								
参考資料など	『みがこう、あなたの日本語力』 川本保特 『日本語バイリンガルへのパスポート』 沖縄国際大学日本語教育教材開発研究会 『日本語教育公式領域別練習問題集「文法」「語彙・意味」「敬語」』 東京書籍 『言い換え問題』 サンマーク出版 他								
授業の評価方法・基準	クラス参加への参加度・課題への取り組み・発表・提出物(70%)、最終試験(30%)から総合的に判断する。5割以上欠席した場合は受講資格を失う。よって、評価は不可となる。遅刻は3回で1回の欠席となる。								
授業以外	事前・事後の時間外学習をしっかりと行うこと。そして、協働学習は積極的にを行い発表の準備を入学に行うこと。								

科目区分	共通	科目名	日本国憲法	担当教	福里 芝人	授業形態	講義	単位数	2 単位
卒業要件	総合選択 必修 保護必	ナンバリング	CA006	資格・免許要件	幼稚園教諭二種、保育士資格				
授業の到達目標	日本の最高法規である日本国憲法を学ぶことにより、人権の保障や国家権力の制限について幅広い知識を身につける。								
授業概要	15 回にわけてじっくりと日本国憲法を学ぶことにより、人権についての意識を高め、さらには政治の在り方に関心をもってもらう。そして、憲法を自らの生活の中で身近なものとして捉え、自分の考えを相手に伝える力を習得する。								
ディプロマ・DP)と授業の対応	○ ①常に問題意識を持ち、積極的な問題の発見やそれに対する解決方法を立案・実行できる能力（課題発見力・計画力・創造力・実行力） ◎ ②自分の考えをきちんと順序立てて説明し、相手を説得する能力（コミュニケーション能力） △ ③結果を冷静に振り返り、統括し、周囲と共有することのできる能力（状況把握力・前に踏み出す力） ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画		時間外学習		時間		
1 回			オリエンテーション。 憲法とは何か？		事後：憲法とは何かについて考えをまとめる。		2 時間		
2 回			明治憲法と日本国憲法。		事前：憲法の歴史について学習する。 事後：明治憲法と日本国憲法についてまとめる。		2 時間 2 時間		
3 回			基本的人権の概念と分類。		事前：人権についてまとめる。 事後：人権についてのレポート課題をする。		2 時間 2 時間		
4 回			包括的人権と法の下での平等（グループワーク）。		事前：法の下での平等にとは何かまとめる。 事後：グループワークの結果をまとめる。		2 時間 2 時間		
5 回			精神に関する自由権。		事前：精神に関する自由についてまとめる。 事後：レポート課題をまとめる。		2 時間 2 時間		
6 回			経済に関する自由権。		事前：経済に関する自由についてまとめる。 事後：レポート課題をまとめる。		2 時間 2 時間		
7 回			人身に関する自由権。		事前：人身に関する自由についてまとめる。 事後：レポート課題をまとめる。		2 時間 2 時間		
8 回			社会権		事前：資本主義の発展と社会権の登場についてまとめる。 事後：レポート課題をまとめる。		2 時間 2 時間		
9 回			参政権と国政参与権		事前：政治に参加する意義についてまとめる。 事後：日々の生活と政治についてまとめる。		2 時間 2 時間		
10 回			国会（立法）		事前：三権分立の意義についてまとめる。 事後：国会の役割についてまとめる。		2 時間 2 時間		
11 回			内閣（行政）		事前：内閣の役割についてまとめる。 事後：行政権の肥大についてまとめる。		2 時間 2 時間		
12 回			裁判所（司法）		事前：司法の役割についてまとめる。 事後：日本の裁判制度についてまとめる。		2 時間 2 時間		
13 回			財政と地方自治		事前：国と地方の在り方についてまとめる。 事後：沖縄の地方自治についてまとめる。		2 時間 2 時間		
14 回			平和主義（グループワーク）		事前：平和主義についてまとめる。 事後：沖縄の基地問題についてまとめる。		2.5 時間 2.5 時間		
15 回			憲法改正と日本国憲法の今後		事前：憲法の改正についてまとめる。 事後：レポート課題をまとめる。		2 時間 3 時間		

16 回	試験		
テキスト	『面白いほど理解できる憲法第2版』（2015・早稲田経営出版）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 必要に応じて、随時、資料等を配布する。		
授業の評価 方法・基準	レポート40%、平常点（受講態度、授業への参加意欲）10%、試験50%。		
履修条件	特になし。		
関連科目・次のス テージ	女性と法律、民法Ⅰ・Ⅱ、消費者心理と契約法など。		
オフィスアワー	火曜2時間目、その他授業終了後。		
授業や課題に対 するフィードバッ ク	課題は添削し、次回の授業または最終授業日に返却する。		
受講生へのメッ セージ	憲法の条文を、事例などをとおして具体的にイメージできるように学習すること。		
IT/ITツールの 活用	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL※課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他（ ）		

科目区分	専門	科目名	子どもと音楽表現Ⅰ	編纂者	赤根 絵文子	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	EE102	資格・免許要件	保育士資格必修・幼稚園教諭二種免許状必修				
授業の到達目標	①保育士、幼稚園教諭になるために必要な音楽の基礎的な知識と表現技術を習得することができる。 ②多角的な視点から音楽を捉える力、音楽を論理的に分析する力、さまざまな活動に音楽を応用する力を身につけることができる。 ③自己理解、他者理解を深め、主体的、かつ協働的に諸課題の解決に取り組む姿勢を身につけることができる。								
授業概要	身体による感覚的理解から論理的理解へという道筋で、保育・幼児教育に必要な音楽の基礎理論を学び、それと並行して音楽表現技術を身につけていく。また、幼児の行う音楽表現活動の意図や教育的意義を理解し、音楽の持つ原理を根拠とした音楽のさまざまな応用法を探る。いろいろな学習形態の中で発表や議論を行い、音楽表現についての理解を深めながら、柔軟に広い視野をもって物事を捉え分析する力、実践的な問題解決能力や応用力を身につけていく。								
ディプロマ (DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1	オリエンテーション (授業計画や内容等の確認) 音の三要素、声による音の模倣表現				事後：授業の振り返り、課題①「音探し」			1h	
2	音楽の三要素、音楽とは何か、音楽基礎理論①				事前：課題②「音楽とは？」 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み			1h 1h	
3	子どもにおける音楽表現の役割と意義、子どもの音楽認知の要素、音楽基礎理論②				事前：配布資料の読解 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み			1h 1h	
4	音楽の拍と拍子の構造理解と表現、音楽基礎理論③、保育・幼稚園における「毎月の歌」				事前：指定された楽曲の予習 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み			1h 1h	
5	単純拍子のリズムの構造理解と表現及び創作、音楽基礎理論④、保育・幼稚園における生活の歌①				事前：単純拍子の楽曲探し 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み			1h 1h	
6	複合拍子のリズムの構造理解と表現及び創作、音楽基礎理論⑤、保育・幼稚園における生活の歌②				事前：複合拍子の楽曲探し 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み			1h 1h	
7	フレーズの理解と表現、音楽基礎理論⑥、保育・幼稚園における生活の歌③				事前：絵本の読み聞かせ練習 (読解と表現) 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み			1h 1h	
8	アーティキュレーションとテンポの理解と表現及び創作、音楽基礎理論⑦、保育・幼稚園における生活の歌④				事前：対象の観察と模倣 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み			1h 1h	
9	音楽の創作、発表に向けた練習				事前：指定された楽曲の分析 事後：作品の表現練習			1h 1h	
10	自作品の発表、他者の作品の分析 (グループごとの発表)				事前：自作品の表現練習 事後：他者の作品の楽曲分析、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み			1h 1h	
11	音楽教育を目的とした音楽表現と、発達支援の手段としての音楽表現、音楽基礎理論⑧、沖縄のわらべうたと手遊び				事前：配布資料の読解 事後：課題③「音楽教育の役割とは」、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み			1h 1h	

12回	小学校における音楽教育、幼小のスムーズな接続のための音楽表現活動、音楽基礎理論⑩、幼児の遊びうた	事前：配布資料の読解 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み	1h 1h
13回	年間行事における音楽の役割、発表会における音楽表現の教育的意義と課題、音楽基礎理論⑪、幼児・児童の遊びうた	事前：配布資料の読解 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み	1h 1h
14回	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた音楽活動、子どもを取り巻く環境と音楽	事前：「子どもを取り巻く環境と音楽」に関する情報収集 事後：授業の振り返り、基礎理論課題・表現技術の習得への取り組み	1h 1h
15回	調べ学習の発表（グループごとの発表と質疑応答）	事前：「子どもを取り巻く環境と音楽」に関する情報収集と発表準備 事後：期末テストに向けた総復習と練習	1h 1h
16回	期末テスト	事前：期末テストに向けた総復習と練習	1h
テキスト	『うたえる・ひけるピアノ曲集Ⅰ』『うたえる・ひけるピアノ曲集Ⅱ』ドレミ楽譜出版社。		
参考資料など	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他。 【購入を必須としないもの】 『音楽理論ハンドブックーポピュラー音楽のための楽典と基礎理論ー』リットーミュージック。 『子どもへのまなざし』佐々木正美、福音館書店。 『音楽を学ぶということーこれから音楽を教える・学ぶ人のためにー』監修者今川素子、編者志民一成他、教育芸術社。		
授業の評価 方法・基準	音楽表現技術の習得度 20%、発表（作品発表と分析、調べ学習）20%、学習態度（授業への積極的参加、他者との協働的関わり、課題の提出）20%、期末テスト 30% ※音楽表現技術の習得等、パフォーマンスに関する評価に関しては各個人に応じ、初回から回を重ねるごとの変化をみて、その上達度から評価を行なう。		
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭二種免許状の取得を希望するもの。		
関連科目・次のステージ	「子どもと造形表現」「子どもと体育表現」など表現に関わる科目を中心に、保育・幼児教育に関する科目と連動させながら理解を深めていきます。後期において「子どもと音楽表現Ⅱ」を履修してください。		
オフィスアワー			
授業や課題に対するフィードバック	授業内におけるディスカッションを通して、学習の理解と技術習得に向けて支援をしていきます。表現技術に関しては必要に応じて適宜、個別に楽器や資料を用いて技術獲得に向けた手立てを行ないます。提出課題は添削し、次回以降の授業で返却します。		
受講生へのメッセージ	体を動かして、歌い、感性を働かせ、理論と紐づけて音楽を学ぶことで、音楽をより深く理解し味わうことができるようになります。あなたのアイディアで音楽の活用の幅を広げ、保育・幼児教育実践の場で生かせる力を身につけていきましょう。		
7月17日（金）の授業	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 (○) ピアサポート (○) 質問及びフィードバック () 動画等メディア () ディベート () PBL系課題解決型 (○) 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	子どもと音楽表現 Ⅲ	担当者	大宜見朝彦 阿波達俊恵 子 宮屋直	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	EE104	資格・免許要件	保育士資格選択必修				
授業の到達目標	「子どもの音楽表現Ⅰ・Ⅱ」では保育士・教育者として必要な音楽の知識と表現力の基礎を学び、「子どもの音楽表現Ⅲ」ではそれらを互いに紐付けて学習する事で音楽知識と音楽表現力の応用力を高めて行く事を目標とする。また保育の現場実践力を付けるために演奏技術と歌唱能力を向上させると同時に、自身の視野を広げ音楽的感性・感受性を養い、子どもの音楽表現の理解につなげて行く。								
授業概要	ピアノ弾き歌い・うた遊び・リズム遊びの実技実践と音楽理論の修得。 ※ 個人の実技レベルによっては授業計画内容が繰り上げ、もしくは繰り下げになる事もある。								
ディプロマ ②と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		1	
1 回	Unit 1 課題：生活の歌 ピアノ弾き歌い（あなたのお名前は・お弁当・おかえりの歌）					事後：面接授業へ向けて課題の取り組み 音符と休符ドリルの取り組み		1H	
2 回	面接授業①コードの再確認(C・F・G・G7)、子どもと音楽表現Ⅱでの成果の確認、遠隔学習（生活の歌）の成果の確認レッスン ピアノ弾き歌い（あなたのお名前は・お弁当 おかえりの歌）					事前：コードの確認、基礎基本練習と生活のうたの予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	
3 回	Unit 2 課題：行事の歌 ピアノ弾き歌い（ひなまつり・あわてんぼうのサンタクロース）					事前：基礎基本練習と行事のうたの予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	
4 回	面接授業②遠隔学習（行事の歌）の成果の確認レッスン ピアノ弾き歌い（ひなまつり・あわてんぼうのサンタクロース）					事前：基礎基本練習と行事のうたの予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	
5 回	Unit 3 課題：自然の歌 ピアノ弾き歌い（おつかいありさん・こたりの歌・あめふりくまのこ）					事前：基礎基本練習と自然のうたの予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	
6 回	面接授業③遠隔学習（自然の歌）の成果の確認レッスン ピアノ弾き歌い（おつかいありさん・こたりの歌・あめふりくまのこ）					事前：基礎基本練習と自然のうたの予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	
7 回	Unit 4 課題：季節の歌 ピアノ弾き歌い（どんぐりころころ・ゆき・まっかな秋）					事前：基礎基本練習と季節のうたの予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	
8 回	面接授業④遠隔学習（季節の歌）の成果の確認レッスン ピアノ弾き歌い（どんぐりころころ・ゆき・まっかな秋）					事前：基礎基本練習と季節のうたの予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	
9 回	Unit 5 課題：行進曲① ピアノ弾き歌い（子犬のマーチ・アンパンマンのマーチ）					事前：基礎基本練習と行進曲の予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	
10 回	面接授業⑤遠隔学習（行進曲①）の成果の確認レッスン ピアノ弾き歌い（子犬のマーチ・アンパンマンのマーチ）					事前：基礎基本練習と行進曲の予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	
11 回	Unit 6 課題：行進曲② ピアノ弾き歌い（ミッキーマウスマーチ）					事前：基礎基本練習と行進曲の予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み		1H 1H	

12 回	前授業第6遠隔学習（行進曲②）の成果の確認レッスンとリズム遊び ピアノ弾き歌い（ミッキーマウスマーチ） リズム遊び（伝承遊び・ずいずいずっころばし・茶壺・花いちもんめ）	事前：基礎基本練習と行進曲の予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み	1H 1H
13 回	課題：ポピュラーな歌 ピアノ弾き歌い（おもちゃのチャチャチャ・犬のおまわりさん）	事前：基礎基本練習とポピュラーな歌の予習 事後：授業振り返りと音楽技術の習得練習 音符と休符ドリルの取り組み	1H 1H
14 回	前授業第7遠隔課題（ポピュラーな歌）の成果の確認レッスン ピアノ弾き歌い（おもちゃのチャチャチャ・犬のおまわりさん）	事前：基礎基本練習とポピュラーな歌の予習、リズム遊びの予習 事後：テスト課題曲の予備練習 音符と休符ドリルの取り組み	1H 1H
15 回	テストへ向けて 今学期の成果の再確認・テスト課題曲の予備練習	事前：基礎基本練習とテストへ向けて予備練習 事後：音符と休符ドリルの取り組み	1H 1H
16 回	前授業第8テスト：弾き歌い課題3曲必須	事前：テスト課題曲の予備練習 事後：今学期の成果の復習	1H 1H
テキスト	うたえる・ひけるピアノ曲集Ⅰ、Ⅱ（ドレミ楽譜出版社）ISBN:9784810877533 & ISBN:9784810877540 毎日のプリント 音符と休符 基礎1（株式会社DEPRO MP）ISBN:978-4-88414-371-4		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 幼稚園教育要領 幼児のための音楽教育（教育芸術社） 一人一人を大切にする ユニバーサルデザインの音楽表現（萌文書林）		
授業の評価 方法・基準	基礎技術の習得は個人差もあるが、日々繰り返し練習と積極性が結果へと導かれる。 テスト 50%、発表 30%、提出物及び積極的な受講態度 20%、以上を評価の基準とする。		
履修条件	保育士、幼稚園の資格取得希望すること。毎日の練習、技術獲得に積極的に関わること。 「子どもと音楽表現 Ⅱ」を履修していること。		
関連科目・次のステップ	「子どもと図工表現」「子どもと体育表現」等の音・図・体の表現系科目の関係性について復習すること。また、授業で学んだこと内容を、日常生活で可能な限り実践すること。		
オフィスアワー	授業終了時又は授業の前夜		
受講生へのメッセージ	自分自身の感性に目覚め、五感を使って自然に敏感であれ！ 常にチャイルドウォッチングを！！		
1対1ミーティングの 実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート () ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL※課題解決型 (○) 反転学習 (○) 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	子どもと造形表現Ⅰ	担当者	玉城哲人	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格選択必修、幼稚園教諭二種免許状選択必修				
授業の到達目標	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「表現」のねらい・内容及び「造形表現の意義」を理解するとともに、講義・実技演習等を通して「造形表現」の知識や技能を習得することで、保育者として幼児一人ひとりの「感性」に寄り添い、豊かで創造的な資質や能力を伸ばす保育の実践に活用することができる。また、郷土の自然と文化に誇りを持って主体的に学び続けることを到達目標とする。								
授業概要	・領域「表現」のねらい・内容及び「造形表現」の理論・知識を学習する。 ・実技演習と「振り返りシート」の作成を通して、幼児への指導上の配慮や援助、留意等を考察する。 ・制作することで、楽しさや面白さ、学びを発見し、幼児への「豊かな感性」を育むことの意味を体得する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回(面接授業)	・デモンストレーション制作 ・オリエンテーション：授業のねらいと講義概要、評価方法の説明				事前： 事後：配布資料の概要の理解			2 時間	
2回(遠隔授業)	・造形表現の意義について〔課題〕				事前： 事後：配布資料の読み返し			2 時間	
3回(面接授業)	・領域「表現」と造形表現の関連について ・実技演習：教具の製作 (1)				事前： 事後：作品製作			2 時間	
4回(遠隔授業)	・実技演習：教具の製作 (2)				事前：材料・用具の準備 事後：作品製作			1 時間 1 時間	
5回(面接授業)	・振り返りシートの作成について ・実技演習：ストローを利用した制作				事前： 事後：作品制作			2 時間	
6回(遠隔授業)	・振り返りシートの作成〔課題〕				事前： 事後：振り返りシートの作成			2 時間	
7回(面接授業)	・実技演習：ストロー、和紙、アルミホイルを利用した制作				事前： 事後：作品制作、配布資料の読み返し			2 時間	
8回(遠隔授業)	・振り返りシートの作成〔課題〕				事前： 事後：振り返りシートの作成			2 時間	
9回(面接授業)	・実技演習：紙コップを利用した制作				事前： 事後：作品制作、配布資料の読み返し			2 時間	
10回(遠隔授業)	・振り返りシートの作成〔課題〕				事前： 事後：振り返りシートの作成			2 時間	
11回(面接授業)	・実技演習：廃材を利用した制作				事前： 事後：作品制作、配布資料の読み返し			2 時間	
12回(遠隔授業)	・振り返りシートの作成〔課題〕				事前： 事後：振り返りシートの作成			2 時間	
13回(面接授業)	・造形関連の図書を利用した「題材」選び 【フィールドワーク】				事前： 事後：題材選び、材料・用具の準備			2 時間	
14回(遠隔授業)	・「題材」の制作〔課題〕 【フィールドワーク】				事前：材料・用具の準備、制作 事後：作品制作			1 時間 1 時間	

15回(面接授業)	・「題材」の振り返りシート作成(課題)→指定した期日までに提出	事前:指導案の作成 事後:指導案の作成	1時間 1時間
16回(遠隔授業)	・まとめ	事前: 事後:	
テキスト	随時プリント資料を配布		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、認定こども園教育・保育要領解説(文部科学省) 幼児造形の研究(萌文書林)、保育園・幼稚園の「造形あそび」(成美堂出版)、「こどもの造形」(ひかりのくに)他		
授業の評価方法・評価基準	振り返りシート・レポート(50%)、制作作品(40%)、受講態度(10%)をもって総合的(100%)に評価する 100~90(秀)[S]、89~80(優)[A+ A]、79~70(良)[B+ B]、69~60(可)[C+ C]、59以下(不可)[F]		
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭二種免許の取得を希望する者、「造形表現」に関する知識や技術を学びたい者		
関連科目・次のステージ	次のステージ:「子どもと造形表現Ⅱ」 関連科目:「生活と芸術」、「教材研究図工」、「玉城ゼミナール」		
オフィスアワー	月曜日(3・4・5時限)、木曜日(3時限)、場所:プレイルーム又は玉城研究室5階(18番)、授業の前後		
授業や課題に対するフィードバック	授業・実技演習終了後や振り返りシート提出後の質疑応答を通して、子どもの感性・能力・技能の捉え方や保育者の視点等について解説する。		
受講生へのメッセージ	保育の現場では、子どもの「感性」を豊かに育てることを大切にしています。子どもたちの「感性」に寄り添い、成長を見守るためには、「保育者自身の感性」は、とても大切なことになります。この授業を通して「造形表現の楽しさや面白さ」を体験し、「子どもが(えがいたり、つくったり)して喜ぶ姿を想像できる自分」を発見して、今後の保育実習や保育の実践に活かしてください。 お願い: ・振り返りシート・レポート、部分責任実習指導案、制作作品等は、基本的に面接授業での提出になります。 ※提出期限は守ってください。 ・欠席した場合は、必ず「欠席届」の提出と「課題の申し出」をしてください。(個別で対応します) ・各自で材料や用具等を用意することがあります。 ・実技演習の内容を変更することがあります。		
アクティブラーニングの実施	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL※課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他(実技演習)		

科目区分	専門	科目名	子どもと体育表現Ⅰ	担当者	山入端恵子・石垣愛一郎	授業形態	演習	単位数	1
本業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格(必修)				
授業の到達目標	幼児期における基礎的な身体能力を伸ばすための運動あそびを知る。さらに運動あそびを深めるために子どもの立場で考え、同時に先生役としての提供の仕方、場作り、安全確認等に必要の指導方法や知識・技能を意欲的に学ぶ。								
授業概要	前半は、フォークダンスや郷土の踊り、表現あそびの授業を通して、世界や郷土の運動文化に対する興味・関心を探め、身体表現の楽しさを知る。後半は幼児期の発達特性に即した各種の運動あそびや身体表現を展開し、知論と実技を学習する。								
ディプロマ(DP)と授業の対応	① ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ② ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ③ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ④ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1回	オリエンテーション：1回～8回(山入端担当) 授業の概要(到達目標・授業概要・評価・活動方法等)・1x'm遊び				事後：シラバスの読み返し、今後の授業をイメージする		0.5H		
2回	「身体表現の楽しさを指導する際に注意したいこと」遠隔授業①				事前： 事後：		2H		
3回	フォークダンス：「キンダーボルカ」「エイスオブダイヤモンド」「ドラえもん音頭」他				事前：各国の地理的位置・気候・歴史などを調べる 事後：基本ステップを復習する		0.5H 0.5H		
4回	「琉球舞踊の歴史的変遷」と用語の解説 遠隔授業②				事前： 事後：		2H		
5回	郷土の踊り： 代表的な所作(こねり手)・カチャーシー・キッズのエイサー				事前：郷土の歴史を学習する 事後：こねり手を練習する		0.5H 0.5H		
6回	「幼児に郷土の踊りを指導する意義」 遠隔授業③				事前： 事後：		2H		
7回	振り付け： 振り付け(全身を使って幼児らしい動きで表現する)				事前：テーマに合った動きを考える 事後：振り付けた踊りを繰り返す		0.5H 0.5H		
8回	「ダンス用語解説」 遠隔授業④				事前： 事後：				
9回	オリエンテーション：9回～16回(石垣担当) 幼児体育の意味(体育と幼児体育の違い)、基礎、基本の実践				事後：これからの8週間の流れを確認する		2H		
10回	用具を使わないあそび、身体を使ったあそび、じゃんけんあそび				事後：様々なじゃんけんあそびの振り返り		2H		
11回	集団あそび【鬼ごっこあそび】				事後：記録ノートを使ってあそびレポーターを考える		2H		
12回	小型遊具のあそび【ボールあそび】				事後：記録ノートを使ってあそびレポーターを考える		2H		
13回	集団あそび【ボールゲーム】 遠隔授業⑤				事前：ボール遊び(前回)を振り返る 事後：遠隔授業の視聴、記録ノートを使ってあそびレポーターを考える		2H		
14回	小型遊具のあそび【縄跳びあそび】				事後：記録ノートを使ってあそびレポーターを考える		2H		
15回	小型遊具のあそび【長縄あそび】 遠隔授業⑥				事前：前回の内容を振り返る 事後：遠隔授業の視聴、記録ノートを使ってあそびレポーターを考える		2H		

科目区分	専門	科目名	子どもと体育表現Ⅰ (初級)	担当者	石垣 愛一郎 山入端 恵子	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	幼稚園教諭二種免許状、保育士資格 (選択必修)				
授業の到達目標	幼児期における基礎的な身体能力を伸ばすための運動あそびを知る。さらに運動あそびを深めるために子どもの立場で考え、同時に先生役としての提供の仕方、場作り、安全確認等に必要指導方法や知識・技能を意欲的に学ぶ。								
授業概要	幼児期の発達の特性に即した各種の運動あそびや身体表現を展開し、教える立場のあり方を理論と実技を通して学習する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎	⑤ DP 達成の為に特に重要な項目							
	○	⑥ DP 達成の為に重要な項目							
	△	⑦ DP 達成の為に望ましい項目							
	授業計画					時間外学習		時間	
1 回	オリエンテーション及び幼児体育の意味、基礎、基本の実践 面接授業①					事後：これから 16 週間の流れを確認 (1H)		1	
2 回	用具を使わないあそび、身体を使ったあそび、 じゃんけんあそび 遠隔授業①					事前：時間割(前後授業含む)の確認と体育着の所持 確認 (1H) 事後：様々なじゃんけんあそびの振り返り (1H)		2	
3 回	集団あそび【鬼ごっこあそび】 面接授業②					事後：記録ノートを使ってあそびレポートリーを考 える (2H)		2	
4 回	小型遊具のあそび【ボールあそび】 面接授業③					事後：記録ノートを使ってあそびレポートリーを考 える (2H)		2	
5 回	集団あそび【ボールゲーム】 遠隔授業②					事後：記録ノートを使ってあそびレポートリーを考 える (2H)		2	
6 回	小型遊具のあそび【短縄・長縄あそび】 面接授業④					事後：記録ノートを使ってあそびレポートリーを考 える (2H)		2	
7 回	小型遊具のあそび【縄跳び(ダブルダッチ) 編】 遠隔授業③					事後：記録ノートを使ってあそびレポートリーを考 える (2H)		2	
8 回	小道具のあそび【フープあそび】 面接授業⑤					事後：記録ノートを使ってあそびレポートリーを考 える (2H)		2	
9 回	郷土の踊り→講義(歴史・分類等)代表的な所作・カチャーシー 特徴的な所作を使った振り付け(山入端) 遠隔授業④					事後：資料を熟読し、所作を確認する (2H)		2	
10 回	郷土の踊り→手具を使用した踊り(山入端) 面接授業⑥					事後：踊りの振り返り、グループの話し合い、 振り付け練習 (2H)		2	
11 回	大型遊具のあそび【マットあそび】 面接授業⑦					事後：記録ノートを使ってあそびレポートリーを考 える (2H)		2	
12 回	大型遊具のあそび【積み箱】 面接授業⑧					事後：記録ノートを使ってあそびレポートリーを考 える (2H)		2	
13 回	大型遊具のあそび【平均台】 遠隔授業⑤					事後：記録ノートを使ってあそびレポートリーを考 える (2H)		2	
14 回	小型遊具【身近な廃材】のあそび【新聞紙を使ったあそび】 遠隔授業⑥					事前：新聞紙を使ったあそびを検索しておく (1H) 事後：実践したあそびや一つのあそびから次への流 れを振り返り、実習に備える (1H)		2	

15 週	大型遊具総合あそび【サーキットあそび】	面接授業③	事前：大型遊具の使い方を復習、試行錯誤を重ねて共同作業としてサーキットを完成させるイメージと事前話し合いをもつ(1H) 事後：完成させたサーキットを振り返る(1H)	2
16 週	これまでのまとめ【先生役が指導する模擬授業、指導する側の立場から考える】	遠隔授業⑦	事前：これまでのまとめとして発表、実践したいあそびをこれまでの資料をもとに振り返る(2H)	2
テキスト	なし			
参考資料など	【購入を必須としないもの】 「幼児体育」理論と実践 日本幼児体育学会 編 第5版 「幼児体育」 応用編 山口智之著 タイケン出版 「幼児期のためのティーボール遊び」 前橋明著 大学教育出版 その他			
授業の評価方法・基準	記録ノートの提出10%、積極的かつ創意工夫の態度70%、グループ別あそび発表(協力体制)20%			
履修条件	確実に出席した上で、個々の身体能力に関わらず、楽しみながら「少し頑張れば出来ること」にこだわり、さらに「もっと楽しくするためには、」という姿勢・態度を創造、実行につなげる。			
関連科目・次のステージ	5 領域の中の【保育内容「表現」】および【保育内容「健康」】のあり方、考え方に通じる共通項がある。さらに【教科専門体育(初等教育)】へのつながりや共通項・相違点、また【特別活動】における授業展開の仕方につながる。			
オフィスアワー	事前に打ち合わせをした上で、空いている時間すべてをオフィスアワーとする。石垣研究室：5階 13番 研究室			
授業や課題に対するフィードバック	毎授業終了後に提出するレポート及び記録ノートをもって学生一人一人の自己評価、考察、疑問、質問等を確認して把握する。また必要な場合は学生の疑問・質問等に応える。			
受講生へのメッセージ	幼児体育と体育の相違点や共通点を理解し、体育授業ならではの学びをクラスメートとコミュニケーションを取りながら楽しく学びましょう！ 連絡先：ishigaki-u@w.jc.ac.jp			
アクティブラーニングの実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション (○) プロジェクト学習 (○) ピアサポート (○) 質問及びフィードバック () 動画等メディア () ディベート (○) PBL※課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー () その他 ()			

科目区分	専門	科目名	子ども家庭福祉	担当者	竹藤 登	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士資格必修			
授業の到達目標	現代社会における子ども家庭福祉の概念を理解し、他者に説明することができる。 子ども・家庭福祉の諸制度について理解し、他者に説明することができる 子ども・家庭福祉の具体的な支援方法を把握し、実践することができる。								
授業概要	この科目では、社会福祉の概念、歴史的背景と意義をふまえ、子ども家庭福祉の課題を明らかにし、それに対応する福祉制度サービスの仕組みについて学び、またそれらに対する具体的な支援方法について事例等を通して学習する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
授業計画及び時間外学習(時間)		授業計画				時間外学習		時間	
	1回	オリエンテーション 現代社会の福祉の概念				事前	福祉について考える	2h	
						事後	重要キーワードの整理	2h	
	2回	子ども家庭福祉の基礎概念 子ども家庭福祉の考え方				事前	テキスト P2～13 を予習	2h	
						事後	重要キーワードの整理	2h	
	3回	子ども家庭福祉を取り巻く状況 少子社会の姿・子どもの育つ環境				事前	テキスト P14～27 を予習	2h	
						事後	重要キーワードの整理	2h	
	4回	子ども家庭福祉を取り巻く状況 在宅療養家庭に対する子育て支援				事前	テキスト P28～37 を予習	2h	
						事後	重要キーワードの整理	2h	
	5回	子どもの権利保障 子どもの権利保障の歴史				事前	テキスト P38～49 を予習	2h	
						事後	重要キーワードの整理	2h	
	6回	こどもの家庭福祉の展開 子ども家庭福祉の歴史的展開				事前	テキスト P50～69 を予習	2h	
						事後	重要キーワードの整理	2h	
7回	子ども家庭福祉行政の仕組み 子ども家庭福祉を支える法律				事前	テキスト P70～89 を予習	2h		
					事後	重要キーワードの整理	2h		
8回	子ども家庭等機関 児童相談所・福祉事務所の役割				事前	テキスト P90～103 を予習	2h		
					事後	重要キーワードの整理	2h		
9回	子ども家庭福祉サービスの施設 ① 児童福祉施設の体系と運営				事前	テキスト P104～121 を予習	2h		
					事後	重要キーワードの整理	2h		
10回	子ども家庭福祉サービスの施設 ② 入所児童の自立支援				事前	テキスト P122～141 を予習	2h		
					事後	重要キーワードの整理	2h		
11回	在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際 ①				事前	テキスト P142～161 を予習	2h		
					事後	重要キーワードの整理	2h		
12回	在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際 ②				事前	テキスト P162～177 を予習	2h		
					事後	重要キーワードの整理	2h		

	13回	子ども家庭福祉に関連する地域活動 子ども会・子育てサークル	事前 テキスト P178～189 を予習 事後 重要キーワードの整理	2h 2h
	14回	子ども家庭福祉サービスを支える人 ① 児童福祉司・家庭相談員	事前 テキスト P190～201 を予習 事後 重要キーワードの整理	2h 2h
	15回	子ども家庭福祉サービスを支える人 ② 児童委員・民生委員	事前 テキスト P202～215 を予習 事後 重要キーワードの整理	2h 2h
	16回	テスト		
テキスト	よくわかる子ども家庭福祉 山縣文治編 ミネルバ書房			
参考資料等	【購入を必要としないもの】 毎回プリントを配布する。			
授業の評価 方法・基準	期末試験 55% 毎回の授業後のレポートの評価 45% その他授業態度（他の人に迷惑をかける私語は不可）などを全体評価する。			
履修条件	日常的に、福祉・特に子ども家庭福祉に関する情報に関心を持つこと。			
関連科目・ 次のステージ	社会福祉や児童家庭福祉等で学んだ理論を実際の保育活動に活かせるよう可能な限り実践すること。			
オフィスアワー	授業終了後			
授業や課題 に対するフ ィードバック	授業終了後に毎回、小レポートを出します。質問等があればその中に記入すると、次回に回答します。またその場で挙手をして質問するか、授業後に質問するようにしてください。その場で回答します。			
受講生への メッセージ	理論だけではなく、具体的な現場の状況などの事例を交えて講義します。授業をよく聴くことで理解できるように授業を構成しているので、授業中の私語はつつしむようお願いします。			
アクティブラ ーニングの 実施	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☒ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☒ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL 課題解決型 ☐ 反転学習 ☒ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他()			

科目区分	専門	科目名	子ども家庭福祉	担当教員	宮本 晋一	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE088	資格・免許要件	保育士資格：必修				
授業の到達目標	現代社会における子どもや家庭・社会環境、それらを支援するための制度・サービス、支援の方法を理解することができる。								
授業概要	この科目では、子ども家庭福祉の意義と歴史的背景を基に法制度実施体制、児童家庭福祉施策の現状と課題、児童家庭福祉の専門職・実施者の現状と課題、保育・教育・医療・保健との連携などについて学び、さらに虐待児への取り組みや地域の子育て支援、子どもの食育（子ども食堂）、児童の権利保障などについて事例をもとにして学習する。								
ディプロマ（DP）と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 △ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画				時間外学習		時間	
1 週	オリエンテーション 子ども家庭福祉の学び方 子ども家庭福祉の理念と概念 児童の最善の利益					事前：最近の児童虐待について予習 事後：児童福祉法について興味と理解を深める		2 H	2 H
2 週	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 子ども家庭福祉の歴史的展開、支援対象の多様化、社会的支援					事前：少子高齢化について予習 事後：児童福祉の理念と意義の理解と確認		2 H	2 H
3 週	子どもの人権擁護 ・子どもの人権擁護の歴史、児童の権利に関する条約、					事前：現代社会における子ども福祉の課題 予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
4 週	子ども家庭福祉の制度と実施体制 ・子ども家庭福祉の法制度と改正の流れ、子ども家庭福祉と専門職					事前：児童の福祉ニーズの把握と把握方法予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
5 週	子ども家庭福祉の施設と専門職 ・児童福祉施設の種類、子ども家庭福祉の専門職、措置から契約制度					事前：児童福祉法の歴史について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
6 週	少子化と地域子育て支援 ・少子高齢社会の到来、子ども・子育て支援制度の概要					事前：子育て支援の拡充の課題について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
7 週	母子保健と子どもの健全育成 ・母子保健の意義、児童健全育成の意義、母子保健サービスの動向					事前：専門職及びその連携のあり方を予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
8 週	多様な保育ニーズへの対応 ・多様な保育ニーズに対応するためのしくみ、教育・保育施設					事前：民間サービスの社会的意味を予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
9 週	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 ・子ども虐待、その定義と概要、子ども虐待防止・DV防止					事前：最近の子ども虐待の動向について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
10 週	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 ・子育て世帯の貧困、子どもの貧困対策、要としての保育所の役割					事前：子ども食堂について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
11 週	社会的養育 ・社会的養育とは、これからの社会的養育、新生児期から社会的養育					事前：赤ちゃんポストについて予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
12 週	障害のある子どもへの対応 ・障害児の福祉、障害児支援の背景、障害児支援のチームアプローチ					事前：障害児支援モデルについて予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
13 週	少年非行等への対応 ・少年非行の状況、非行相談と施設入所との関係、感化院の誕生					事前：少年院と自立支援施設について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H
14 週	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 ・次世代育成支援としての子ども家庭福祉、子育て支援制度の課題					事前：認定こども園と「幼保連携」について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認		2 H	2 H

16 期	児童家庭福祉サービスを支える人の理解と諸外国の動向 試験		
テキスト	新基本保育シリーズ3 子ども家庭福祉 中央法規		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 社会福祉養成講座編集委員会 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 中央法規 吉田真理 児童の福祉を支える 児童家庭福祉 明文書林		
授業の評価 方法・基準	試験、レポート、出席状況等で総合的に判断する。 「秀」(100～90) 「優」(89～80) 「良」(79～70) 「可」(69～60) 「不可」(59 以下)		
履修条件	子ども福祉、子どもの権利について関心を持つこと		
関連科目・次のステージ	社会福祉、社会的養護、現場実習		
オフィスアワー	金曜日		
受講生へのメッセージ	この講義を通じて各種実習と進路選択に必要な制度・政策を中心とした講義、並びに実践論を講義します。 ＊進路授業に備えクラスルームを活用していきます。		

科目区分	専門	科目名	子ども家庭福祉	担当者	堀花道明	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング	EE088	資格・免許要件	保育士必修、児童厚生2級指導員必修				
授業の到達目標	子ども・子育て支援の専門職として、必要最低限の法令や制度等の知識を身につけており、また、実際に支援に関わった際に、相談者の現状に応じた適切な情報提供を行うこと、並びに専門機関等との連携・協力が円滑に図ることができる。								
授業概要	子ども家庭福祉の理念や児童福祉、子どもの権利条約、子ども・子育て支援新制度等の制度や支援事業等を学ぶことで明らかとなるわが国の現状と課題や全国と沖縄県の相違点や、沖縄県が抱える独自の課題等について、個人ワークでそれぞれに落とし込んだ後、課題解決に向けた取り組みやアイデア等を、グループワークで出し合い、共有し、学ぶことで、知識だけではなく支援者に求められる自己客観性及び協調性を身につけることができる。								
ディプロマ(DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
授業計画					時間外学習			時分	
1回	オリエンテーション				事前：シラバスを確認する 事後：沖縄の子どもに関わる新聞記事をリサーチ			0.5H 0.5H	
2回	子ども家庭福祉の理念と概念				事前：沖縄の子どもに関わる新聞記事をリサーチ 事後：テキスト及び配布資料で復習			0.5H 0.5H	
3回	現代社会における子どもと子育て家庭の現状と課題				事前：日本の子どもと子育て支援に関する本を読む 事後：全国と沖縄の現状について振り返り			0.5H 0.5H	
4回	子ども福祉の歴史				事前：日本の児童福祉の歴史を調べる 事後：テキスト及び配布資料で復習			0.5H 0.5H	
5回	子どもの権利と子ども観①				事前：子どもの権利条約を読んでおく 事後：子どもの権利について考える			0.5H 0.5H	
6回	子どもの権利と子ども観②				事前：子どもに保障されている・されていない権利とは 事後：子どもに保障すべき権利について考える			0.5H 0.5H	
7回	子ども家庭福祉と子どもを守るしくみ				事前：沖縄の子ども・子育て支援について調べる 事後：テキスト及び配布資料で復習			0.5H 0.1	
8回	現代における保育とは				事前：沖縄県の待機児童問題について調べる 事後：テキスト及び配布資料で復習			0.5H 0.5H	
9回	学齢期の子どもの教育と福祉				事前：沖縄県の放課後対策について調べる 事後：あなたの地域にある支援事業を調べる			0.5H 0.5H	
10回	障害と子ども・家庭支援の仕組み				事前：「障害」とは何かに関して調べる 事後：「合理的配慮」の具体例を調べる			0.5H 0.5H	
11回	子どもの貧困と居場所支援				事前：子どもの貧困に関して調べる 事後：沖縄の子どもたちの貧困問題を調べる			0.5H 0.5H	
12回	子ども虐待の現状と課題				事前：「虐待」の定義について調べる 事後：沖縄県の「虐待」の現状を調べる。			0.5H 0.5H	
13回	社会的養育と子育ての社会的責任				事前：「里親」について調べる 事後：テキスト及び配布資料で復習			0.5H 0.5H	
14回	沖縄の子どもと子育て支援の現状と課題				事前：沖縄の子ども・子育て支援について調べる 事後：配布資料の振り返り			0.5H 0.5H	
15回	世界の児童福祉、子ども・子育て支援				事前：事前配布資料を読んでくる 事後：配布資料の振り返り、テスト勉強			0.5H 2.0H	

16 週	テスト	事前：テスト勉強 事後：	
テキスト	子ども家庭福祉～子ども・家庭・社会をどうとらえるか～【堀内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編 生活書院】		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 ○沖縄の保育・子育て問題【浅井幸夫・吉葉研司 編著】 ○沖縄子どもの貧困白書【沖縄子ども総合研究所編 かもがわ出版】		
授業の評価 方法・基準	授業への取り組み状況 (10%) レポート (20%)、テスト (70%)		
履修条件	特になし		
関連科目・次のス テージ	次のステージ 時代とともに変化する子どもと保護者の現状について常にアンテナを張り続けること。そして、全国と比較しても大変厳しい現 状にある沖縄県で保育士・幼稚園教諭として働くうえで必要とされることを見つけ出し、自己研鑽を重ねることができる専門職 を目指してください。		
オフィスアワー	授業終了後		
授業や課題に対 するフィードバ ック	レポート等の課題に対しては、次回講義の冒頭でコメントを行う。 授業に関連する新聞記事等の資料を配布する。		
受講生へのメッ セージ	現代の子どもと家庭を取り巻く社会の問題や課題について一緒に考えていきましょう！		
「777ブライコン」の 実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	子どもの保健	担当者	盛島・新垣(実務経験者)	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格：必修				
授業の到達目標	子どもが本来持っている発育・発達する能力が十分発揮されるようにするため、学生は、小児期の身体発育や生理機能、運動機能ならびに精神機能の発達、保健と保育について理解し、集団生活及び個々の特性に合わせた適正な保育能力を習得することができる。さらに子どもの疾病及び予防法、精神保健について理解し保育現場で適切に対応できる能力を身につける。								
授業概要	知性豊かで愛情あふれる保育が行えるよう、子どもの成長・発達や生理機能、運動機能並びに精神機能の発達と保健についてテキスト、資料、DVD、グループ討論を通して具体的に理解する。 さらに小児期の疾病や健康課題を学習し、子どもが集団との関わりや取り巻く環境との相互作用で成長発達することを理解し個別的な愛情あふれる保育について学習する。								
ディプロマ (DP)と授業の対応	② ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	② ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	③ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	④ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時	
1 週	オリエンテーション(学習目標、講義概要) 生理機能の発達と保健 1)呼吸機能の発達					事前：各器官の名称、位置、生理機能を調べる。		1.5H	
						事後：保育士になるための要件を考える。 呼吸機能の発達について復習しその阻害要因を調べる。		2H	
2 週	2)循環機能の発達 3)免疫機能の発達					事前：各器官の名称、位置、生理機能を調べる。		2H	
						事後：出生後の循環変化と免疫機能について復習する。		2H	
3 週	遠隔：Google classroomで講義資料、課題を提示 子どもの心身の健康と保健の意義 健康の概念と子どもの健康指標、母子保健関係法規 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題					事前：子どもの健康問題について考える。		2H	
						事後：子どもの貧困、医療的ケア児、病気や病気や障害の予防と早期発見に対する母子保健施策をまとめる。		2H	
4 週	遠隔：Google classroomで講義資料、課題を提示 子どもの身体的発育・発達と保健 生物としての人の成り立ち、生殖機能の発達					事前：受精卵の発育や運動機能の発達について調べる。		2H	
						事後：運動機能の評価や発育に影響を及ぼす因子を調べる。		2H	
5 週	生理機能の発達と保健 4)消化機能の発達 5)尿排泄機能の発達					事前：各器官の名称、位置、生理機能を調べる。		2H	
						事後：排尿、排便の自立援助を考える。		2H	
6 週	6)水分代謝 7)体温調節 11)神経機能の発達					事前：神経機能の発達について調べる。 子どもの1日に必要な水分量、体温の正常値について調べる。		2H	
						事後：水分代謝、体温調節機能について復習し新生児、乳児の体温を適正に保つための援助法を考える。 原始反射についてまとめる。		2.5H	
7 週	遠隔：Google classroomで講義資料、課題を提示 8)内分泌機能の発達9)睡眠・覚醒リズム 10)感覚機能の発達					事前：各器官の名称、位置、生理機能を調べる。		2H	
						事後：各ホルモンの働きについてまとめる。		2H	
8 週	遠隔：Google classroomで講義資料、課題を提示 発達に即応した基本的生活習慣の形成 睡眠の意義、食習慣・排泄・清潔の習慣					事前：睡眠の意義、子どもの食生活の現状 子どもの排泄機能、清潔習慣を身に		2.5H	

		つける必要性について調べる。 事後：適切な生活習慣が子どもの発育、発達に及ぼす影響を考察する。 また、発達を促すための保育者の適切な関わりについて考える。	3H
9回	子どもの疾病の予防及び適切な対応 1) 感染症と予防接種	事前：親子健康手帳から自分の予防接種歴と罹患した感染症について調べる。 事後：予防接種や子どもがかかりやすい感染症の特徴、治療法についてまとめる。	2H 2H
10回	4) 消化器疾患、5) 呼吸器疾患、6) 循環器疾患 10) 腎及び泌尿生殖器疾患	事前：小児期特有の消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、腎・泌尿生殖器疾患について調べる。 事後：消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、腎・泌尿生殖器疾患の治療法についてまとめる。	2H 2H
11回	遠隔：Google classroomで講義資料、課題を提示 2) 先天異常 3) アレルギー疾患	事前：胎児の健康に影響を与える要因について調べる。 アレルギー疾患がなぜ起こるか調べる。 事後：先天異常について復習する。	2H 2H
12回	遠隔：Google classroomで講義資料、課題を提示 15) 内分泌、代謝疾患	事前：成長ホルモン、インシュリンホルモンについて調べる。 事後：各疾患の特徴、治療法についてまとめる。	2H 2H
13回	7) 血液疾患、8) 悪性腫瘍、9) 神経系疾患	事前：小児期に多い血液疾患、悪性腫瘍、神経系疾患を調べる。 事後：各疾患の特徴、治療法についてまとめる。	2H 2H
14回	定期試験		
15回	遠隔：Google classroomで講義資料、課題を提示 11) 皮膚の疾患、12) 眼、13) 耳の疾患、	事前：身体の各器官の名称、機能を確認する。 事後：各疾患の特徴、治療法についてまとめる。	2H 2H
16回	遠隔：Google classroomで講義資料、課題を提示 14) 整形外科の疾患、16) ベットからの感染 17) 乳幼児突然死症候群(SIDS)	事前：身体の各器官の名称、機能を確認する。 事後：SIDSの現状、保育園における予防法についてまとめる。	2H 2H
テキスト	中根淳子/佐藤益子編著 北川好郎/濱口典子著「子どもの保健」ななみ書房		
参考資料など	講義の中で適宜紹介		
授業の評価方法・基準	定期試験(60%)、オンラインでのレポート課題(30%)、授業態度、討論への参加及び発表等(10%)で評価する。 レポート課題等については、評価後返却する。		
履修条件	受講マナー(遅刻、欠席、私語、居眠り等)に注意し、講義では積極的に参加する態度で臨むこと。		
関連科目・次のステップ	「乳児保育」等の関連科目を履修すること。また、講義で学んだ内容を日常生活で可能な限り実践すること。さらに後期では「子どもの栄養」等につなげて学習を深めること。		
オフィスアワー	講義終了後。		
授業や課題に対するフィードバック	テスト・レポート課題などについては、クラス全体で不正解の多かった箇所や学習における今後の課題などについて概説し返却します。		
受講生へのメッセージ	積極的に事前、事後学習に取り組み、子どもの発育・発達、かかりやすい病気について理解を深めて欲しいです。また、日頃か		

セージ	ら子どもに関するトピックや新聞記事等に目を通し子どもに対し広く興味関心を持って欲しいと思います。
TPIイテラティブの実施	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他()
実務経験	看護師の臨床経験、保健師の実務経験より子どもの生理・運動・精神機能の発達と保健、さらに小児期特有の疾病や健康課題及び安全管理について概説する。

科目区分	専門	科目名	乳児保育Ⅰ	担当教	大石洋子(実務経験者)	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格：必修				
授業の到達目標	・乳児保育の理念と役割、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について自らの意見を表現できる。 ・3歳未満児の保育内容や発育・発達を理解し、援助や関わりについて説明できる。 ・乳児保育に関心を持ち、グループ討論や生活援助の実験を身につける演習に、積極的に取り組むことができる。								
授業概要	・乳児保育の理念と歴史的変遷を踏まえ、乳児保育の意義・目的について理解する。 ・DVD視聴、グループ学習を通して、乳児の基本的な生活の援助や関わり方について学ぶ。 ・授乳・沐浴・おむつ交換等乳児独自の保育について演習、実習を通して具体的な方法や関わり方を学ぶ。								
学習目標	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ◎ ② 保育者・教育者としての専門的知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける ◎=DP達成の為に特に重要な項目 ○=DP達成の為に重要な項目 △=DP達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1 講	授業概要の説明 乳児保育の意義と目的					— 事後：乳児保育の意義についてまとめる		2H	
2 講	乳児保育の制度・発展経緯					事前：教科書パート1「乳児保育の制度・課題」予習 事後：乳児保育のあゆみについてまとめる		2H	
3 講	保育所・乳児院の役割 「乳児院における乳児保育」					事前：「乳児保育が行われる施設」について調べる 事後：乳児院の現状についてまとめる		2H 2H	
4 講	乳児保育の基本 「乳児保育の実践」乳児期前半					事前：教科書パート1「乳児保育の基本」予習 事後：教科書パート2「理論と実践の統合」確認		2H 2H	
5 講	乳児保育の基本 「乳児保育の実践」乳児期後半					事前：教科書パート2「理論と実践の統合」予習 事後：乳児期後半の生活や遊びについてまとめる		2H 2H	
6 講	乳児の発達と保育内容					事前：保育所保育指針第2章を予習 事後：教科書、保育所保育指針で確認		2H 2H	
7 講	1歳3か月から3歳未満児の発達と保育内容					事前：保育所保育指針第2章を予習 事後：教科書、保育所保育指針で確認		2H 2H	
8 講	低年齢児の保育 「1歳児編」援助や関わり					事前：教科書 第6章・第7章「発達の過程」予習 事後：生活や遊びの援助や関わりについてまとめる		2H 2H	
9 講	低年齢児の保育 「2歳児編」援助や関わり					事前：教科書 第8章・第9章「発達の過程」予習 事後：生活や遊びの援助や関わりについてまとめる		2H 2H	
10 講	グループ課題発表 「食事」「睡眠」「排泄」					事前：課題に沿った予習 事後：食事・睡眠・排泄の課題やポイントを確認		2H 2H	
11 講	グループ課題発表 「着脱」「清潔」					事前：課題に沿った予習 事後：着脱・清潔の課題やポイントを確認		2H 2H	
12 講	援助の実践 「調乳」「授乳」(演習)					事前：教科書「援助の実践」調乳について予習 事後：調乳・授乳についてポイントをまとめる		2H 2H	
13 講	援助の実践 「離乳食」「食事」(演習)					事前：教科書「援助の実践」離乳食について予習 事後：食事援助の実践についてポイントをまとめる		2H 2H	
14 講	援助の実践 「排泄・おむつ交換」「沐浴」(演習)					事前：教科書「援助の実践」排泄・沐浴について予習 事後：排泄・沐浴についてポイントをまとめる		2H 2H	
15 講	援助の実践 「着脱」「睡眠」(演習)					事前：教科書「援助の実践」着脱・睡眠について予習 事後：着脱・睡眠についてポイントをまとめる		2H 2H	

16 週	定期試験	事前：統括（前期授業の振り返り）	
テキスト	見る・考える・創り出す乳児保育 I・II	南文書林（¥1,900+税）	・保育所保育指針解説書
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業の中で適宜説明する。		
授業の評価 方法・基準	課題への取り組み 20% ・授業態度・演習態度 10% ・レポート 20% ・定期試験 50% 総合的に評価する。		
履修条件	日常的に福祉や保育に関する情報に関心を持ち、自主的・計画的に学習を实践すること。		
関連科目・次のス テージ	「子どもの保健」や「子どもの食と栄養」に関する科目との関連が深いので日々の授業を大切にすること。授業で学んだことを インターンシップや保育実習で生かすように努めること。		
オフィスアワー	授業終了後。その他必要に応じて対応しますので事前に連絡をすること。遠隔の場合はメールで受け付けます。		
受講生へのメッ セージ	身近な環境で生活する 3 歳未満児や、保育関連の情報等に興味関心を持ち、授業につなげていきましょう。		
7 対 7 授業の 実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL 米課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		
実務経験	保育士として、保育所での勤務経験を通じ、乳児における発達と効果的な援助についてを概説する		

科目区分	専門	科目名	特別の支援を必要とする 子どもの理解と実践Ⅰ	担当者	高敷聡・羽地知香 (実務経験者)	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	ED094	資格・免許要件	保育士：必修、幼稚園教諭二種：必修、小学校教諭二種：必修				
授業の到達目標			特殊教育、障害児の就学前教育の歴史、特別支援教育の理念、制度、教育・保育内容、障害児の理解や支援のあり方を概観的に理解できる。また、障害はないが特別的教育的ニーズのある子も含めた理解や支援の在り方についても概観的に理解できる。障害の特性や特別支援教育・保育の基礎用語及び基礎的知識を理解している。特別支援学校・学級の教育課程と障害児の就学前教育の実践的な方法を理解している。自ら課題意識を持って学習し、自分の考えを説明できる力を身につけ、組織的な対応、実践につなげる態度を身につけている。						
授業概要			この授業では、到達目標の達成のため、我が国の特別支援教育までの変遷と障害のある子とない子、また、障害はないが特別的教育的ニーズのある子が可能な限り共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築を目指して歩み始めた現状と課題を概説する。特別支援教育・障害児の就学前教育の理念、制度、教育課程、教育・保育の基本知識と様々な障害の理解と支援の方法、保護者や関係機関との連携など、実践例を交えながら授業を進める。授業では、視聴覚教材等補助資料を用いて授業内容を理解しやすいよう工夫する。授業計画は進捗と面接授業で変更がある。						
学習目標 (DP)と授業の対応			△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ●=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目						
			授業計画		時間外学習		時間		
1回 現地			オリエンテーション 就学までの支援の仕組みとその実際 早期発見・早期支援の体制		事前：テスト P62～P73 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理				
2回 高敷			オリエンテーション 障害のある子の出生と家族		事前：教科書の目次、第5章「就学までの支援の仕組みとその実際」P64～P77の予習 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理				
3回 遠隔現地			注意欠陥多動性障害、学習障害の理解と支援		事前：教科書 8 章「注意欠陥多動性障害の理解と支援」80～91・7 章「学習障害の理解と支援」P92～106の予習 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理				
4回 高敷			特殊教育から特別支援教育・障害児の就学前教育の歴史		事前：教科書 1 章「特別支援教育の理念と制度」P10～P14の予習 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理				
5回 高敷			特別支援教育の理念（障害はないが特別的教育的ニーズを含む）と制度		事前：教科書 1 章「特別支援教育の理念と制度」P10～P23の予習 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理				
6回 現地			視覚障害・聴覚障害と言語障害の理解と支援		事前：教科書 12 章「聴覚障害の理解と支援」P168～183 10 章「言語障害の理解と支援」P136～153の予習 事後：学習のまとめ				
7回 高敷			インクルーシブ教育システムと就学支援		事前：教科書 1 章「特別支援教育の理念と制度」P18～P23の予習 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理				
8回 高敷			小・中学校における特別支援教育の仕組み		事前：教科書第 2 章、3 章「特別支援学級や通級による指導の仕組みとその実際」P24～P47の予習 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理				

9 回 現地	自閉症、情緒障害、知的障害の理解と支援	事前：教科書 8 章「自閉症の理解と支援」P106～P121 9 章「情緒障害の理解と支援」P122～P135 の予習、15 章「知的障害の理解と支援」の予習 事後：学習のまとめ	
10 回 高教	特別支援学校における教育の仕組み	事前：教科書 4 章「特別支援学校における教育の仕組みとその実際」P48～P63 の予習 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理	
11 回 高教	「自立活動」の教育課程上の捉えと支援内容、実践的保育の方法	事前：教科書「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」P1～P28 の予習 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理	
12 回 現地	肢体不自由、病弱・身体虚弱の理解と支援	事前：教科書 13 章「肢体不自由に理解と支援」P184～197 第 14 章「病弱・身体虚弱の理解と支援」P198～211 の予習 事後：学習のまとめ	
13 回 高教	途切れない支援（教育的ニーズの把握・個別的教育支援計画・保護者支援）	事前：第 5 章のまとめ・配布資料を用いての予習 事後：学習のまとめ・定期試験の範囲	
14 回 現地	母国語や貧困等により特別的教育的ニーズのある子の実態把握と対応	事前：教科書 16 章「外国につながる子どもの理解と支援」P220～P235 の予習 事後：学習のまとめ、復習、配布資料の整理	
15 回 現地・高教	学習のまとめ（定期試験範囲） 前期最終日	事前：第 5 章のまとめ・配布資料を用いての予習 事後：学習のまとめ・定期試験の範囲	
16 回 現地・高教	定期試験	事前：定期試験の範囲のまとめ 事後：学習のまとめ	
テキスト	『インクルーシブ教育時代の教員を目指すための特別支援教育入門』大塚 玲編著（南文書林、2016）・『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省（海文堂出版、2009）（2,200 円＋税） 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』平成 30 年 3 月発行 文部科学省著作権所有 開隆堂出版（159 円＋税）		
参考資料など	参考書・参考資料等 ・『よくわかる障害児保育』尾崎康子・小林真・水内堂和・阿部美穂子編（ミネルヴァ書房 2018） ・適宜、自作の資料を用意する。		
授業の評価 方法・基準	・定期試験 80%、レポート 20% で評価 ・Google クラウドでは、担当教員が課題を示す。課題を期限内に提出して出席とする（提出期限厳守）。自己管理 ・各担当が出す課題については、その担当教員に提出すること		
履修条件	特になし		
関連科目・次の ステージ	特別の支援を必要とする子どもの理解と実践Ⅱ		
オフィスアワー	授業前後		
授業や課題に 対するフィード バック	授業後のレポート・振り返りシートなどを利用してフィードバックを行う 必要に応じて質問など授業後に受付をする		
受講生へのメ ッセージ	様々な教育・保育現場において、特別な配慮を必要とする子どもへの理解と支援の具体的な方法が求められています。この科目では、教育・保育の現場で実践をしていた教員のエピソード、実践を交えながらわかりやすく学びを深めていきます。		
17 回 バーチャル の 実践	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション (○) フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 (○) ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア (○) デイポート () PBL 課題解決型 (○) 反転学習 () 小テスト (○) ゲストスピーカー その他 ()		
実務経験	特別支援学校校長、保育所、発達支援事業所、健診事後教室等の保育士としての勤務経験から療育の実践と、障がいの特性について、援助する視点に立ち、概説する。		

科目区分	専門	科目名	社会福祉	担当	上原健二	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング	EC001	資格・免許要件	保育士資格 必修・小学校教諭二種免許状 選択必修 ・幼稚園教諭二種免許状 選択必修				
授業の到達目標	社会福祉の概要を理解し、保育（児童福祉）・教育で求められる専門的視点（価値・知識）を身につける。また、わが国における社会福祉の法制度に基づいた実際の運営・展開の状況について理解し、他者に説明できるようになる。								
授業概要	社会福祉の視点を踏まえて現代社会における様々な福祉的ニーズを捉え、理解する。理論的な枠組みから社会における社会福祉の役割を捉えながら、歴史的変遷を踏まえて培われてきた理念的な価値を学ぶ。その上で、実際のわが国における法制度、実施体系などの実態を学ぶ。								
ディプロマ (DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	● ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	●=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1 週	面接授業： オリエンテーション、“社会福祉”についての理解について					事前：“社会福祉”をイメージする 事後：社会福祉のイメージの整理と身近な生活からの情報収集。		2H	
2 週	遠隔授業： 社会福祉における基本的な視点・考え方、多様な生活課題について					事前：テキスト P2～P7 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
3 週	面接授業： 社会福祉の基本的枠組みと価値観・理念					事前：テキスト P10～P15 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
4 週	遠隔授業： 社会福祉を理解する基本的な視点（ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ウェルビーイング、ソーシャルインクルージョン、他）					事前：テキスト P15～P19 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
5 週	面接授業： 生活課題の捉え方とニーズ、ICF の概念					事前：テキスト P19～P21 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
6 週	遠隔授業： 自助・互助・公助・共助 社会福祉の歴史的変遷（欧米を中心に：救済事業から保護事業へ）					事前：テキスト P22～P27 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
7 週	面接授業： 社会福祉の歴史的変遷（欧米を中心に：福祉国家から福祉社会へ）					事前：テキスト P27～P30 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
8 週	遠隔授業： 社会福祉の法的枠組み（日本国憲法、社会福祉六法、他）					事前：テキスト P56～P58 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
9 週	面接授業： 社会福祉の歴史的変遷（日本を中心に、戦後の歩み）					事前：テキスト P33～P36 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
10 週	遠隔授業： 社会福祉の法制度（社会福祉法、社会福祉六法、他）①					事前：テキスト P58～P64 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
11 週	面接授業： 社会福祉の法制度（社会福祉法、社会福祉六法、他）②					事前：テキスト P64～P69 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
12 週	遠隔授業： 社会福祉の実施体系・実施機関					事前：テキスト P70～P84 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
13 週	面接授業： 社会福祉の財源と供給体制					事前：テキスト P84～P104 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
14 週	遠隔授業： 相談援助の視点、ソーシャルワークの基本的な理解					事前：テキスト P120～P140 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ		2H 2H	
15 週	面接授業： 期末試験					事前：期末試験に向けてテスト勉強をする 事後：		2H 2H	

18 週	遠隔授業： 授業全体を振り返ってのまとめ	事前：授業全体を振り返る 事後：授業全体を振り返る	2H
テキスト	・『最新 保育士養成講座第4巻 社会福祉』 『最新 保育士養成講座』総括編集委員会編 全国社会福祉協議会 2019年2月 ・『社会福祉小六法 2021（令和3年版）』 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房 2021年4月		
参考資料など			
授業の評価 方法・基準	定期試験 60% 小レポート 10% 受講態度 30%		
履修条件	特になし		
関連科目・次のス テージ	社会福祉領域の科目としては、同時期に「子ども家庭福祉」が開講されているので平行して学ぶことができる（関連科目）。1 年後期以降には「子育て支援」「特別の支援を必要とする子どもの理解と実践Ⅰ・Ⅱ」「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」「子ども家庭支援 論」などの科目でより具体的な学習につながる（上位科目・関連科目）。また、初等教育コースでは1年次夏期に「介護等体験」、 心理教育・福祉教育コースでは2年次夏期に「施設実習Ⅰ」が予定されており、それぞれの事前学習とも本科目は連動している （上位科目）。日々の生活において、自分の身近な生活やマスコミなどの情報に触れて、社会で起きている様々な話題を「社 会福祉」のフィルターを通して考えてみよう。		
オフィスアワー	金曜日 5 時間目		
授業や課題に対 するフィードバ ック	提出されたミニレポート課題などは内容を確認後、内容のポイントやねらいなどの解説を随まえて、返却します。		
受講生へのメッ セージ	皆さんの「社会福祉」に対するイメージはどのようなものですか？この授業で学ぶことで再確認したり、新たな発見があるこ でしょう。保育や教育と社会福祉がどのように社会でつながり、連携していくのかを学ぶことができればうれしいです。		
アクティビティの 実施	() ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	社会的養護Ⅰ	担当教	砂川 麻世	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE090	資格・免許要件	保育士資格必修				
授業の到達目標	現代社会における子どもや家庭を取り巻く背景と社会的養護に関する意義と歴史的変遷、法制度、実施体系、関係する専門職等について理解し他者に説明できるようになる。児童の権利に関する条約を踏まえて、子どもの権利擁護について理解し、保育者の役割と結びつけることができるようになる。また、社会的養護の場面における保育者の役割を理解し他者に説明できるようになる。								
授業概要	子どもや家庭を取り巻く現代社会の状況を踏まえて、国が示す社会的養育ビジョンでうたわれている社会的養護の仕組みとそれを必要としている子ども・保護者に対する保育者の役割についてアクティブラーニング(グループワーク等)を通して理解する。								
ディプロマ・DPと授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 △ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力をつける。 ○=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1 回	オリエンテーション、社会的養護のとは何か				事後:教科書第 1 章「社会的養護の仕組み」(p28 まで)を 読み、大事な点、疑問点、気づいた点等に鉛筆で下線を引く			2h	
2 回	子どもの権利とは何か				事前:第 1 章(p24~p80)までを読み、1 回目の学習と同様に下線を引く 事後:配布資料を読み返す			2h 2h	
3 回	家庭と同様の養育環境について(ゲストスピーカー)				事前:第 7 章「里親制度と里親支援」を読み下線を引く 事後:配布資料を読み返す			2h 2h	
4 回	措置を基本とする施設について				事前:第 2 章「措置を基本とする施設」を読み下線を引く 事後:施設実習先である児童福祉施設全般について、社会福祉小六法を活用して、法的根拠などを調べる			2h 2h	
5 回	利用・契約を基本とする施設について				事前:第 8 章「利用・契約を基本とする施設」を読み下線を引く 事後:今日学んだ施設について小六法で振り返る			2h 2h	
6 回	社会的養護の歴史について				事前:第 4 章「社会的養護の歴史」を読み下線を引く 事後:配布資料を読み返す			2h 2h	
7 回	社会的養護の歴史について (コルチャック先生の実践から学ぶ)				事前:児童の権利に関する条約を振り返る 事後:配布資料を読み返す			2h 2h	
8 回	社会的養護の専門職・実施者、専門職の倫理の確立について				事前:全国保育士会倫理綱領について復習 事後:配布資料を読み返す			2h 2h	
9 回	子どもの権利の捉え方について(ゲストスピーカー予定)				事前:2030SDGs について調べる 事後:配布資料等を読み返す			2h 2h	
10 回	施設養護の特質と基本原理・施設(集団)で暮らすことについて				事前:第 5 章「実際の支援」を読み下線を引く 事後:配布資料を読み返す			2h 2h	
11 回	施設養護の実際(日常生活・自立支援・家族再統合・地域支援)について ※DVD 視聴予定				事前:第 10 章「施設養護の実際」予習 事後:DVD 視聴に関するワークシートのまとめ			2h 2h	

12 回	施設実習の実態(治療的・支援的援助)について	事前:同上 事後:配布資料を読み返す	2h 2h
13 回	ソーシャルワークと家庭支援について	事前:第6章「ソーシャルワークと家庭支援」を読み下線を引く 事後:章に関連する事例問題を考える	2h 2h
14 回	児童福祉施設の運営管理について	事前:第8章「児童福祉施設の運営管理」を読み下線を引く 事後:社会福祉小六法の関連内容を確認	2h 2h
15 回	定期テスト	事前:ノート、配布プリントを整理し、14回までを振り返り、質問等を考える 事後:テスト内容を振り返り、わからなかった点を振り返る	2h 2h
16 回	定期テストの解説・総括	事前:定期テストに関する振り返りをする	2h
テキスト	『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』,原田旬哉・杉山宗尚編,2018,萌文書林		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針解説書、教育・保育要領、その他授業中に適宜提示する。		
授業の評価方法・基準	テスト40%、プリント課題40%、グループワークへの参加度10%		
履修条件	日頃から福祉保育等に関する新聞記事等に関心をもち、情報を収集すること。また、施設実習をイメージしながら、関連づけて学びを深めること。		
関連科目・次のステージ	施設実習や児童館実習等と関連するため、学習成果を実習先での子ども理解や実習生の役割に関連づけて実践できるようにする。		
オフィスアワー	月曜日 9:00~11:00、水曜日 18:00~18:00		
授業や課題に対するフィードバック	発表についてはその場でコメントし、課題については確認し、全体に総括しコメントします。また、試験は採点后に授業で一旦返却して全体で振り返り、コメントします。		
受講生へのメッセージ	授業終了後には、施設実習や児童館実習を控えています。そのことをイメージしながら、施設を利用する子ども達の背景、福祉的な支援と保育者の役割とは何かに関心をもち、実習に役立てられるよう共に学んでいきましょう。 連絡先: anayorowic.ac.jp		
777イテツダの実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メタ () デイバート () PBL課題解決型 () 反転学習 () 小テスト (○) ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	社会的養護Ⅱ	担当教	後習習室	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE096	資格・免許要件	保育士選択必修				
授業の到達目標	現代社会における家族・家庭の役割や機能、現状を把握し、子どもの人権を中心として必要とされる支援のあり方を考察する。併せて、保育や教育現場における支援者の役割や関係機関との連携について理解する。								
授業概要	授業は資料提供によってすすめ、グループワーク等を取り入れる中で、受講生自身の考えを整理・深化させ、児童に寄り添った支援技術を習得し、地域で実践できるようにする。								
ディプロマ (DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	○	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	○	○=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目							
	授業計画					時間外学習		時間	
1 週	・オリエンテーション					事前：シラバス資料の確認 事後：		0.5H	
2 週	・子どもの人権擁護と社会的養護 ・家庭の機能と社会的養護 ・演習 子どもの最善の利益について考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
3 週	・社会的養護の基本原則Ⅰ ・演習 知的障害がある子どもの最善の利益を考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
4 週	・社会的養護の基本原則Ⅱ ・演習 生存と発達保障について考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
5 週	・小テスト① + 補充授業（予備時間）					事前：これまでの振り返り 事後：		1.0H	
6 週	・社会的養護の基本原則Ⅲ ・演習 子どもの権利を守る仕組みを考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
7 週	・社会的養護の基本原則Ⅳ ・演習 知的障害児の異性介助について考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
8 週	・社会的養護の基本原則Ⅴ ・演習 支援者の子ども観について考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
9 週	・社会的養護の制度と実施体系 ・演習 パートアウトについて考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
10 週	・小テスト② + 補充授業（予備時間）					事前：これまでの振り返り 事後：配付資料等の振り返り		1.0H	
11 週	・乳児院と児童養護施設 ・演習 個別対応の事例について考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
12 週	・障害児の入所施設 ・演習 給の介護をする母親の事例					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
13 週	・児童自立支援施設と児童心理治療施設 ・演習 無断外出の事例について考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
14 週	・里親とファミリーホーム ・演習 養育里親委託児童事例について考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
15 週	・社会的養護の現状と課題 ・演習 施設における専門的技術について考える					事前：演習課題学習 事後：配付資料等の振り返り		1.0H 1.0H	
16 週	・科目修了試験 ※大教室での試験実施を調整する予定					事前：これまでの振り返り 事後：		1.5H	

テキスト	・児童の福祉を支える—社会的養護Ⅰ 吉田真理・編著 坂本正路、高橋和弘、村田敏子
参考資料など	・適宜資料を配付します。 ・
授業の評価 方法-基準	・科目修了試験（70%）、受講態度（30%）
履修条件	・児童福祉施設など社会的養護に関心を持ち、グループワーク等に積極的に参加すること。
関連科目・次のス テージ	・「児童家庭福祉」や「援助技術」等の関連科目について復習すること。地域で支援が必要な児童等について、自分ができることを考えてみること。
オフィスアワー	・授業の前夜
受講生へのメッ セージ	・受講生の皆さんにとっても、私にとっても、地域での子ども支援やふだんの対人関係にプラスになるような授業内容にしたいと考えています。わくわく感をもって共に学びあえる機会となることを願っています。
実習経験	児童相談所勤務経験を活かして、実際にあった事例を交え、養護に関する制度や考え方が、どう実務で機能するかを概説する。

科目区分	専門	科目名	保育所実習Ⅱ指導 (保育所)	担当者	羽地知香・赤瀬	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	EE078	資格・免許要件	保育士必須				
授業の到達目標	保育所実習Ⅰや既習教科の内容を相互に結び付けながら総合的な学びの場としての保育実習Ⅱに取り組み保育実践力を培う 保育の計画地立案と実践ができ、専門的な観察と記録に基づいた自己の保育内容を評価し自らの保育の改善と自己の成長を目指す し、保育職に従事するために必要な専門知識・評価・技術を身に付ける。								
授業概要	『実習のしおり』・『実習を終えて』の冊子、各種プリントを用いて保育実習Ⅱに必要な専門的知識・技術・諸準備などを整理・ 解説する。その知識などを基にして受講生自身が主体的に実習の準備をすすめる。議論や体験を通して実習および保育職への理解 を深める。								
学習目標 (DP)と授業の対 応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身に付ける。								
	○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身に付ける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身に付ける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身に付け、協働できる力身に付ける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1 回	オリエンテーション (受講案内)：保育士養成課程の理解				事前：関連する既習教科の内容を振り返る	1H		事後：希望圖について調べ、登録作業をす る	1H
2 回	保育所実習Ⅰの振り返り (グループワーク) 保育所実習Ⅱの意義と 目的				事前：保育所実習Ⅰの振り返りを行う	1H		事後：授業内容の整理と復習	1H
3 回	子どもの保育 (幼児期が終わる前に育てたい 10 の姿) と保護者支 援、				事前：関連する既習教科の内容を振り返る 保育所保育指針解説を読んでおく	1H		事後：授業内容の整理と復習	1H
4 回	子どもの最善の利益を考慮した保育の総合的な学び、保育園事前学習 の準備				事前：関連する既習教科のない世の振り返り 保育所保育指針解説を読む	1H		事後：授業内容の整理と復習	1H
5 回	保育園事前学習：保育の専門性を学ぶ				事前：保育園の役割と専門性を調べる	1H		事後：授業の内容の整理と振り返り	1H
6 回	保育の全体計画：具体的な計画と実践 (日案・指導案)				事前：『実習を終えて』を読んでおく	1H		事後：授業の整理とまとめ	1H
7 回	観察と記録 自己評価 1 (日誌)				事前：『実習を終えて』を読んでおく	1H		事後：授業の整理とまとめ	1H
8 回	観察と記録 自己評価 2 (日誌)				事前：『実習を終えて』を読んでおく	1H		事後：授業の整理とまとめ	1H
9 回	保育実践力に向上1 (実践) 絵本				事前：年齢別の絵本を調べる	1H		事後：授業の整理とまとめ	1H
10 回	保育実践力に向上2 (実践) 手あそび				事前：実践的な遊びを調べる	1H		事後：授業の整理とまとめ	1H
11 回	実習準備のチェック				事前：『実習のしおり』を読んでおく	1H		事後：実習準備のチェックを再度行う	1H
	保育所実習Ⅱ 現場実習 10日間								
12 回	保育実習Ⅱの振り返り：保育実習Ⅰ・Ⅱの総括と自己評価				事前：自己評価をあらかじめおこなう	1H		事後：自分の書いた日誌のブラッシュアップ	1H
13 回	保育者の業務内容・専門性・保育倫理の実践的理解				事前：教科書の復習・保育所保育指針を読む	1H		事後：授業の整理と復習	1H

14回	実習から学ぶ：保育者健（ディスカッション：1・2年合同授業）	事前：『実習を終えて』を読んでおく 事後：授業の整理と復習	
15回	保育者としての自己課題の明確化	事前：自分が行って来た実習をまとめておく 事後：振り返りテストの準備	
16回	振り返りテスト	事前：振り返りテストの準備 事後：振り返りテストの見直し	
テキスト	岸井慶子監修『保育実習リアルガイド』学研教育みらい 長島和代『これだけは知っておきたい わかる・断せる・使える 保育のマナー言』わかば社 厚生労働省編『保育所保育指針解説』 沖縄女子短期大学児童教育学科編『実習のしおり』『実習を終えて』（いずれも非売）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 幼稚園教育要領解説・幼保連携型こども園教育・保育要領解説		
授業の評価 方法・基準	期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価。また、事前指導の期間中に各種課題を実施して到達度をチェックする。 その評価が一定の水準に達していない場合は実習を実施できないことがある。 各種課題（複数合計50%） 授業態度（30%） 実習レポート（20%）		
履修条件	保育所実習Ⅰを終了していること。事前指導として開講される13回のうち3回以上の欠席で保育実習Ⅱの実施を取りやめる。なおその場合、自動的に事後指導の受講もできなくなり、この保育実習ⅡAの単位も不可となる事があるので注意すること		
関連科目・次のステップ	保育、心理、福祉、発達に関する各教科の内容をもう一度まとめ学習しておくこと。また、これらの科目で得た知識、技術、態度等は学外実習の実践につなげること。		
オフィスアワー	授業後、または、担当講師と相談の上行う		
授業や課題に対するフィードバック	各種課題で出た質問に必要に応じて答える。		
受講生へのメッセージ	保育所実習Ⅰを経験していても緊張と不安はあると思います。しかし、学外の実習先では、子ども達皆さんと一緒にあそびたいと待っています。より実力をつけ、一つ一つの課題をクリアしながら保育者になるために必要な知識・技術を身に付けることが出来るように共に学びましょう。		
7対1指導の実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション (○) フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL系課題解決型 () 反転学習 () 小テスト (○) ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	保育実習指導ⅡB(施設)	担当教	砂川麻世・高敷隆	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	KE068		資格・免許要件	保育士資格 必修	児童厚生2級指導員資格 必修		
授業の到達目標	保育士養成課程における施設実習Ⅰの位置づけを理解し、実習に向けて明確な課題意識を持ち、各実習先の概要や子ども(利用者)理解に努め他者に説明できることを実習前の到達目標とする。実習後は観察・記録された実習日誌や現場からの評価表をもとに自己評価を行い、実習事例を通して振り返り、保育者の役割を理解し、自己の課題を整理する。これにより、保育士の専門性と職業倫理を養い、有資格者としての具体的な資質・能力を身につける。								
授業概要	実習前の指導では、実習の意義や実習先の種別・利用者理解、施設の役割等を理解し、自己の実習課題を明確にする。実習日誌の書き方などの具体的な実習に向けたスキルを習得することで、事前オリエンテーションや実習開始に向けた準備に繋げる。実習後の指導では、実習を振り返り、1年生への報告内容を整理することで実習の総括とする。また、実習先の評価と自己評価を通して、卒業に向けて、保育者としての新たな自己課題を明確にする。授業計画は、遠隔と対面(授業)で変更する場合がある。								
ディプロマ・ポリシー(DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ○=DP達成の為に特に重要な項目 ○=DP達成の為に重要な項目 △=DP達成の為に望ましい項目								
回数	授業計画	時間外学習	時間						
事前	1回	施設実習Ⅰの目的及び全体的な概要の理解 ・実習先希望調査の確認	事後：施設実習Ⅰの位置づけの再確認(1h) 1H						
	2回	施設実習Ⅰ報告会の振り返りや施設実習に関連するDVD①を視聴し実習の意義・目的を考える	事前：前年度の先輩の報告会の振り返りの見直し(1h) 事後：授業の振り返りとまとめ(1h) 1H 1H						
	3回	施設種別や法的根拠等について①(養護系を中心に) ・施設における保育士の役割を考える	事前：他の授業で学んだ養護系の施設の再確認(1h) 事後：外来講話に向けた質問事項などの整理(1h) 1H 1H						
	4回	福祉現場の職員から学ぶ①(児童相談所の職員による外来講話)	事前：外来講話に向けた質問事項などの整理(1h) 事後：授業の振り返りとまとめ(1h) 1H 1H						
	5回	施設種別や法的根拠等について②(障がい系を中心に) ・保育士資格を生かした役割と実際の支援等について考える	事前：既修得科目で学んだ障がい系の施設の再確認(1h) 事後：外来講話に向けた質問事項などの整理(1h) 1H 1H						
	6回	福祉現場の職員から学ぶ②(障がい系施設の職員による外来講話)	事前：外来講話に向けた質問事項などの整理(1h) 事後：授業の振り返りとまとめ(1h) 1H 1H						
	7回	施設実習Ⅰの配置先決定後の施設種別ごとの理解及び課題の整理、実習評価について	事前：自分の実習先の配置の確認と実習を終えてを 読み実習内容を理解する(1h) 事後：具体的に配置決定後の施設の事前学習(1h) 1H 1H						
	8回	施設実習に関するDVD②を視聴し、施設実習Ⅰの実習日誌の意義や書き方等を考える	事前：具体的に配置決定後の施設の事前学習(1h) 事後：授業の振り返りとまとめ(1h) 1H 1H						
	9回	配置された各実習先の理解の確認① (『実習を終えて』を通して、各実習先の生活の流れや利用者理解等を確認する)	事前：『実習を終えて』の施設実習Ⅰを読む。(1h) 事後：授業の振り返りとまとめ(1h) 1H 1H						
	10回	配置された各実習先の理解の確認②と事前オリエンテーションについて考える(施設種別のグループワークを通して、実習先の日課や入所児・者等について確認する)	事前：各実習先の個別の事前学習の整理(1h) 事後：事前オリエンテーションに向けた準備(1h) 1H 1H						
	11回	各実習の直前指導・オリエンテーションなどの進捗状況の確認 事例の振り返り①(養護系記録・障がい系実習記録を基に)	事前：実習開始直前の確認・質問事項の整理(1h) 事後：授業の振り返りとまとめ(1h) 1H 1H						
事後	12回	各自の実習先・施設種別における施設実習Ⅰの振り返り 実習先への手作りプレゼントを考える	事前：各自の施設実習Ⅰの体験の振り返り(1h) 事後：各自の振り返りのワークシートの記入(1h) 1H 1H						
	13回	施設種別ごとのグループによる実習体験の振り返り作業 ※保育士としての誇りを生かしたプレゼント作り	事前：各自の振り返りのワークシートの記入(1h) 事後：授業の振り返りとまとめ、実習報告会の準備(1h) 1H 1H						
	14回	実習経験の後輩への伝達(養護系施設版) / 実習日誌の記述内容を通じた振り返り	事前：施設実習Ⅰ報告会(養護系施設)の準備(1h) 事後：他の発表を聞いた振り返りとまとめ(1h) 1H 1H						
	15回	実習経験の後輩への伝達(障がい系施設版) / 実習日誌の記述内容を通じた振り返り	事前：施設実習Ⅰ報告会(障がい系施設)の準備(1h) 事後：他の発表を聞いた振り返りとまとめ(1h) 1H 1H						

10 週	施設実習Ⅰの事実の振り返り・自己課題の整理 (実習日誌の記述内容・実習生評価票を活用して)	事前：自己評価票や実習日誌の振り返り作業 (1h) 事後：施設実習Ⅰ及び実習指導の振り返りとまとめ (1h)	1H 1H
テキスト	・大豆幸田啓有他編 (2020) 学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド、中央法規出版 ・『実習のしおり』(各年版) (神岡女子短期大学児童教育学科作成) ・『実習を終えて』(各年版)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業で適宜配付する。		
授業の評価 方法・基準	受講態度 (グループワーク等の参加状況なども含む) 40%、各種提出物 (実習に関連する必要書類、小レポートなど) 60%		
履修条件	この授業を履修する時点で施設実習Ⅰの実施が予定されている (実習配置の調整に含まれている) こと。新型コロナウイルス感染症対策として「健康観察記録」及び「行動観察記録」を実行していること。		
関連科目・次のス テージ	保育所実習Ⅰ (1 年次後期 (例年 2 月)) に続き、保育士資格取得の必修の実習である。選択必修 (保育所実習Ⅱ・児童館実習) と同時期である 2 年次夏期 (例年 7～8 月) に向けての事前指導、実習終了後の事後指導、その他、実習の経験が前後の他の授業にも影響することから、貴重な機会となっている。		
オフィスアワー	金曜日の 5 校目		
受講生へのメッ セージ	他の各種実習と異なり、施設実習Ⅰでは各学生は様々な種類の施設にて実習を行うことになります。普段の生活では触れることの少ない現場でそれぞれの学生が異なる経験を想定した実習となります。従って、事前学習は個々の取り組みが重要となることから、しっかりと目的意識を明確に取り組むことを心がけましょう。また、コロナ禍での実習実施が予想されるため、感染症対策を取り、新しい生活様式を徹底してください。 ※遠隔授業の課題の提出は、基本的に classroom になりますので、提出期限は厳守するようにしてください。		
7 対 7 対 7 の 実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション (○) フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL 課題解決型 () 反転学習 () 小テスト (○) ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	保育実習指導Ⅲ (施設・児童館)	担当者	石垣愛一郎・上原健二	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格(選択必修)・ 児童厚生員二級指導員資格(選択必修)				
授業の到達目標	保育士資格及び児童厚生員二級指導員資格の取得に必要な「施設実習Ⅱ(児童館を含む)」に向けて、児童館の役割や子どもの遊び支援・厚生員職の理解に努め、実習への明確な課題意識を踏まえて取り組むことを実習前の到達目標とする。実習後は実習日誌や現場からの評価票をもとに自己評価を行い、個々の課題や子どもへの支援の改善について振り返る。これにより、児童厚生員の専門性を養い、有資格者としての具体的な資質を身につける。								
授業概要	2年夏期に実施される「施設実習Ⅱ(児童館を含む)」に向けて、子どもの遊びや職員、施設について理解することや実習日誌・指導案の書き方などの具体的な実習に向けたスキルを習得することで、事前オリエンテーションや実習開始に向けた具体的な準備を整える。実習後には子どもや職員とのかかわりを通じた学生個人の実習の学びを振り返る。また、他の学生からの学びを相互に共有することによって、厚生員として求められる役割を理解し、卒業後につなげた見通しを定める。								
ディプロマ・ポリシー(DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目①②④ ○=DP 達成の為に重要な項目③ △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション:児童厚生員二級指導員資格取得のための実習体系、実習配置条件、実習の心得、実習指導の進め方について ※実習希望児童館の登録 遠隔授業①					事後:実習希望のための検索及びシラバスを通じた本授業の見直しを振り返る。		(1)	
2回	児童館実習の段階及び実習の一日の流れについて 面接授業①					事後:配布資料等を通して児童館実習の全体的な流れを確認する。		(1)	
3回	実習日誌の意義及び書き方、個人票の書き方 遠隔授業②					事前:配布資料の熟読、確認 事後:保育実習Ⅰの振り返り		(1)	
4回	遊びの指導・援助の実践のポイント(様々な実習事例を通して) 面接授業②							(1)	
5回	責任実習・実習指導計画・実習指導案の書き方について 遠隔授業③					「実習を終えて」を参考に児童館実習日誌を			
6回	実技指導例①(運動あそび) 面接授業③					使った書き方理解・責任実習に関しての			
7回	実技指導例②(制作あそび) 遠隔授業④					考え方、準備の仕方、実践方法、地域児童館・		(20)	
8回	実習指導案立案指導と実践 面接授業④					児童センターの1日体験を含めて総合的に			
9回	実習前学習(実習先訪問) 遠隔授業⑤					学習する。 事前・事後(20分)			
10回	私の研究課題、外来講話への質疑応答記入 面接授業⑤								
11回	児童館の現場職員から学ぶ(外来講話)質疑応答 ※変更あり 遠隔授業⑥								
12回	直前指導・オリエンテーションなどの進捗状況の確認、お礼状、訪問教員への手紙作成など 面接授業⑥								
13回	実習日誌の記述内容を通じた振り返り作業					※以下のスケジュールは実習後の振り返りとして後期授業に持ち越し		(1)	

14 回	グループによる実習体験の振り返り作業 日誌・実習先からの成績を振り返る	事後：実習先からの成績を受け取り、気持ちの整理を含めた各自振り返り作業を行う。	(1)
15 回	実習体験の後輩への伝達準備 グループ（地域別・実習先別）発表	事後：報告会資料の作成を通して児童館実習を客観的に振り返る。	(1)
16 回	児童館実習の事実の振り返り、自己課題の整理	事後：報告会を通して口頭で伝えることで改めて考察したことをまとめる。	(1)
テキスト	(新)保育所保育指針 解説書 厚生労働省編 フレーベル館 「実習を終えて」(各年版)、「実習のしおり」(各年版) 沖縄女子短期大学児童教育学科作成		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業で適宜配布する。		
授業の評価 方法・基準	実習前の前期授業では授業毎テーマの課題・レポート提出50%、積極的の取り組む姿勢20% 実習後の後期授業では振り返りシート等の提出・実習体験発表のまとめ30%		
履修条件	児童館・児童センターの全体的な役割を実習を通して経験し、理解すること。		
関連科目・次のス テージ	「児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法(福祉)」を同期に学んで実習に備え、「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」を後期に学ぶことで全体像としての児童厚生員の在り方に理解を深める。		
オフィスアワー	事前相談の上、担当教員（石垣・上原）の空き時間をオフィスアワーとする。		
授業や課題に対す るフィードバック	児童館実習を行う前の事前学習を通して理論と現場訪問等で備える。事後学習として現場で経験した各自の課題や日誌を振り返りを行う。		
受講生へのメッセ ージ	実習に関する「報告・連絡・相談」をしっかり行い、各実習が充実できるように取り組みましょう。 連絡先：ishigaki@owjc.ac.jp（石垣） k-uchara@owjc.ac.jp（上原）		
アクティブラーニング の実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション (○) フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション (○) プロジェクト学習 (○) ピアサポート (○) 質問及びフィードバック () 動画等メディア () ディベート (○) PBL(課題解決型) () 反転学習 () 小テスト (○) ゲストスピーカー () その他 ()		

科目区分	専門	科目名	保育原理	担当者	廣瀬真喜子・名波山よし乃	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	ED004	資格・免許要件	幼稚園教諭二種免許状 選択必修、保育士資格 必修				
授業の到達目標	保育所保育指針・幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要を把握し、保育の意義や保育の基本、保育の歴史等について他者に説明することができる。保育の現状と課題に関心をもち、幼児の姿をイメージしようとしながら学び続ける姿勢を身につけている。								
授業概要	保育原理では、幼稚園教育要領・保育所保育指針等の趣旨をふまえ、主に保育の意義や保育の目的及び目標、保育の歴史などを理解して、保育の基礎的知識の習得を目的とする。さらに、保育の現状と課題を把握し、自ら課題意識をもち、「保育の本質」とは何かについて模索する。								
ディベロップメント(DF)と授業の対応	☐ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ☒ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ☐ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ☐ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ○＝DF 達成の為に特に重要な項目 △＝DF 達成の為に重要な項目 △＝DF 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1 週	オリエンテーション 第1章 「保育」とは何か				事前：漢字テストの準備 テキスト該当箇所を読む			2 H	
2 週	第1章「保育」とは何か				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
3 週	第2章 保育の基礎としての子ども観				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
4 週	第3章 子ども理解から出発する保育				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
5 週	第4章 子どもが育つ環境の理解				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
6 週	第5章 保育内容・方法の理解				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
7 週	第6章 保育の計画と実践の原理				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
8 週	第7章 保育における健康・安全の原理				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
9 週	第8章 多様な子どもと共に育つ保育				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
10 週	第9章 保育の歴史に何を学ぶか				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
11 週	第10章 保育者に求められるもの				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
12 週	第11章 現代の子育てと子育て支援				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
13 週	第12章 保育の現状と課題				事前：テキスト該当箇所を読む 事後：キーワード3つでまとめる			2 H 2 H	
14 週	児童文化財を使った実践（合同授業）				事前：児童文化財について予習 事後：学んだことをまとめる			2 H 2 H	
15 週	テスト				事前：テスト勉強をする 事後：おさらいをする			2 H 2 H	
16 週	終章とまとめ				事前：終章を読む			2 H	

テキスト	保育原理 綾達英則・高峰景子・大豆生田啓友 ミネルヴァ書房 2,200円+税
参考資料など	授業中に適宜提示する。
授業の評価 方法・基準	毎時間の振り返りシート (30%) テスト (60%) グループディスカッション・発表 (10%) で総合的に評価する。
履修条件	受講マナーに配慮するとともに、積極的な心構えで授業に参加すること。
関連科目・次のス テージ	「保育内容 総論」、「保育内容 健康」、「社会福祉」等の科目とも関連づけて復習をすること。また、日常生活の中で保育に関する情報に関心をもつこと。
オフィスアワー	授業終了後及び木曜1校目(前期) アポイントをとること。hirose-n@wjc.ac.jp(前期)
授業や課題に対 するフィードバッ ク	提出物の提出期限を遵守すること。日常的に保育に関する情報に関心を持ち、子どもとふれあえる機会があれば積極的に参加をして自らの学びと結びつけるようにすること。
受講生へのメッ セージ	普段からテキストを読む習慣をつけましょう。ノートもまとめておきましょう。
7月17日の 発表	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()

科目区分	専門	科目名	保育内容総論	担当教	名波山・平田(共)	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格・幼稚園教諭二種免許状必修				
授業の到達目標	1. 家庭保育とは異なる集団保育施設における保育内容について理解し、説明することができる。 2. 集団の中の一人一人の子どもの育ちを保障するという視点から、保育の歴史、社会情勢等も視野に入れ、保育内容は保育者が幼児理解に基づき創意工夫するということを経験的に理解する。								
授業概要	「保育内容」とは、保育所や幼稚園等において保育の目標の達成に向けて展開される全ての内容を意味することを理解し、子どもの発達の側面から示されている5領域を総合的に関連付けることを習得する。保育とは、「養護と教育が一体となった」営みであり、子どもとかわりながら導く専門的行為であることを、ビデオ教材やディスカッション等を通して具体的にイメージしながら学ぶ。								
ディプロマ・DPと授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画	時間外学習				時間		
1回	オリエンテーション 授業概要	はじめに ～子どもと保育への願い～	事前：講義計画書に目を通し、授業に臨む。 事後：テキストの「はじめに」を読み返す。				1時間 1時間		
2回	第1章 保育内容のはじめの歩		事前：次回の内容について、テキストの該当頁を予習し、疑問点等、意識をもって授業に臨む。 ※幼・保、園こについて調べ学習をする。				各1時間 2時間		
3回	第2章 幼稚園教育要領等における保育内容の捉え方		事後：毎回、「自主学習」として、授業の振り返り及び「保育内容」に関連する学習をする。 ※学んだ施設について自主学習(体験計含む)を通して理解を深める。				各1時間 2時間		
4回	第3章 子ども理解と評価の考え方								
5回	第4章 指導計画の作成の理解								
6回	第5章 遊びや生活を通して学ぶということ								
7回	第6章 養護と教育が一体的に展開する保育		事前：集団保育施設の「個と集団」の理解を深める。				1時間		
8回	第7章 子どもの主体性を尊重する保育～保育園の一日～		事前：テキストと配付資料等を読み保育の歴史について理解を深め授業に臨む。 事後：その時代の背景理解を含めて暗記できるよう復習する。				各1時間 各1時間		
9回	第13章 保育内容の歴史の変遷と社会的背景①								
10回	第13章 保育内容の歴史の変遷と社会的背景②		事前：テキスト該当ページを予習する。 事後：乳幼児の発達、子育て支援、小学校との接続について他科目と関連付けて復習し理解を深める。				各1時間 各1時間		
11回	第8章 環境を通して行う保育		事前：これまでの振り返りをして臨む。 事後：試験に向けて総復習をする。				1時間 4時間		
12回	第9章 一人一人の発達をふまえた個と集団の育ち								
13回	第10章 家庭や地域との連携をふまえた保育								
14回	第11章 小学校との接続をふまえた保育								
15回	第12章 保育の多様な展開	まとめ							
16回	試験								
テキスト	○新しい保育講座4『保育内容総論』 渡辺英則、大豆生田啓友 編著 2020年3月刊行 2,200円 ○『幼稚園教育要領解説』(文部科学省) ○『保育所保育指針解説』(厚生労働省) ○『認定こども園保育・教育要領』(内閣府)								
参考資料など	○関連科目のテキスト(保育内容系、保育原理、子どもの保健等)他、授業の中で適宜提示する。								
授業の評価方法・基準	受講態度(毎回能動的に参加し、「わかる」ことを目指す態度)、課題、試験等総合的に評価。 課題(ノート作成)30%、受講態度(グループワークへの参加度等も含む)30%、試験 40%								
履修条件	特にありません。 ※初回授業は、学生便宜(履修要覧)を持参して下さい。								
関連科目・先駆者	○保育内容5領域との関連を常に意識して学ぶ。 ○日頃から「保育」に関わる記事、情報等に意識を持ち、ノートを整理し授業を振り返る。								
オフィスアワー	○授業や会議がない時間帯で調整可能です。								
卒業生へのメッセージ	「子ども」と「保育」を追求する気持ちと意欲を持っている人、ともに学びましょう！								

事前：テキストと配付資料等を読み保育の歴史について理解を深め授業に臨む。

事後：その時代の背景理解を含めて暗記できるよう復習する。

科目区分	専門	科目名	保育内容「健康」	担当者	石垣愛一郎	授業形態	講義	単位数	1
卒業要件	必修	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、児童厚生二級指導員				
授業の到達目標	1. 日本の乳幼児期の社会保障システムを理解することができる。 2. 新生児から幼児期に至るまでの発育発達を理解することができる。 3. 幼児期の運動あそびの意義と保育者の役割を理解し、実践することができる。 4. 幼児期に発生しやすい怪我や疾患を理解し、その対処法と防止策について考えることができる。 5. クラスメイトと共同して調べ学習、資料作成、発表ができる。								
授業概要	5領域の中の「保育内容 健康」の意味、位置付けを理解し、新生児期から乳幼児期における心身の発達発育を理解し、発達発育段階に合わせた関わり方を理解した上で、自立の促し方、生活習慣の確立、運動あそびの意義、安全教育の指導ポイントを総合的に学ぶ。								
ディプロマ(DP)と授業の対応	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目② ○=DP 達成の為に重要な項目③④ △=DP 達成の為に望ましい項目①								
	授業計画					時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション 教育・保育の歴史を学ぶ					事後：宿題：自分が住んでいる市町村の乳幼児のヘルスシステムについて調べる		1	
2回	「健康」とは何か 子どもの運動あそびを阻害する現代的課題の発表 遠隔授業①					事前：各市町村ヘルスシステムの検索 事後：教科書「第1章」を読み込む		1	
3回	子どもの身体の発育・発達 形態的発育・生理的機能の発達について学ぶ					事前：教科書「第2章」を読み込む 事後：教科書「第2章」を再読する		1	
4回	乳幼児期の安全教育とけがの予防 けが・事故の実態とけがの予防と安全管理 遠隔授業②					事前：教科書「第4章」を読み込む 事後：教科書「第4章」の復習		1	
5回	乳幼児期の運動について 寸劇によるグループ発表 0歳児～3歳児・3歳児以上の運動発達と環境					事前：教科書「第3章」を読み込む 事後：教科書「第3章」の復習		1	
6回	乳幼児期の生活習慣の形成 身辺自立・生活習慣形成の姿 遠隔授業③					事前：教科書「第5章」を読み込む 事後：教科書「第5章」の復習		1	
7回	伝承あそびの実践 グループ別振り付け発表「あんたがたどこさ」					事前：配布資料を読み込む 事後：伝承遊びの意味を振り返る		1	
8回	乳幼児の食と生活 食育の目標について考える 遠隔授業④					事前：教科書「第7章」を読み込む 事後：教科書「第7章」の復習		1	
9回	乳幼児期のあそびと運動 子どものあそびに関する「動機づけ」の種類を考える					事前：教科書「第6章」を読み込む 事後：教科書「第6章」の復習		1	
10回	幼児教育の基本と領域の考え方 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」 遠隔授業⑤					事前：教科書「第8章」を読み込む 事後：教科書「第8章」の復習		1	
11回	運動あそびの実践#1 グループ別運動あそびの発表					事前：あそび発表の事前打ち合わせ 事後：配布資料をもとに振り返り、理解を深める		1	
12回	家庭との連携と子育ての支援 遠隔授業⑥					事前：教科書「第9章」を読み込む 事後：教科書「第9章」の復習		1	
13回	運動あそびの実践#2 グループ別運動あそびの発表					事前：あそび発表の事前打ち合わせ 事後：配布資料をもとに振り返り、理解を深める		1	
14回	保育実習Ⅰを見据えた年間指導計画から日案までの流れ 運動あそびの立案、指導案の書き方等について 遠隔授業⑦					事前：教科書「第10章」を読み込む 事後：配布資料をもとに自身の保育実習Ⅰを見据えた運動あそび指導案を作成する		1	

科目区分	演習	科目名	保育内容人間関係	担当者	地域知習	授業形態	演習	単位数
卒業要件	選択	ナンバリング	EE049		資格・免許要件	幼稚園教諭・保育士必修		
授業の到達目標	現在、保育者に求められる資質が複雑化また多様化している。また幼稚園教育要領・保育所保育指針等の改定により、保育の質について問われている。本科目では、その様な社会の中においての人間関係、乳幼児期から大切にしたい人とのつながりについて学ぶ。心豊かな感性から子どもとの関係を築いていくために必要な専門性、技術、環境構成、コミュニケーション能力と協働する力を総合的に考え実践する力を付ける。							
授業概要	領域「人間関係」の内容のねらいを踏まえ、乳幼児期に大切な人とのつながりの発達や意味、その具体的な内容をテキスト等を参考に考慮する。また、事例などを通してグループワークなどを行い領域「人間関係」の重要性と保育現場においての子どもの見方、協働する力を身に付ける。							
ディプロマラー (DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目							
		授業計画				時間外学習		時間
1回	オリエンテーション 保育内容「人間関係」に求められていること					事前：保育所保育指針解説等の領域「保育所に関する基本原則」を読む 事後：テキストP1～P12をまとめる		1H 1H
2回	乳幼児期の子どもとの人間関係の発達 0・1・2・3歳未満児の育ちと人との関わり					事前：保育所保育指針解説領域「人間関係」P101～P115を読む テキストP16～P27の予習 事後：授業のまとめ・復習		1H 1H
3回	友達と生活や遊びをつくる 3・4歳児の育ちと人との関わり					事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキストP29～51の予習 事後：授業のまとめ・復習		1H 1H
4回	友達と生活や遊びをつくる 5歳児の育ちと人との関わり					事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキストP53～84の予習 事後：授業のまとめ・復習		1H 1H
5回	人との関わる力を育む保育 領域「人間関係」の「ねらい及び内容」をふまえて保育を構想する					事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキストP86～78の予習 事後：授業のまとめ・復習		1H 1H
6回	領域「人間関係」における評価					事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキストP80～P92の予習 事後：		1H 1H
7回	遊びや生活のなかで育む人と関わる力 人と関わる喜びや満足を感じる 一緒に過ごす事の喜び、楽しさ、イメージを共有する					事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキストP93～107の予習 事後：授業のまとめ・復習		1H 1H
8回	トラブルを通して成長する 子どもにとってのトラブルの意味と原因					事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキストP109～P112の予習 事後：授業のまとめ・復習		1H 1H
9回	道徳性・規範意識の芽生え 決まりの大切さに気づく					事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキストP122～128の予習		1H 1H

		事後：授業のまとめ・復習	
10 回	子どもとともに作り出す生活（ゲストスピーカー） 夢中になる体験、友達との関わり、葛藤	事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキスト P130～P132 の予習 事後：授業のまとめ・復習	1H 1H
11 回	協同する経験を重ねる 協同して遊ぶようになる過程	事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキスト P136～P145 の予習 事後：授業のまとめ・復習	1H 1H
12 回	特別なニーズをもつ子ども 1 集団生活を通して様々な人と関わる経験をする 個別の指導計画の作成	事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキスト P146～155 の予習 事後：授業のまとめ・復習	1H 1H
13 回	特別なニーズをもつ子ども 2 特別な配慮を必要とする子どもの未来のために必要な合理的配慮	事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキスト P157～P159 事後：授業のまとめ・復習	1H 1H
14 回	子どもの育ちをつなぐ 保育所と幼稚園・認定こども園等のつながり・小学校へのつながり	事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む テキスト P161～P175 の予習 事後：授業のまとめ・復習	1H 1H
15 回	授業の総合まとめ	事前：保育所保育指針解説等の領域「人間関係」を読む 今までの学びのまとめを行う 事後：授業のまとめ・復習	1H 1H
16 回	定期試験	事前：試験準備	2H
テキスト	岩立京子・西坂小百合編著 保育内容「人間関係」光生館		
参考資料など	厚生労働省編 『保育所保育指針解説』文部科学省『幼稚園教育要領解説』 汐見登幸・中山昌樹著 『これからの保育シリーズ710の姿で保育の質を高める本』風鳴舎		
授業の評価 方法・基準	定期試験 60% 授業後の振り返りシート 20% その他の提出物 20%		
履修条件	資格取得を目標に学ぶ意思を持って受講する事		
関連科目・次のス テージ	保育内容の各領域の科目 保育士として必要な資質になっていく事を意識し知識を得ていく。		
オフィスアワー	授業後・担当講師と時間の調整を行い案内をする。		
授業や課題に対 するフィードバ ック	授業後のコメントシート・メール・オフィスアワーにて質問等を受け付けていく オンライン授業などの時には、クラスルームからのメールで随時受け付けを行う（各課題での限定コメントでの質問は気が付かない事があるのでメールなどでしてほしい）		
受講生へのメッ セージ	指針・要領の改訂により、育ってほしい 10 の姿が指針等に表記されました。保育者になるためにもこの領域の学びを深め、子ども達の発達過程によりよい影響をもたらす保育者になるために学びを深めましょう。また、学びを深める事により実践的な力を身に付け、子ども達と出会う事を楽しみにできるような学びの時間にしていきましょう。学ぶ事はとても楽しいですよ。		
777(7)777(7)の 実践	(O) ペアワーク (O) プレゼンテーション (O) フィールドワーク () ロールプレイング (O) 振り返りシート (O) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (O) 質問及びフィードバック (O) 動画等メディア () ディベート () PBL 系課題解決型 () 反転学習 () 小テスト (O) ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	保育内容「環境」	担当教員	村吉和美	履修形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	EE060	資格・免許要件	幼稚園教諭二種免許状必修 保育士資格必修				
授業の到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の3法令に示された「環境による教育」とは何か。乳幼児にとって環境とは何か、教師の意図性と子どもの育ちとは何かについて、保育実践の様子を映した映像やパワーポイント及び教科書等で学び、グループワークを実施しながら、子どもが「もの・人・こと」にかかわる意味と保育の関係を知る								
授業概要	幼児教育は「環境を通して行う教育」である。幼児教育という環境とは何かを理解し、その環境に教師の意図を絡ませて行う保育の意味を深める。また、実際に自然環境を使って遊び、どのような環境構成をすれば幼児がさらに興味関心を高め継続的に遊べるか、また、そこから何が育つのか、その育ちが幼稚園教育要領・保育所保育指針でどのように表現されているかをグループ協議や発表などを通して理解を深める。								
ディベロプメン ト的授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
				授業計画		時間外学習		時間	
1	1	領域「環境」の意義と課題①：領域と教科について ：「環境」を通して行う教育とは	【事前】 (0.5h) ※授業の該当ページに目を通して疑問・質問事項をまとめておくこと ※幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の総則やまえがきをよく読み、幼児期の教育の目的・内容に精通しておくこと ※幼児期の子どもの発達段階について理解を深めること 【事後】 (0.5h) ※講義終了後、教科書の事例を読み込み、演習問題をやること。また、教科書に記載されたコラムに目を通すこと。 ※配布資料に目を通しておくこと ※参考資料などに目を通し各回の授業内容の理解を深める						
2	2	領域「環境」の意義と課題②：「環境」による教育とは ：子どもの主体性を大切にしたい教育							
3	3	ねらい及び内容における「環境」：ねらい・内容とは何か ：育みたい資質・能力—3つの柱							
4	4	子どもの発達と「環境」：発達と環境を考える4つの視点							
5	5	0歳児の発達と「環境」：0歳児の発達の特徴と環境							
6	6	1歳児以上3歳未満児の発達と「環境」：1歳児の発達の特徴と環境							
7	7	3歳以上児の発達と「環境」 ：3歳児・4歳児・5歳児の発達の特徴と環境							
8	8	5歳児後半の環境と小学校との接続 ：幼児期と児童期を繋ぐ保幼小接続							
9	9	自然との関わり：自然との関わりを通して育つもの							
10	10	国内環境：安心できる環境、夢中になれる環境							
11	11	国外環境：国外環境の意義：							
12	12	指導計画と環境：全体的な計画と指導計画							
13	13	多文化・障害のある子どもの「環境」：インクルーシブ保育とは							
14	14	地域環境との関わり及び保育者の環境：地域とのつながり							

15 回	テスト	※これまでの講義を教科書・ノート・資料振り返りかえる。
16 回	講義全体の振り返りとテストの解答等	
テキスト	事例と演習でよくわかる 保育内容「環境」：駒井美智子・横山文樹 編著 出版社：中央法規 2200 円 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説・認定こども園教育・保育要領解説	
参考資料など	2017 年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針 さあ、子どもたちの「未来」を話ませんか 著・沙見稔幸 小学館 2017 年 告示版 幼稚園教育要領ハンドブック 無藤 隆（監修） 学研	
授業の評価 方法・基準	テスト（70%） 課題（振り返りシート・レポート）（20%） グループワークへの参加度（10%）	
履修条件	保育者を目指す目的意識をもち、主体的に授業に取り組むこと。	
関連科目・次のス テージ	保育課程総論「保育原理」「発達心理学」「乳幼児保育」 「教育課程総論」との関連を見出す	
オフィスアワー	授業開始前 授業終了後 その他必要に応じて設定する。	
授業や課題に対 するフィードバッ ク	毎回の講義のフィードバックについては、原則、講義内で行うことし、テストやレポート等については、特にクラス全体として 不正解の多かった箇所について概説します。	
受講生へのメッ セージ	前時の授業を復習し、疑問に思ったこと等を授業時または終了後に質問をする等、解決できるようにする 出席は講義開始時にとる。（遅刻については、講義後各自申し出ること） ノートは必要に応じて提出するので、毎回日付を記載し、一冊にまとめておくこと	
7ヶ月間の 実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL 課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()	

科目区分	教養	科目名	保育内容 表現	担当者	赤嶺 綾支子	履修形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	EE052	資格・免許要件	保育士資格必修 幼稚園教諭二種免許状必修				
授業の到達目標	①領域「表現」について、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基軸に、そのねらいと内容を理解し、実践のための基礎的な知識と技能を身につけることができる。 ②5領域における「表現」の役割と目的、「表現」からみた他の領域とその関わり、両方の視点を持ち、自己や他者との対話の中で「表現」の有り方についての考えを構築することができる。								
授業概要	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基軸に、領域「表現」のねらいと内容をテキストの流れに沿って学ぶ。授業では、活動事例を確認したり、実際に身体を動かしたりしながら学習を進め、基礎的事項の論理的な理解をもとに保育・幼児教育における実践力を身に付けていく。また、実際の子どもを養育するに、保育者としてどのような「表現」の有り方を目指し、その活動を展開していけばよいか、自己や他者との対話を通して、考えを構築していく。								
学習目標と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時	
1回	オリエンテーション (開講計画及び内容、テキストについて)				事後：オリエンテーションの振り返り			1h	
2回	子どもの生活や遊びにおける領域「表現」の位置づけ、領域「表現」が目指すこと				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題①への取り組み			1h 1h	
3回	子どもの発達と表現 (表現の素材、人との関わり、表現を生むストーリー、表現と鑑賞)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題②への取り組み			1h 1h	
4回	感性を育む身体表現 (身体の発達と表現、身体感覚と感性及びイメージ、活動事例)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題③への取り組み			1h 1h	
5回	感性を育む造形表現 (身体の発達と造形表現、身体感覚と造形的感性、活動事例)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題④への取り組み			1h 1h	
6回	感性を育む音楽表現 (身体の発達と音楽表現、身体感覚と音楽的感性、活動事例)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題⑤への取り組み			1h 1h	
7回	保育における「表現」の歴史と、領域「表現」のねらい及び内容 (領域「表現」誕生までの流れと、身体・造形・音楽表現の捉え方の変容、領域「表現」のねらいと内容の理解)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題⑥への取り組み			1h 1h	
8回	領域「表現」と小学校教科等とのつながり (幼児期から児童期への接続と課題、領域「表現」の持つ可能性)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題⑦への取り組み			1h 1h	
9回	豊かな表現を育む環境構成 (物的・空間的・人的・時間的環境と表現、環境構成の実践)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題⑧への取り組み			1h 1h	
10回	3歳未満児における領域「表現」と指導法 (遊びや生活の表現と行事の表現、伝統文化と表現)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題⑨への取り組み			1h 1h	
11回	3歳以上児における領域「表現」と指導法 (遊びや生活の表現と行事の表現、伝統文化と表現)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題⑩への取り組み			1h 1h	
12回	造形表現のねらいと指導法 (造形表現のねらい、教材研究、活動事例)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題⑪への取り組み			1h 1h	
13回	音楽表現のねらいと指導法 (音楽表現のねらい、教材研究、活動事例)				事前：テキストの予習 事後：授業の復習と課題⑫への取り組み			1h 1h	
14回	子どもの表現と現代的課題 (子どもを取り巻く社会や環境、子どもの身体性と表現)				事前：テキストの予習 事後：これまでの授業の復習			1h 1h	

15 回	表現をめぐる保育の可能性 (求められる保育者の姿、保育の今と未来)	事前：テキストの予習 事後：これまでの授業の総復習	1h 1h
16 回	期末テスト	事前：これまでの授業の総復習	1h
テキスト	『保育内容「表現」』小林紀子・砂川史子・刑部育子編著、ミネルヴァ書房		
参考資料など	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他。 【購入を必須としないもの】 『保育内容「表現」』岡本弘子・花原幹夫・沙見登幸編著、ミネルヴァ書房。 『保育内容 表現 第2版』中川香子・清原知二編、みらい。		
授業の評価 方法・基準	学習態度（グループワーク・演習への積極的参加）20%、課題の提出 40%、期末テスト 40%		
履修条件	1 年 B・C・D クラス 2 年 A クラス		
関連科目・次のス テージ	「保育内容 健康」、「保育内容 人間関係」、「保育内容 環境」、「保育内容 言葉」 常に各領域との関連性を意識し、授業で得た学びを各領域の学びに生かしながら理解を深めていきます。実際の子どもの様子を 念頭に、表現活動の役割と可能性、求められる保育者の姿について思考し続けていきましょう。		
オフィスアワー			
授業や課題に付 するフィードバッ ク	授業内におけるディスカッションを通して、学習内容の理解が深まるよう支援を行ないます。課題は添削し、次回以降の授業で 返却します。		
受講生へのメッ セージ	感覚と感性をフル活用しながら、領域「表現」に関する基礎的な知識や技能を学んでいきます。常に「子ども」と「保育者」両 方の視点から物事を捉える姿勢を身につけていきましょう。		
7/11/17/23/30の 実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 (○) ピアサポート () 質問及びフィードバック () 動画等メディア () ディベート () FBL※課題解決型 (○) 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	幼児理解	担当者	岩井沙弥花	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	幼稚園教諭二種免許状（必修）				
授業の到達目標	1. 幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。 2. 幼児理解の方法を具体的に理解する。								
授業概要	子どもの心身の発達が保育場面における生活や遊びの中でどのように育まれるのかを学び、その発達過程を理解し支援するための知識や方法を習得する。テキスト、スライド、映像教材などを用いながら、各回の授業で設定された課題に取り組む。今後行われる各種実習および就職等において実際に子どもと接した時に、子どもの発達の状態や過程が理解でき、適切な支援を行うための基礎力を身につけ、その力を発展させるために主体的に考え学び続けようとする態度を形成する。								
ディベロプメン （DP）と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	△	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画	時間外学習			時間		
1回	オリエンテーション（受講案内）、幼児理解の意義		事前：子どもの発達過程についてこれまでに学んできたことを振り返る 事後：配布資料を読み直し、内容を十分に整理・記憶する			1h 1h			
2回	第1章 保育における「子ども理解」とは		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
3回	第2章 子どもを取り巻く環境の理解—発達と学習の支援から—		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
4回	第3章 子ども理解における発達の観点		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
5回	第4章 子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
6回	第5章 保育における観察と記録の実践		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
7回	第6章 記録に基づく保育カンファレンス		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
8回	第7章 保育における個と集団の関係の理解と援助		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
9回	第8章 一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
10回	第9章 保護者理解と援助の基本		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
11回	第10章 「子ども理解」を深めるための保育共同体		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
12回	ビデオ記録からの子どもの読み取り		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
13回	現場体験からのディスカッション		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：授業ノートの整理			1h 1h			
14回	子どもの個と集団の育ちを織り込んだ活動のデザイン		事前：該当する部分のテキストを読む 事後：デザインをまとめる			1h 1h			

15 回	デザインの発表	事前：発表の準備 事後：これまでの振り返り	1 h 1 h
16 回	試験と講評	事前：試験の準備 事後：授業の振り返り	1 h 1 h
テキスト	子ども理解と援助 高嶋景子 砂上史子（編著）2200円＋税 ミネルヴァ書房		
参考資料など	講義時に適宜提示します。		
授業の評価	期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価		
方法・基準	総合評価（成績）＝期末試験（50%）＋毎回の提出用紙（複数合計 30%）＋ディスカッションへの意欲・参加（20%）		
履修条件	子どもの育ちに関連する科目（特に「発達心理学」）の内容を十分に理解していること		
関連科目・次のステージ	「発達心理学」「乳児保育」「心理学概論」「カウンセリング概論」など、心理学や発達に関する各科目の内容とリンクさせること。また、これらの科目で得た知識・技能・態度等は学外実習の実践に繋げること		
オフィスアワー	授業直後（前期）月・木（3・4）の午後 事前アポイントがあると助かります hirose@kjc.ac.jp		
授業や課題に対するフィードバック	必要に応じて、フィードバックシートにコメントをします。全体に必要となれば、質問内容に対する回答を全体にフィードバックします。		
受講生へのメッセージ	講義には積極的に参加すること。日頃から機会があれば乳幼児と触れ合うこと。		
17 回（アクティビティ）の実施	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL 課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他（ ）		

科目区分	専門	科目名	児童文化財Ⅱ	担当者	大田 利津子 平田 千悦子	授業形態	講義・演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	ED085	免許・資格要件等	保育士資格選択必修				
授業の到達目標	前学年で習得した、各種児童文化財の種類、実技を活かし、保育現場での実践技術力をさらに向上できる。沖縄の民話の特質現状を学び、語りの実践を通して、物語を素語りする力を習得することができる。								
授業概要	絵本の読みあいを通して、相手を意識した、絵本の通書、読み聞かせ方法を学ぶ。民話絵本を通して、物語の発生、絵本の歴史を学ぶ。沖縄の民話を学び、沖縄の口承伝承話の中から話を選定、自分で語るまでの工程を学び、語りを実践する。子どものための伝承遊びを学び実践する。お話の小道具作りと、その実践方法を学ぶ。子どもの成長、発達を意識した児童文化財の実技・実践を学ぶ。								
ディプロマポリシーと授業の対応	◎ ①郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ◎ ②保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。								
		授業計画				時間外学習		時間	担当
	1回	講義内容解説 子どもと絵本Ⅰ（声で聞く物語から見る・読む物語）				事後：前学年で学んだ事を振り返る 事後：		1H	大田
	2回	子どもと絵本Ⅱ				事前：自分の読み聞かせ体験を記録 事後：自分のこれまでの読み聞かせ体験を記録		1H 1H	大田
	3回	民話と絵本（遠隔）				事前：世界・日本・沖縄の民話絵本 10冊 レポート作成 事後：絵本の歴史プリント熟読		1H 1H	大田
	4回	沖縄の民話（種類・特質・話者の語りを聞く）				事前：県立博物館HPうちなー民話のへや視聴 事後：県立博物館HPうちなー民話のへや視聴		1H 1H	大田
	5回	沖縄の民話を語るⅠ（話を聴く・再話）（遠隔）				事前：語りテキスト 「沖縄の昔話山本川恒徳の語り」を読む 事後：再話をすすめる		1H 1H	大田
	6回	沖縄の民話を語るⅡ（再話・覚え方・語り方）				事前：再話をすすめる 事後：再話した話を覚え、語りの練習をする		1H 1H	大田
	7回	沖縄の民話を語るⅢ（覚えて語る、実践1）				事前：再話した話を覚え、語りの練習をする 事後：再話した話を覚え、語りの練習をする		1H 1H	大田
	8回	沖縄の民話を語るⅣ（覚えて語る、実践2、レポート）				事前：再話した話を覚え、語りの練習をする 事後：語りの練習を続け、実習に備える		1H 1H	大田
	9回	伝承文化（わらべうた・お手玉・あやとり遊び）				事前：お手玉を作成・あやとり紐の準備 事後：講義で演習したことを、しっかり覚える		1H 1H	平田
	10回	子どもと絵本Ⅲ				事前：「ワークで学ぶ児童文化」 第2章、3章の予習 事後：テキストのブックガイドの本を読む		1H 1H	平田
	11回	子どもと遊び				事前：「ワークで学ぶ児童文化」第7章の予習 事後：テキストのブックガイドの本を読む		1H 1H	平田
	12回	小道具を使ったお話				事前：制作作品の準備 事後：制作物を実践するためのシナリオ作成練習		1H 1H	平田
	13回	児童文化財制作・実践Ⅰ				事前：制作する児童文化財について予習 事後：作品を仕上げ、演じ方練習をする		1H 1H	平田
	14回	児童文化財制作・実践Ⅱ				事前：制作する児童文化財について予習 事後：作品を仕上げ、演じ方練習をする		1H 1H	平田
	15回	実技発表会 プログラム作成				事前：発表で使用する児童文化財の準備 事後：発表に向けてグループで練習		1H 1H	平田
	16回	実技発表会・テスト				事前：グループでの発表内容確認、練習		1H	平田
テキスト	『沖縄の昔ばなし 山本川恒徳の語り』 NPO法人沖縄伝承資料センター発行 ・随時プリントを配ります								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 『感じあふ伝えあふ・ワークで学ぶ児童文化』 村中幸衣 編著 金子書房発行（前学年で購入済） 『おはなしおばさんの小道具』 藤田裕子 著 一歩社発行								
授業の評価方法・基準	作品制作、実技 80% テスト40%								
履修条件	日常的に、保育に関する情報に関心をもつこと。グループ制作・発表が多いので、授業時間、時間外とも、メンバーとの丁寧な連絡体制を作る事。								
関連科目・次のステップ	授業で学んだ内容、実技を可能な限り実践すること。								
学びの振り返り	授業終了後、事前・事後にアポイントをとること。								
受講生へのメッセージ	授業で学んだことが、各種の実習に役立つことを目指して授業をすすめます。作品は必ず仕上げ、積極的に実技・実践に臨んでください。								
アクティブラーニングの実施	(○) グループワーク (○) ディスカッション (○) 動画等メディア (○) PBL課題解決型								

科目区分	専門	科目名	心理学概論	担当者	渡名喜舞衣子	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE080		資格・免許要件	ピアヘルパー受験資格：必修			
授業の到達目標	人間の心のはたらきや行動の基礎となるしくみ(心理学)について具体例を含めて説明できる。また、人間を様々な視点から理解する姿勢を身につけ、日常生活の中でどのように活かすかを主体的に考えることができる。								
授業概要	テキストを中心に心理学のさまざまな知見について、身近な話題を挙げながら概観する。講義だけでなく、心理学実験やワークを通して、心理学とはどのような学問か、また人間の行動の基礎となるしくみについて学びことを通して、自己および他者の捉え方を学習する。								
ディプロマ・ラー (DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	△ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				時間
1回	心理学とは	心とは	脳と心		事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h
2回	オリエンテーション	感覚・知覚・認知		事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h	
3回	学習	事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h			
4回	記憶①	記憶のしくみ		事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h	
5回	記憶②	効率良く記憶・学習するには		事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h	
6回	パーソナリティ(性格)①	パーソナリティの理論、知能		事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h	
7回	パーソナリティ(性格)②	パーソナリティの測定		事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h	
8回	感情	事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h			
9回	欲求・動機①	事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h			
10回	欲求・動機②	事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h			
11回	対人の心理①	事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h			
12回	対人の心理②	事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h			
13回	社会の心理	事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。				0.5h			
14回	ストレス・ストレスマネジメント	事前：次回のテキスト当該ページを読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5h			

		事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。	0.5h
15回	無意識	事前：次回の当該資料を読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：習得した心理学の知識と身近な行動を結びつけて復習する。	0.5h 0.5h
16回	まとめと定期試験		
テキスト	「イラストレート心理学入門第3版」齊藤 勇 誠信書房		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業で適宜紹介する。		
授業の評価 方法・基準	①授業への参加態度(10%)、②授業で課す課題の内容(60%)、③期末試験(30%)で総合的に評価する。		
履修条件	ピアヘルパー資格取得を目指す人。心理学について意欲的に学びたい人。		
関連科目・次のス テージ	「カウンセリング概論」これまで受講してきた専門科目と関連付けながら講義を受講しましょう。		
オフィスアワー	月曜日午後(事前に連絡してくださると助かります。)		
授業や課題に対 するフィードバック	振り返りシートにおいて質問等あった場合は、次回授業内でコメントし、クラス全体で共有します。		
受講生へのメッ セージ	皆さんが主体です。お互いの気持ちの良い授業をつくりましょう。		
アクティブラーニングの 実施	(○)ペアワーク ()プレゼンテーション ()フィールドワーク ()ロールプレイング (○)振り返りシート (○)ディスカッション ()プロジェクト学習 ()ピアサポート (○)質問及びフィードバック (○)動画等メディア ()ディベート ()PBL※課題解決型 ()反転学習 ()小テスト ()ゲストスピーカー その他()		

科目区分	専門	科目名	保育内容 環境	担当	名道山よし乃	授業形態	講義	単位数	2																																																
卒業要件	選必	ナンバリング				資格・免許要件	保育士資格・幼稚園教諭二種免許状必修																																																		
授業の到達目標	「子どもたちが豊かに育つ環境とは：また、「そのために保育者に求められることは何か」保育内容「環境」の考え方とその実際について学び、子どもにふさわしい教育・保育環境について、説明することができる。																																																								
授業概要	テキストや保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育保育要領解説等及び具体的な事例をとおして学び、友人と意見交換等を行うことで、子どもの生活や遊びにとってふさわしい環境について学びを深める。																																																								
ディベート（対）と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。																																																								
	○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。																																																								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。																																																								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力をつける。																																																								
	●=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目																																																								
<table><thead><tr><th></th><th>授業計画</th><th>時間外学習</th><th>時間</th></tr></thead><tbody><tr><td>1 回</td><td>オリエンテーション 本学教育課程の中の科目の位置付け 授業概要</td><td>事後：次週までに、テキストの「はじめに」をしっかりと読み込み理解する。</td><td>1 時間</td></tr><tr><td>2 回</td><td>第 1 章 子どもを取り巻く環境 (1)</td><td rowspan="5">事前：次週の内容について、テキストの該当ページを読み、疑問点等、意識をもって授業に臨む。</td><td rowspan="5">各 0.5 時間</td></tr><tr><td>3 回</td><td>第 1 章 子どもを取り巻く環境 (2)</td></tr><tr><td>4 回</td><td>第 2 章 身近な環境とのかかわりと感性の育ち</td></tr><tr><td>5 回</td><td>第 3 章 モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び） (1)</td></tr><tr><td>6 回</td><td>第 3 章 モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び） (2)</td></tr><tr><td>7 回</td><td>第 4 章 自然とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）</td><td rowspan="5">事後：毎回、次週の授業までにノートに「自主学習」のページを設け、授業の振り返り及び「保育者」に関連する内容の学習をする。</td><td rowspan="5">各 1 時間</td></tr><tr><td>8 回</td><td>第 5 章 社会とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）</td></tr><tr><td>9 回</td><td>第 6 章 保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容</td></tr><tr><td>10 回</td><td>第 7 章 乳児保育における「環境」とのかかわり</td></tr><tr><td>11 回</td><td>第 8 章 モノとのかかわりを支える保育の展開</td></tr><tr><td>12 回</td><td>第 11 章 領域「環境」と小学校教育のつながり</td><td rowspan="3">事前：質問事項などを確認できるよう復習 事後：試験に向けて総復習をする</td><td rowspan="3">2 時間 4 時間</td></tr><tr><td>13 回</td><td>第 12 章 環境における現代的課題と保育</td></tr><tr><td>14 回</td><td>第 13 章 共に環境を創造する「創り手」としての子ども・保育者・保護者の育ち合い</td></tr><tr><td>15 回</td><td>試 験</td><td>事後：試験問題を振り返る</td><td>1 時間</td></tr><tr><td>16 回</td><td>まとめ ・学びの振り返り ・2 月保育所実習を意識して</td><td></td><td>3 時間</td></tr></tbody></table>											授業計画	時間外学習	時間	1 回	オリエンテーション 本学教育課程の中の科目の位置付け 授業概要	事後：次週までに、テキストの「はじめに」をしっかりと読み込み理解する。	1 時間	2 回	第 1 章 子どもを取り巻く環境 (1)	事前：次週の内容について、テキストの該当ページを読み、疑問点等、意識をもって授業に臨む。	各 0.5 時間	3 回	第 1 章 子どもを取り巻く環境 (2)	4 回	第 2 章 身近な環境とのかかわりと感性の育ち	5 回	第 3 章 モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び） (1)	6 回	第 3 章 モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び） (2)	7 回	第 4 章 自然とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）	事後：毎回、次週の授業までにノートに「自主学習」のページを設け、授業の振り返り及び「保育者」に関連する内容の学習をする。	各 1 時間	8 回	第 5 章 社会とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）	9 回	第 6 章 保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容	10 回	第 7 章 乳児保育における「環境」とのかかわり	11 回	第 8 章 モノとのかかわりを支える保育の展開	12 回	第 11 章 領域「環境」と小学校教育のつながり	事前：質問事項などを確認できるよう復習 事後：試験に向けて総復習をする	2 時間 4 時間	13 回	第 12 章 環境における現代的課題と保育	14 回	第 13 章 共に環境を創造する「創り手」としての子ども・保育者・保護者の育ち合い	15 回	試 験	事後：試験問題を振り返る	1 時間	16 回	まとめ ・学びの振り返り ・2 月保育所実習を意識して		3 時間
	授業計画	時間外学習	時間																																																						
1 回	オリエンテーション 本学教育課程の中の科目の位置付け 授業概要	事後：次週までに、テキストの「はじめに」をしっかりと読み込み理解する。	1 時間																																																						
2 回	第 1 章 子どもを取り巻く環境 (1)	事前：次週の内容について、テキストの該当ページを読み、疑問点等、意識をもって授業に臨む。	各 0.5 時間																																																						
3 回	第 1 章 子どもを取り巻く環境 (2)																																																								
4 回	第 2 章 身近な環境とのかかわりと感性の育ち																																																								
5 回	第 3 章 モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び） (1)																																																								
6 回	第 3 章 モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び） (2)																																																								
7 回	第 4 章 自然とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）	事後：毎回、次週の授業までにノートに「自主学習」のページを設け、授業の振り返り及び「保育者」に関連する内容の学習をする。	各 1 時間																																																						
8 回	第 5 章 社会とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）																																																								
9 回	第 6 章 保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容																																																								
10 回	第 7 章 乳児保育における「環境」とのかかわり																																																								
11 回	第 8 章 モノとのかかわりを支える保育の展開																																																								
12 回	第 11 章 領域「環境」と小学校教育のつながり	事前：質問事項などを確認できるよう復習 事後：試験に向けて総復習をする	2 時間 4 時間																																																						
13 回	第 12 章 環境における現代的課題と保育																																																								
14 回	第 13 章 共に環境を創造する「創り手」としての子ども・保育者・保護者の育ち合い																																																								
15 回	試 験	事後：試験問題を振り返る	1 時間																																																						
16 回	まとめ ・学びの振り返り ・2 月保育所実習を意識して		3 時間																																																						
テキスト	☆新しい保育講座 9『保育内容 環境』久保健太・高嶋景子・宮里純美 編著 ミネルヴァ書房 2021 年 〒2,420 ①『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）②『保育所保育指針解説』（厚生労働省）③『認定こども園教育・保育解説』（内閣府）																																																								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 ○思いをつなぐ環境構成 0・1 歳、2・3 歳、4・5 歳 宮里純美編著 中央法規 他、適時情報提供します。																																																								
授業の評価方法・基準	受講態度(毎回積極的に参加し、「わかる」ことを目指す態度)、課題、試験等総合的に行う。 課題 20%、受講態度(協働や学習への能動的な態度等) 40%、試験 40%																																																								
履修条件	「子ども」と「保育」を探究する気持ちと意欲を持っている人、ともに学びましょう！																																																								
関連科目・次のステップ	○前期開学んだ全ての専門科目について、関連付けながら学ぶ。 ○「保育者」に関わる記事、情報等に意識を持ち、授業で学んだことを日常生活で可能な限り実践すること。																																																								
オフィスアワー	授業や会議がない時間帯で調整可能です。																																																								
授業や課題に対するフィードバック																																																									
受講生へのメッセージ	「保育者」になる夢が益々膨らむ時間になるよう、たくさんの事例を通して一緒に学んでいきましょう。																																																								
7ヶ月間の実践の実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () デイポート () PBL 課題解決型 () 反転学習 (○) 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()																																																								

品名	単位	数量	金額	備考
1. 材料費				
2. 労務費				
3. 経費				
4. 利益				
5. 合計				
6. 材料費				
7. 労務費				
8. 経費				
9. 利益				
10. 合計				
11. 材料費				
12. 労務費				
13. 経費				
14. 利益				
15. 合計				
16. 材料費				
17. 労務費				
18. 経費				
19. 利益				
20. 合計				
21. 材料費				
22. 労務費				
23. 経費				
24. 利益				
25. 合計				
26. 材料費				
27. 労務費				
28. 経費				
29. 利益				
30. 合計				
31. 材料費				
32. 労務費				
33. 経費				
34. 利益				
35. 合計				
36. 材料費				
37. 労務費				
38. 経費				
39. 利益				
40. 合計				
41. 材料費				
42. 労務費				
43. 経費				
44. 利益				
45. 合計				
46. 材料費				
47. 労務費				
48. 経費				
49. 利益				
50. 合計				
51. 材料費				
52. 労務費				
53. 経費				
54. 利益				
55. 合計				
56. 材料費				
57. 労務費				
58. 経費				
59. 利益				
60. 合計				
61. 材料費				
62. 労務費				
63. 経費				
64. 利益				
65. 合計				
66. 材料費				
67. 労務費				
68. 経費				
69. 利益				
70. 合計				
71. 材料費				
72. 労務費				
73. 経費				
74. 利益				
75. 合計				
76. 材料費				
77. 労務費				
78. 経費				
79. 利益				
80. 合計				
81. 材料費				
82. 労務費				
83. 経費				
84. 利益				
85. 合計				
86. 材料費				
87. 労務費				
88. 経費				
89. 利益				
90. 合計				
91. 材料費				
92. 労務費				
93. 経費				
94. 利益				
95. 合計				
96. 材料費				
97. 労務費				
98. 経費				
99. 利益				
100. 合計				

科目区分	専門	科目名	児童館・放課後児童クラブの 活動内容と指導法	担当教員	長若 道代	授業時間	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE063	資格・免許要件	児童厚生2級指導員資格：必修				
授業の到達目標	対人援助の専門員である児童厚生員等の専門性の向上に資するとともに、地域における児童館や放課後児童クラブの役割を踏まえてその学びが社会をとらえる新しい視点となることで、社会の変化を理解し対応できる力を身につける。								
授業概要	児童館・児童クラブの社会的立場・役割を理解し、健全育成を行う児童厚生員の知識や援助技術を習得する。 児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れ、行事などの企画立案等を学ぶ。								
ディプロマ と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	△ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1 週	遠隔：オリエンテーション 講義概要説明 子どもと初めて出会うとき、あなたができることは？ 自己紹介カードの作成				事前：テキストを読む 事後：アイスブレイクについて調べる		2H		
2 週	対面：児童館・児童クラブの社会的役割 児童館・児童クラブにおける遊びの役割について				事前：テキストを読む 事後：遊びの持つ社会的な意義を考える		2H 2H		
3 週	遠隔：遊びの環境設定（施設・遊具・スペース）について 遊び環境の整え方 遊具・教材の紹介				事前：子どもの遊びスペース・遊具について調べる。 事後：取り入れたい遊具を調べる。		2H 2H		
4 週	対面：遊びを通じた育成支援について実践例（計画・展開・支援の在り方 資料・実践例 遊びのワーク				事前：遊びのレシピを作成 活動計画を立て、ひな形を書く。 事後：指導計画案・展開例を作成する		2H 2H		
5 週	遠隔：プレイワーカー（遊びを支援するもの）の資質と役割 子ども支援者としての役割と心得 集団レク・楽しさ・共感できるパフォーマンス				事前：集団遊びや季節の行事・活動を調べる。 事後：テキスト 遊びについて読み込む		2H 2H		
6 週	対面：育成支援の場におけるグループワーク（集団援助） 異年齢集団の活動例 遊びのワーク				事前：グループで集団遊びを企画する 事後：子ども参画型をまとめる		2H 2H		
7 週	遠隔：育成支援の場におけるケースワーク（個別援助） 遊びの輪に入れない子、課題のある子への支援について				事前：テキストを読む 事後：心開く遊び支援についてまとめる。		2H 2H		
8 週	対面：子どもの居場所について 各施設の取り組み 簡単バベットづくり 作って遊べる工作				事前：工作のアイデアを考える 事後：実践の仕方を工夫する		2H 2H		
9 週	遠隔：子育て支援について 乳幼児の親支援 手作りおもちゃ				事前：材料を準備する 素材を選ぶ 事後：実践の仕方を工夫する		2H 2H		
10 週	対面：支援ボランティアの育成と地域ネットワークについて エコマップ・支援ネットのつなぎ方				事前：子ども支援ボランティアについて調べる 事後：自分が取り組みたいボランティア活動		2H 2H		
11 週	遠隔：生活・学習支援・保護者支援について 現場の活動事例紹介				事前：学習支援の必要性について 事後：具体的な支援方法		2H 2H		
12 週	対面：保護者・学校・地域との連携				事前：児童館が地域とつながる必要性について 事後：エコマップ作成		2H 2H		
13 週	遠隔：行事やイベントの企画・立案作成				事前：グループで企画を考える 事後：アイデアを見つける		2H 2H		
14 週	対面：企画発表会 遊びのプレゼン				事前：役割分担について 事後：子どもが主体となる活動内容だったか振り返る。		2H 2H		
15 週	遠隔：前期テスト・レポート提出				事前：テキストや授業を振り返る 事後：作成した前期テスト・レポートを振り返る		2H 2H		

18 週	対面：まとめと振り返り 実習へのアドバイス	事前：子ども観についてまとめる 事後：遊びのレシピ集まとめ	2H
テキスト	・『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ① 健全育成論』一般財団法人 児童健全育成推進財団編 平成 26 年 9 月 ・『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論』一般財団法人 児童健全育成推進財団編 平成 27 年 8 月		
参考資料など	・講師用テキスト 随時		
授業の評価	受講姿勢・出席状況・レポート・テストに基づき総合的に行う		
方法・基準	レポート・テスト 60%・遊びのワーク（実技）30% 授業参加度 20% *子ども観、遊びの企画力を重視する。		
履修条件	児童厚生 2 級指導員資格を希望するもの 0～18 歳の児童健全育成に関心のある者		
関連科目・次のステージ	・前期は児童館が中心となるが、後期は放課後児童クラブの現場、子どもの居場所についても触れていきたい。 ・後期は健全育成論・法的根拠を学び、児童館・児童クラブの役割と機能をさらに学び、実践者を育成したい。		
オフィスアワー	授業の前後		
授業や課題に対するフィードバック	レポートはそれぞれ添削し返却する。実技は講評をする。		
受講生へのメッセージ	・子どもは遊びで育つ、遊びの支援者や素敵な大人たちに出会うことによって輝きます。 遊び・学び・集いあう子どもの居場所について学んでみませんか、		
学びあいの実践	() ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート () ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL 課題解決型 () 反転学習 (○) 小テスト () ゲストスピーカー (○) その他(集団遊びの企画と実践)		

科目区分	専門	科目名	教育機器演習	担当者	新川 涼子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE006	資格・免許要件	小学校二種必修、幼稚園二種必修、保育士選必				
授業の到達目標	小学校、幼稚園、保育園の様々な行事に役立てることができるスライド作成や動画作成・編集をパソコンでもスマホでもできるようにしましょう。あわせて著作権についても学習しましょう。また、Scratchによる簡単なプログラミングも体験してもらいます。 1. パソコンではPowerPointでオリエンテーションなどのスライドを作成できるようにしましょう 2. スマホではGoogleスライドを活用する方法も学びましょう 3. スマホによる動画撮影、編集をマスターしよう 4. 著作権について学習し、小学校や幼稚園、保育園で許される著作物の扱いについて知りましょう 5. プログラミングで動くお散歩を作ってみましょう								
授業概要	近年、小学校はもとより幼稚園、児童館、保育園でも様々なICT活用が普及してきています。仕事に使えるパソコン、スマホなどの活用方法を幅広く学習します。対面授業ではパワーポイント（遠隔授業ではGoogleスライド）の基礎から応用までを、テキストの課題を作成することで学習します。次に、スマホを使った動画撮影・編集（子どもたちが楽しめる動画作成）を行ってもらいます。スライド作成や動画作成では様々な素材を使うので、まともに著作権についての学習をします。小学校や幼稚園、保育園で許される著作物の扱いについて知りましょう。身近なところで著作権法に違反していないか考えてもらいます。著作権クイズにもトライしましょう。プログラミング（小学校では義務化、子どもの習い事としても人気）では、Scratchというアプリを利用して簡単なプログラム作成の練習をします。仕上げにキャラクターがいろんな世界にワープするお散歩プログラムも作成します。								
ディベロパー (DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力をつける。 ●=DP達成の為に特に重要な項目 ○=DP達成の為に重要な項目 △=DP達成の為に望ましい項目								
		授業計画	時間外学習				時間		
1	遠隔	シラバス（授業の概要、進め方の説明）の後、小学校、幼稚園、保育園でのICTの活用について概要を学習してもらって、現状を調べてまとめる	事前：Google ClassroomやG-mailの使い方の復習 事後：社会で活用されているICTシステムについて他にも調べてみる（例 介護や農業への活用など）				2H 2H		
2	対面	PowerPointの基本、文字編集、総合問題1 遠隔授業にそなえてGoogleスライドのインストール	事前：Windowsの基本、文字入力を復習 事後：PowerPointの基礎の復習				2H 2H		
3	遠隔	PowerPoint（スマホの人はGoogleスライド）の文字編集の復習、表入りスライドの作成、総合問題3	事前：スライドでの文字編集の復習 事後：表入りスライド作成の復習				2H 2H		
4	対面	PowerPoint（Microsoftのアプリでしか扱えない）スマートアートグラフィック、図形、総合問題2	事前：Wordでの図形作成の復習 事後：スマートアートグラフィックの復習				2H 2H		
5	遠隔	PowerPoint（スマホの人はGoogleスライド）の図形の復習、図形入りスライドの復習	事前：PowerPointでの図形のスタイル設定の復習 事後：Googleスライドでの図形作成				2H 2H		
6	対面	PowerPoint（Microsoft Officeのアプリでしか扱えない）スライド切り替え効果、アニメーション、総合問題4	事前：テキストでPowerPointの画面切り替え効果、アニメーションについて予習 事後：パソコンのGoogleスライドとスマホのGoogleスライドアプリでできることできないことをまとめてみる				2H 2H		
7	遠隔	スライド作成の総まとめ課題（PowerPointまたはGoogleスライド）	事前：これまで学習した部分のテキストを読む 事後：まとめスライドの作成方法の復習				2H 2H		
8	対面	PowerPointのまとめ試験、撮影する動画の計画	事前：まとめ試験対策 事後：撮影する動画の計画を完成させる				2H 2H		
9	遠隔	スマホによる動画撮影・編集（子どもが楽しめる動画）	事前：どんな動画が子どもたちに喜ばれるかリサーチ 事後：保育園、幼稚園が動画をどう活用しているか調べてみる				2H 2H		
10	対面	Scratchプログラミング キャラクターを動かそう	事前：Scratchプログラミングでどんなものが作れるかWeb検索 事後：自宅にパソコンがある人は、自宅パソ				2H 2H		

		コンでもキャラクターを動かしてみよう	
11 週	遠隔 自分の訪してみたい場所について、行き方、グルメ、観光地、ホテルなどについて調べてレポートにまとめる	事前：自分が紹介する旅先について決める 事後：今回題材にした旅先以外についても調べてみる	2H 2H
12 週	対面 Scratch プログラミング お散歩プログラムを作成してみよう	事前：前回のプログラミングの復習 事後：自分で考えて物語をつけてみよう	2H 2H
13 週	遠隔 著作権についての学習 1（著作権の概要を知ろう）	事前：著作権って何か調べてみよう 事後：学校図書館での著作権の扱いについて具体例を調べてみよう	2H 2H
14 週	対面 著作権についての学習 2（身近な著作権法違反について考えよう）	事前：世界各国の著作権について調べてみよう 事後：著作権を守る必要性について家族と話し合ってみよう	2H 2H
15 週	遠隔 11 回目の遠隔授業で調べた行ってみよう旅先に関する情報をスライドにする	事前：旅先について調べた資料を再チェックし、追加する情報があれば準備する 事後：見やすいスライドになっているかチェックする。友人同士で資料を交換して感想を聞いてみよう	2H 2H
16 週	対面 プレゼンテーション作成検定試験の 2 級の問題のスライドを作成する	事前：スライド作成の総復習（テキスト） 事後：PowerPoint の検定問題を復習	2H 2H
テキスト	「よくわかる 初心者のための Microsoft PowerPoint 2019」, 富士通エフ・オー・エム株式会社 (著), 富士通エフ・オー・エム ¥1,320		
参考資料など			
授業の評価 方法・基準	毎時間の課題 80%、行ってみよう旅先紹介の発表 10%、お散歩プログラムの作成 10%、実技試験（パワーポイント）50%		
履修条件	Windows の基本操作、Word の復習をしてください		
関連科目・次のステップ			
オフィスアワー	授業の前後、メールでの質問は随時 r-arakawa@ptl.cwjc.ac.jp		
授業や課題に対するフィードバック	提出された課題については対面授業の際にはすぐにコメントをします。遠隔授業の課題は課題チェック後にメールでコメントをします。		
受講生へのメッセージ	パワーポイントや Google スライドは授業で練習するだけでなく、実習報告、ポスター作成などにも積極的に活用してください		
777 イテコンの 実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL 課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	教育機器演習（初等）	担当教	新垣 さき	授業計画	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状必修			
授業の到達目標	教育・保育現場等におけるコンピュータ及び教育機器についての基本的な技能方法の習得をめざし、実践する力を身につける。								
授業概要	本講義では教育機器の基礎・基本を学び、PowerPointを活用した教材作成、写真を取り込んだムービー作成等の実習を通し、教育現場・保育現場でのコンピュータ活用法を身につける。また、2020年度より小学校学習指導要領においてプログラミング教育が導入されることから Scratch を活用し、小学校におけるプログラミング教育について考える。								
ディプロマ（DP）と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。							
	○	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				時間
1回	オリエンテーション 教育機器の意義とその効率的な利用方法について				事後：タイピングの基本ポジションを予習しておく。				2H
2回	パワーポイント 基本スライド例題1 スライドの作成、文字の編集、スライドの保存				事前：PowerPoint の操作の予習（テキスト） 事後：スライド作成の基礎の復習				2H 2H
3回	基本スライド例題2 オンライン画像の挿入、総合問題1				事前：スライド作成の基礎の復習 事後：総合問題1の復習				2H 2H
4回	基本スライド例題3 表の作成、スマートアートグラフィック、総合問題2				事前：オンライン画像の挿入の復習 事後：表作成、スマートアートグラフィックの復習				2H 2H
5回	総合演習問題3、総合問題4				事前：総合問題2の復習 事後：総合問題3の復習				2H 2H
6回	総合問題5（地図入りスライド）				事前：総合問題2の復習 事後：総合問題3の復習				2H 2H
7回	自由課題作成（行ってみたい旅先紹介）各自による情報収集				事前：行ってみたい旅先に関する情報収集 事後：行ってみたい旅先に関する情報収集				2H 2H
8回	自由課題作成（行ってみたい旅先紹介）				事前：行ってみたい旅先に関する情報収集 事後：発表原稿の作成				2H 2H
9回	行ってみたい旅先紹介の発表会				事前：発表リハーサル 事後：自分以外の人のスライドで良かった点をまねて作ってみる				2H 2H
10回	スマホで撮影した写真の取込み（Google ドライブの活用）、CD からの曲の取込み、Windows フォトによるスライドショー作成				事前：スマホ写真を Google ドライブにアップロード 事後：楽曲ダウンロード、楽曲の挿入の復習				2H 2H
11回	著作権学習				事前：身近な物の著作権について調べる 事後：家庭で著作権に配慮することが必要な点を家族で話し合う				2H 2H
12回	プログラミング教育とは Scratch のプログラミング体験				事前：Scratch の使い方の復習、三角形の復習 事後：Scratch でのスプライトの動きの復習				2H 2H
13回	プログラミング Scratch を使って作品を作る				事前：お話を考える 事後：担当シーンを話し合う				2H 2H
14回	プログラミング Scratch で作成したプログラミングを発表 他のグループの作品を体験する				事前：発表準備 事後：他のグループのプログラムの良い点をまねて取り入れてみる				2H 2H
15回	総復習（プレゼンテーション作成検定2級の作成）				事前：総合問題4、5の復習 事後：プレゼンテーション検定の復習				2H 2H

18 回	パワーポイント実技試験	事前：プレゼンテーション検定の復習	2H
テキスト	できるポケット PowerPoint 2019 基本&活用マスターブック Office 2019/Office 365 両対応/¥988 円（税込み）		
参考資料など	『30 時間でマスター Word&Excel2016』実教出版、ひと目でわかる PowerPoint2016/日経 B P 社		
授業の評価方法・基準	テスト 60% ②課題 30% ③発表・態度 10% で評価する		
履修条件	情報機器操作で学習した Word や図形の挿入等について復習しておいてください。		
関連科目・次のステップ	情報機器操作で学んだ Word, Excel の基礎的技術の活用になります。講義後は復習を心がけ、レポートやゼミナール等でもパソコン活用を行い技能習得を目指しましょう。		
オフィスアワー	火曜日の 4 講目		
授業や課題に対するフィードバック	講義内の演習課題時、作品発表の際に課題に対するフィードバックする。		
受講生へのメッセージ	情報機器操作で学んだ Word, Excel の基礎的技術の活用になります。講義後は復習を心がけ、レポートやゼミナール等でもパソコン活用を行い技能習得を目指しましょう。		
7/17(金)の授業	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () デイバート () PBL 米課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	教育機器演習（心指）	担当者	新堀 さき	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士資格：選択必修、幼稚園教諭二種免許状：必修			
授業の到達目標		教育・保育現場等におけるコンピュータ及び教育機器についての基本的な技能方法の習得をめざし、実践する力を身につける。							
授業概要		本講義では教育機器の基礎・基本を学び、PowerPoint を活用した教材作成、写真を取り込んだムービー作成等の実習を通し、教育現場・保育現場でのコンピュータ活用法を身につける。また、実習等と関連付けながらフォトラーニングの作成を行う							
ディプロマ ①②と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。							
	○	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1 回	オリエンテーション 教育機器の意義とその効率的な利用方法について				事後：タイピングの基本ポジションを予習しておく。			2H	
2 回	パワーポイント 基本スライド例題1 スライドの作成、文字の編集、スライドの保存				事前：PowerPoint の操作の予習（テキスト） 事後：スライド作成の基礎の復習			2H 2H	
3 回	基本スライド例題2 オンライン画像の挿入、総合問題1				事前：スライド作成の基礎の復習 事後：総合問題1の復習			2H 2H	
4 回	基本スライド例題3 表の作成、スマートアートグラフィック、総合問題2				事前：オンライン画像の挿入の復習 事後：表作成、スマートアートグラフィックの復習			2H 2H	
5 回	総合演習問題3、総合問題4				事前：総合問題2の復習 事後：総合問題3の復習			2H 2H	
6 回	総合問題5（地図入りスライド）				事前：総合問題2の復習 事後：総合問題3の復習			2H 2H	
7 回	自由課題作成（行ってみたい旅先紹介）各自による情報収集				事前：行ってみたい旅先に関する情報収集 事後：行ってみたい旅先に関する情報収集			2H 2H	
8 回	自由課題作成（行ってみたい旅先紹介）				事前：行ってみたい旅先に関する情報収集 事後：発表原稿の作成			2H 2H	
9 回	行ってみたい旅先紹介の発表会				事前：発表リハーサル 事後：自分以外の人のスライドで良かった点をまねて作ってみる			2H 2H	
10 回	スマホで撮影した写真の取込み（Google ドライブの活用）、CD からの曲の取込み、Windows フォトによるスライドショー作成				事前：スマホ写真を Google ドライブにアップロード 事後：楽曲ダウンロード、楽曲の挿入の復習			2H 2H	
11 回	スマホで撮影した写真の取込み（Google ドライブの活用）、CD からの曲の取込み、Windows フォトによるスライドショー作成				事前：スマホ写真を Google ドライブにアップロード 事後：楽曲ダウンロード、楽曲の挿入の復習			2H 2H	
12 回	著作権学習				事前：身近な物の著作権について調べる 事後：家庭で著作権に配慮することが必要な点を家族で話し合う			2H 2H	
13 回	フォトラーニングを作成してみよう① （写真の取り込み、著作権、Word の活用）				事前：フォトラーニングで使用する写真を集める 事後：保育所保育指針との繋がりを考える。			2H 2H	
14 回	フォトラーニングを作成してみよう② （写真の取り込み、著作権、Word の活用）				事前：実習指導で学んだ気づき考察の記入の仕方を復習する 事後：自分以外の人のフォトラーニングを比べて自分の作ったフォトラーニングに追加する			2H 2H	
15 回	総復習（プレゼンテーション作成検定2級の作成）				事前：これまでに学んだことを総復習する 事後：これまでに学んだことを総復習する			2H 2H	

16 回	パワーポイント実技試験	事前：プレゼンテーション検定の復習	2H
テキスト	「よくわかる 初心者のための Microsoft PowerPoint 2019」, 富士通エフ・オー・エム株式会社 (著), 富士通エフ・オー・エム W1, 320		
参考資料など	できるポケット PowerPoint 2019 基本&活用マスターブック Office 2019/Office 365 両対応/¥988 円 (税込み)		
授業の評価方法-基準	テスト 60% ②課題 30% ③発表・態度 10% で評価する		
履修条件	情報機器操作で学習した Word や図形の挿入等について復習しておいてください。		
関連科目・次のステージ	情報機器操作で学んだ Word, Excel の基礎的技術の活用になります。講義後は復習を心がけ、レポートやゼミナール等でもパソコン活用を行い技能習得を目指しましょう。		
オフィスアワー	火曜日の 4 課目		
授業や課題に対するフィードバック	講義内の演習課題時、作品発表の際に課題に対するフィードバックする。		
受講生へのメッセージ	情報機器操作で学んだ Word, Excel の基礎的技術の活用になります。講義後は復習を心がけ、レポートやゼミナール等でもパソコン活用を行い技能習得を目指しましょう。		
7/11(金)の授業	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL 基課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他 (		

科目区分	専門	科目名	教科専門国語	担当教	桃原亮昌	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE012	資格・免許要件	小学校二種選必	幼稚園二種選必			
授業の到達目標	国語科の目標を理解し、国語教育の使命及び基礎・基本、国語に対しての理論を明確にもち、国語力を高め、課題解決ができる。また、国語科学習指導要領についても内容等理解できることを目指す。								
授業概要	国語科教育の中核である「ことばの力」を重点に、国語科教育としての立場を一層重視し、国語の基礎となる言語内容の重点化を図ることができるようにする。また、日常生活を営んでいくのに、身につけてはならない言語能力について学ぶ。さらに、身近な郷土の教材にも関心をもち、諸課題解決ができるようにする。								
ディプロマ (DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション、講義の進め方、受講心得等					事前：国語科で大事にすべきこと等調べておく		2 h	
						事後：講義の進め方を理解してまとめる		2 h	
2回	学習指導要領について					事前：学習指導要領について調べておく		2 h	
						事後：学習指導要領のと全体像をまとめる		2 h	
3回	国語科の改訂の趣旨及び要点					事前：国語科の改訂の趣旨・要点について調べておく		2 h	
						事後：国語科の改訂の趣旨と要点をを項目別にまとめる		2 h	
4回	国語科の目標					事前：国語科の目標について調べておく		2 h	
						事後：国語科の目標を具体的にまとめる		2 h	
5回	国語科の内容 知識及び技能の内容					事前：国語科の内容の知識・技能の領域について調べておく		2 h	
						事後：国語科の内容の知識及び技能の領域について具体的にまとめる		2 h	
6回	国語科の内容 思考力、判断力、表現力等の内容					事前：国語科の内容の思考力、判断力、表現力等領域について調べておく		2 h	
						事後：内容の思考力、判断力、表現力等の領域について具体的にまとめる		2 h	
7回	第1学年及び第2学年の内容 知識及び技能の内容					事前：第1学年・第2学年の知識・理解について調べておく		2 h	
						事後：第1学年・第2学年の知識・技能についてまとめる		2 h	
8回	思考力、判断力、表現力等の内容					事前：第1学年・第2学年の思考力、判断力、表現力等について調べておく		2 h	
						事後：第1学年・第2学年の思考力、判断力、表現力等についてまとめる		2 h	
9回	第3学年及び第4学年 知識及び技能の内容					事前：第3学年・第4学年の知識・理解について調べておく		2 h	
						事後：第3学年・第4学年の知識・理解についてまとめる		2 h	

		ついてまとめる	
10回	思考力、判断力、表現力等の内容	事前：第3学年・第4学年の思考力、判断力、表現力等について調べておく 事後：第3学年・第4学年の思考力、判断力、表現力等についてまとめる	2h 2h
11回	第5学年及び第6学年 知識理解の内容	事前：第5学年・第6学年の知識・理解について調べておく 事後：第5学年・第6学年の知識・理解についてまとめる	2h 2h
12回	思考力、判断力、表現力等の内容	事前：第5学年・第6学年の思考力、判断力、表現力等について調べておく 事後：第5学年・第6学年の思考力、判断力、表現力等についてまとめる	2h 2h
13回	書写指導方法	事前：書写（硬筆・毛筆）の指導法について調べておく 事後：書写（硬筆・毛筆）の指導法を理解し実践に生かす	2h 2h
14回	指導計画作成上の配慮事項	事前：指導計画作成上の配慮事項を調べておく 事後：指導計画上の配慮事項を観点別にまとめる	2h 2h
15回	内容の取扱いについての配慮事項	事前：内容の取扱いの配慮事項について調べておく 事後：内容の取扱いの配慮事項について観点別にまとめる	2h 2h
16回	テスト及び講義のまとめ	事前：講義のまとめと課題を確認しておく 事後：次年度の教材研究国語の講義の学びに生かす	2h 2h
テキスト	小学校学習指導要領解説（国語編）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業中に随時紹介する。		
授業の評価 方法・基準	テスト(70%)、受講態度(10%)、提出物(10%)、学習ファイルのまとめ(10%)等で評価する。		
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭を希望する。		
履修科目・次の ステージ	小学校学習指導要領解説の国語編を熟読すること。 国語科の模擬授業に生かすことができること。		
オフィスアワー 授業や課題に対 するフィードバ ック	授業中に紹介及び案内等を行う。 講義で毎回配入するワークシートのチェックを行い理解度を確認する。		
受講生へのメッ セージ アクティブラー ニングの実施	言葉の力を育成できるように。一緒にがんばりましょう。 (○)ペアワーク ()プレゼンテーション (○)フィールドワーク ()ロールプレイング (○)振り返りシート (○)ディスカッション (○)プロジェクト学習 ()ピアサポート (○)質問及びフィードバック ()動画等メディア (○)ディベート ()PBL課題解決型 (○)反復学習 ()小テスト ()ゲストスピーカー ()その他 ()		

科目区分	専門	科目名	教材研究算数	担当者	浅井利真	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE023	資格・免許要件	小学校教諭二種免許状適応				
授業の到達目標	教師として実際に教壇に立った時、授業をどう組み立てていくのか、算数科における4領域の内容理解を深めながら、グループでの指導案作成を通して教材研究の在り方を理解し、模擬授業で授業実践力を身に付ける。								
授業概要	数値実験を行うための理論と技術を得るため、ジグソー学習を通して、算数の4領域の内容理解を深め、体系的に教材内容が習得していることを学習する。指導案の書き方、教材教具の工夫を模擬授業を通して理解する。								
ディプロマ (DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	○=DP達成の為に特に重要な項目 ○=DP達成の為に重要な項目 △=DP達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション、指導案の形式と流れ、ジグソー学習について、					事前：算数科の目標、学年の目標について 事後：指導案の形式について 復習		2h	2h
2回	「数と計算」領域 1年～8年の内容について、ジグソー学習による課題解決					事前：数と計算領域の内容、系統の概観予習 事後：数と計算領域の内容、系統の復習		2h	2h
3回	「数と計算」領域 4年～6年の内容について、ジグソー学習で課題解決					事前：数と計算領域の内容、系統の概観予習 事後：数と計算領域の内容、系統の復習		2h	2h
4回	「数と計算」領域の指導案作成、共有化					事前：本時にかかる目標、教具等の調査 事後：改善箇所を見直し、修正		2h	2h
5回	「図形」領域 1年～8年の内容について、ジグソー学習による課題解決					事前：図形領域の内容、系統の概観予習 事後：図形領域の内容、系統の復習		2h	2h
6回	「図形」領域 4年～6年の内容について、ジグソー学習による課題解決					事前：図形領域の内容、系統の概観予習 事後：図形領域の内容、系統の復習		2h	2h
7回	「図形」領域の指導案作成、共有化					事前：本時にかかる目標、教具等の調査 事後：改善箇所を見直し、修正		2h	2h
8回	「測定」領域の内容について、ジグソー学習による課題解決					事前：測定領域の内容、系統の概観予習 事後：測定領域の内容、系統の復習		2h	2h
9回	「変化と関係」領域の内容について、ジグソー学習による課題解決					事前：変化と関係領域の内容系統の概観予習 事後：変化と関係領域の内容系統の復習		2h	2h
10回	「測定」「変化と関係」領域の指導案作成と共有化					事前：本時にかかる目標、教具等の調査 事後：改善箇所を見直し、修正		2h	2h
11回	「データの活用」領域の内容について、ジグソー学習による課題解決					事前：データと活用領域の内容、系統の概観予習 事後：データと活用領域の内容、系統の復習		2h	2h
12回	「データの活用」領域の指導案作成と共有化					事前：本時にかかる目標、教具等の調査 事後：改善箇所を見直し、修正		2h	2h
13回	模擬授業①②③④と目標と評価について話し合い					事前：板書計画、教具の作成 事後：目標と評価について(まとめ)		2h	2h
14回	模擬授業⑤⑥⑦⑧と話し合い比較検討について					事前：板書計画、教具の作成 事後：比較検討について(まとめ)		2h	2h
15回	模擬授業⑨⑩⑪と話し合い					事前：板書計画、教具の作成 事後：まとめのありかたについて(まとめ)		2h	2h
16回	定期試験					事前： 事後：		2h	

テキスト	『小学校学習指導要領解説 算数編(平成 29 年 7 月 文部科学省)』 平成 30 年 2 月 28 日 日本文教出版
参考資料など	各単元の指導案
授業の評価 方法・基準	テスト 50%, レポート (振り返り等を含む) 30%, 積極的授業参加 20%
履修条件	教科専門算数を受講した学生
関連科目・次のス テージ	各教科の指導方法、学ばせ方と関連
オフィスアワー	火曜日の午後、事前にアポイントメントをとること。
授業や課題に対 するフィードバ ック	講義開始時に振り返りシートを 3 名～5 名紹介して、前時の講義の振り返りを行う。
受講生へのメッ セージ	座席は指定します。グループ内、全体の場での積極的な発言を期待します。
7717 ラーニングの 実施	☒ ペアワーク ☒ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☒ 振り返りシート ☒ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☒ 質問及びフィードバック ☒ 動画等メディア ☐ デイバート ☒ PBL 課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他 ()

科目区分	専門	科目名	教育制度論	編纂者	上原 啓晴 (実務経験者)	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校教諭二種：選択必修、幼稚園教諭二種：必修				
授業の到達目標	教育制度の基本となる学校教育、幼児期の教育及び社会教育等に関する教育法規の基礎的な知識を習得し、教育・保育者としてコンプライアンス（法令順守）に基づいて職務ができるようにする。また、今日の教育問題にも関心を持ち、その解決に向け保育や教育実践力を高めていくことができるようにする。								
授業概要	学校の教育制度を中心に日本国憲法、教育基本法を踏まえ、学校教育法、学校教育法施行規則、教育公務員特例法等の関連法規を中心に授業を進める。また、教育に関する各種資料や新聞記事等を活用し、教育制度についての理解を深めるとともに、本県教育の問題や今日的な教育問題についても考えさせたい。								
学習目標	☐ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ☐ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ☐ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ☐ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1 講	教育の基本に関する法規（1）きまり、法律、日本国憲法				事前：身近にあるきまりや法律等を調べる 事後：シラバスの確認、日本国憲法の予習		— 2 H		
2 講	オリエンテーション、教育制度を学習する意義等、法令用語等				事前：日本国憲法、教育基本法の予習 事後：ワークシートや配布資料等での復習		2 H 2 H		
3 講	教育の基本に関する法規（2）教育基本法①				事前：教育基本法の予習 事後：教育基本法の復習		2 H 2 H		
4 講	教育の基本に関する法規（3）教育基本法②、学校教育法				事前：学校教育法等の予習 事後：学校教育法等の復習		2 H 2 H		
5 講	学校教育の制度（1）学校の範囲、設置、目的等（学校教育法）				事前：学校教育法等の予習 事後：学校教育法等の復習		2 H 2 H		
6 講	学校教育の制度（2）学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所指針 認定こども園教育保育要領等				事前：学習指導要領等の予習 事後：学習指導要領等の復習		2 H 2 H		
7 講	学校教育の制度（3）教育課程の編成、教科書制度				事前：教育課程、教科書制度の予習 事後：教育課程、教科書制度の復習		2 H 2 H		
8 講	学校教育の制度（4）児童生徒の管理①（就学・懲戒等）				事前：就学義務、児童生徒の懲戒の予習 事後：就学義務、児童生徒の懲戒の復習		2 H 2 H		
9 講	学校教育の制度（5）児童生徒の管理②（いじめ防止、児童虐待、 子どもの貧困問題等）、児童の権利条約等				事前：いじめの問題、児童虐待等の予習 事後：いじめの問題、児童虐待等の復習		2 H 2 H		
10 講	学校教育の制度（6）児童生徒の管理③（学校安全、防災、給食）				事前：学校安全、地震・津波等の防災の予習 事後：学校安全、地震・津波等の防災の復習		2 H 2 H		
11 講	教職員の制度（1）教員の資格、職務、教員の働き方				事前：学校教育法及び同法施行規則等の予習 事後：学校教育法及び同法施行規則等の復習		2 H 2 H		
12 講	教職員の制度（2）教員の服務規律、懲戒				事前：教員の服務規律等の予習 事後：教員の服務規律等の復習		2 H 2 H		
13 講	教職員の制度（3）教職員研修、校務（園務）分掌、職員会議				事前：教職員研修等の予習 事後：教職員研修等の復習		2 H 2 H		
14 講	社会教育の制度：社会教育及び生涯学習（社会教育法等） 教育行政の制度：教育委員会制度、関係法令等				事前：社会教育法及び教育委員会制度の予習 事後：試験の準備		2 H 4 H		
15 講	試験				事前：試験の準備 事後：授業の振り返り等の準備		2 H 1 H		

16 週	教育行政の制度：本県教育の目標等 授業のまとめ、振り返り	事前：授業の振り返り等の準備 事後：資料の整理等	2 H 1 H
テキスト	特に指定はしない。授業に関する資料は、適時提示する。		
参考資料など	「教育関係法令集（抜粋）」（本授業担当者作成） 「教育小六法」学陽書房・三省堂 ・「新訂第3版図説・表解教育法規」（教育開発研究所発行）		
授業の評価 方法・基準	試験（50％）、課題等（40％）、振り返りシート等の提出（10％）		
履修条件	日常的に学校教育や幼児期の教育に関する情報に関心を持ち学ぶこと。		
関連科目・次のス テージ	日本国憲法や教師論及び保育・教育課程に係る科目等と関連させて学習すること。学んだことを教育実習等で生かすように努めること。		
オフィスアワー	授業終了後。その他必要に応じて設定しますので、事前にアポイントをお願いします。		
授業や課題に対 するフィードバッ ク	試験、レポート及び授業で活用した資料等について、クラス全体として理解が充分でない箇所等を再度確認し、理解を図るよう に努めます。		
受講生へのメッ セージ	教員・保育者を目指す皆さん。この授業を通して、教育・保育が法令等に基づいて運営されていること、教育制度の意義やコン プライアンス（法令順守）の重要性などを理解し、今後の学修に生かせるようにしましょう。		
7つのテーマの 実施	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他（ ）		
実施場所	教育現場、教育行政双方での実務経験から、事例を踏まえ、教育基本法などの教育関連法規を解説する		

科目区分	専門	科目名	教育実習指導	担当者	渡名喜舞衣子 ・名渡山よし乃	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング	EE030		資格・免許要件	幼稚園教諭二種免許状：必修			
授業の到達目標	これまでに学んだ幼児教育に関する理論と技術を踏まえ、実際の幼稚園での実習においてどのようにそれを展開するのか考えることができる。また、幼稚園教諭の活動内容について理解を深め、教育実習についての心構えを自分なりに考え、持つことができる。								
授業概要	教育実習に臨むための理論と教育・内容について、現場での対応を考慮しながら学ぶ。また、実習生としての心構え、子どもたちとの関わり、職員の方との関わり方について学び、専門職としての自覚を持つことができるよう日常的に考える。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	幼稚園の役割・機能、幼稚園教育の理解				事後：幼稚園の役割・機能、幼稚園教育について整理する。			0.5h	
2回	オリエンテーション 教育実習の意義と目的 形態と方法 沖縄県の幼稚園教育の現状				事前：テキストの該当箇所を読む。 事後：配布資料等を読み返しポイントを整理する。			0.5h 0.5h	
3回	一日の流れ、責任実習について(1)				事前：テキストの該当箇所を読む。 事後：配布資料等を読み返しポイントを整理する。			0.5h 0.5h	
4回	保育内容の理解				事前：テキストの該当箇所を読む。 事後：配布資料等を読み返しポイントを整理する。			0.5h 0.5h	
5回	責任実習について(2)、遊びのレパートリー作成				事前：テキストの該当箇所を読む。実習で活用できる手遊びやゲーム、製作を調べる。 事後：配布資料等を読み返しポイントを整理する。			1h 0.5h	
6回	指導計画・指導案について				事前：テキストの該当箇所を読む。 事後：配布資料等を読み返しポイントを整理する。			0.5h 0.5h	
7回	実習の準備（指導案作成）				事前：テキストの該当箇所を読む。 事後：各自で指導案が指示通り作成できているか、確認する。			1h 1h	
8回	日誌の書き方と実際、実習が始まる前の準備について				事前：テキストの該当箇所を読む。 事後：配布資料等を読み返しポイントを整理する。自分の今後のスケジュールについて整理する。			1h 0.5	
9回	実習課題の意義と課題の持ち方、実習の抱負				事前：実習の目標を立てる。 事後：実習課題を再度確認する。			0.5h 0.5h	
10回	実習の準備（模擬保育）				事前：指導案を確認して、模擬保育に向けて準備をする。 事後：模擬保育を実施した後の振り返りをまとめる。			0.5h 0.5h	
11回	実習事前学習 ※日程調整中				事前：事前学習の視点を確認し目標を立てる。 事後：ワークシートにエピソード記録を行う。			0.5h 1h	
12回	総合まとめの日誌の書き方と実際				事前：ワークシート課題をもとに予習する。 事後：教育実習のしおりやテキスト該当箇所のポイントを押さえる。			0.5h 0.5h	
13回	教育実習の最終確認				事後：実習に向けての目標、課題を確認する。			1h	
14回	（後期）教育実習報告会								
15回	（後期）実習日誌の自己評価、他者評価								
16回	（後期）教育実習の振り返り（評価の開示）								
テキスト	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜(編)『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』フレーベル館								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 沖縄女子短期大学『教育実習のしおり』沖縄女子短期大学								
授業の評価方法・基準	現場で重視される取り組みの姿勢、言葉遣いやマナー(10%)、配布資料等や準備物の管理(10%)、提出期限内の課題等の提出および記録技術(80%)を総合的に評価する。教育実習後の研究レポート(実習課題)の内容も上記課題に含める。								

履修条件	保育所実習Ⅰを履修済みであること。 無断で特別な理由なしに 3回欠席した場合は教育実習を取り消します。 教育実習中に中間指導に参加します。(離島は訪問指導に中間指導を含めます) A4 ファイル (2 穴) を必ず用意し、配布資料やワークシートを整理・管理する。毎回持参すること。
関連科目・次のステージ	これまで受講してきた専門科目と関連付けながら講義を受講すること。後期は保育・教職実践演習につながります。
オフィスアワー	月曜日午後(事前に連絡してくださると助かります。)
授業や課題に対するフィードバック	振り返りシートにおいて質問等あった場合は、次回授業内でコメントし、クラス全体で共有します。
受講生へのメッセージ	皆さんが主体です。お互いの気持ちの良い授業をつくりましょう。
アクティブ・ラーニングの実施	(○)ペアワーク (○)プレゼンテーション ()フィールドワーク (○)ロールプレイング (○)振り返りシート (○)ディスカッション ()プロジェクト学習 ()ピアサポート (○)質問及びフィードバック (○)動画等メディア ()ディベート ()PBL※課題解決型 ()反転学習 ()小テスト ()ゲストスピーカー その他()

科目区分	専門	科目名	教育実習指導	担当教	桃原亮昌 新垣さき	授業形態	講義	単位数	1
卒業要件	選必	ナンバリング	EE030	資格・免許要件	小学校2種必修				
授業の到達目標	教育実習のねらい及び意義を明確に把握し、教育実習の心構えや内容（観察・参加・授業）及び指導方法、服務等について具体的な事例を通して実践的に学び、教育実習の実践に備える。								
授業概要	教育実習に関する資料や先輩（本大学卒業生）の実践資料を有効活用し、教育実習について理解を深め、実践的指導力の向上を目指し、学生と教員の双方で授業を展開する。								
ディプロマ（DP）と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	② ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	③ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	④ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーションと教育実習のねらいの明確化				事前：教育実習について調べておく			2 h	
					事後：教育実習のねらいを具体的にまとめる			2 h	
2回	教育実習に取り組むにあたって				事前：実習前に準備することを調べておく			2 h	
					事後：実習前に学ぶべきことをまとめる			2 h	
3回	小学校教員の特性と教員のあり方				事前：小学校教員の特性等を調べておく			2 h	
					事後：小学校教員の特性・役割についてまとめる			2 h	
4回	学校経営と運営組織				事前：公立の学校経営方針等を調べておく			2 h	
					事後：学校経営方針と学校組織をまとめる			2 h	
5回	学級担任の業務				事前：学級担任の業務を具体的に調べておく			2 h	
					事後：学級担任の業務内容を具体的にまとめる			2 h	
6回	学級経営案の立て方				事前：学級経営の立て方を調べておく			2 h	
					事後：学校教育目標と一貫性をもたせ学級経営案をまとめる			2 h	
7回	生徒指導と学校の危機管理				事前：生徒指導と危機管理等について調べておく			2 h	
					事後：生徒指導と危機管理体制を総合的にまとめる			2 h	
8回	教育実習の内容（「実習のしおり」配布）				事前：教育実習のしおりを熟読しておく			2 h	
					事後：教育実習のしおりを参考に内容をまとめる			2 h	
9回	教育実習の心構え				事前：実習の心構え等について調べておく			2 h	
					事後：教育実習中のマナー等をまとめる			2 h	
10回	観察実習と参加実習の仕方				事前：観察実習と参加実習について調べておく			2 h	
					事後：観察実習と参加実習の違いをまとめる			2 h	

11回	授業実践を成功させるために	事前：授業実践の諸課題を調べておく 事後：授業実践の諸課題対策についてまとめる	2h 2h
12回	教育実習記録の仕方（教育実習記録簿配布）	事前：実習記録簿記入方法を調べておく 事後：実習記録簿の記入方法をまとめる	2h 2h
13回	教育実習の実際（「先輩の体験」より学ぶ）	事前：先輩の体験集を読んでおく 事後：教育実習体験者から成果等を聞きまとめる	2h 2h
14回	教育実習の実際（実践授業等の最終確認）	事前：授業を行う重要事項を調べておく 事後：実践授業を行う際のキーワードをまとめる	2h 2h
15回	教育実習の評価の視点	事前：教育実習の評価について調べておく 事後：どう評価されるのか評価基準を基にまとめる	2h 2h
16回	まとめ・テスト、教育実習指導」のファイル提出	事前：講義のまとめと課題を確認しておく 事後：学んだことを教育実習に生かす	2h 2h
テキスト	実習のしおり」、教育実習記録簿		
参考資料など	『新教師をめざすための本』（明治図書）、「実習を築いて」（沖縄女子短期大学実践収録35・36号）		
授業の評価方法・基準	テスト(70%)、レポート(10%)、学習ファイル(10%)、学習態度(10%)等で評価する。		
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭（幼稚園教諭）を希望する。		
関連科目・次のステージ	実習校についての事前調査を行う。 教職実践演習に繋げるようにする。		
オフィスアワー 授業や課題に対するフィードバック	授業中に紹介及び案内等を行う。 講義で毎回記入するワークシートのチェックを行い理解度を確認する。		
受講生へのメッセージ	学校現場での教科指導と生徒指導がしっかりできるように頑張しましょう。		
アクティブラーニングの実施	(○)ペアワーク ()プレゼンテーション ()フィールドワーク ()ロールプレイング (○)振り返りシート (○)ディスカッション (○)プロジェクト学習 ()ピアサポート (○)質問及びフィードバック (○)動画等メディア (○)ディベート ()PBL課題解決型 (○)反復学習 ()小テスト ()ゲストスピーカー ()その他 ()		

科目区分	専門	科目名	教育原理（心理・福祉）	担当教員	又吉 清	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング	ED003	資格・免許要件	小学校二種免許状（必修）、幼稚園教諭二種免許状（選必）				
授業の到達目標	教育の基礎理論として教育の意義、目的、児童福祉との関連性、教育の歴史、教育の諸制度について理解しており、さらに今日的な教育の諸問題について主要な教育思想や基礎理論と結び付けて他者に説明できる。								
授業概要	参考資料を用いて教育の基本的概念を概観し、日本や諸外国の教育思想・歴史の変遷について比較考察する。また、現代社会の教育的諸問題について取り上げ、様々な教育実践や教育理論と関連させながら課題解決に向けた考察を行う。特にペアやグループでのディスカッション、ICT機器を用いたグループ・プロジェクトなどのアクティブ・ラーニングを通して、論理的思考力や課題発見力、主体性や協働性などを養い、教育者としての資質・能力を磨く。								
デバタブル (DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 △ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ○⇒DP 達成の為に特に重要な項目 ○⇒DP 達成の為に重要な項目 △⇒DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1回	教育の意義—教育とはなにか ①（理想的な教師像）				事後：当該テーマについて考えをまとめる。		(2h)		
2回	教育の意義—教育とはなにか ②（陶冶性・可塑性）				事前：当該テーマについてリサーチする。 事後：当該テーマについて概要を整理する。		(2h) (2h)		
3回	教育の目的—教育理念・教育目的・教育目標 ①（目的・目標の違い）				事前：関連テーマについて考えをまとめる。 事後：他者の意見と比較し、まとめる。		(2h) (2h)		
4回	教育の目的—教育理念・教育目的・教育目標 ②（法令）				事前：テキストの関連項目の概要をまとめる。 事後：学習内容のポイントを整理する。		(2h) (2h)		
5回	教育と児童福祉—児童福祉法・子ども家庭福祉・子ども子育て支援				事前：各教育思想のポイントを整理する。 事後：教員採用試験の関連問題に取り組む。		(2h) (2h)		
6回	諸外国の教育思想①古代ギリシャ、近代ヨーロッパ（自然主義・系統主義）				事前：関連項目に目を通して概要をつかむ。 事後：クイズ大会に向けて問題を整理する。		(2h) (2h)		
7回	諸外国の教育思想②近代ヨーロッパ（革命期・児童中心主義ほか）				事前：当該テーマについて情報を収集する。 事後：主要人物について概要をまとめる。		(2h) (2h)		
8回	日本の教育思想①（江戸～昭和期）				事前：各観点のポイントについてまとめる。 事後：他者との考えを比較し、整理する。		(2h) (2h)		
9回	日本の教育思想②（学制・教育令・小学校令）				事前：各制度について情報を収集する。 事後：各制度のポイントをまとめる。		(2h) (2h)		
10回	インクルーシブ教育				事前：テキストの関連項目の概要をつかむ。 事後：関連事項について情報を収集する。		(2h) (2h)		
11回	現代的教育課題について ①（いじめ）いじめの定義・関連法規				事前：当該テーマについて情報を収集する。 事後：当該テーマの概要をまとめる。		(2h) (2h)		
12回	現代的教育課題について ①（いじめ）いじめ防止の取組				事前：テキストの関連項目の概要をつかむ。 事後：基礎理論の具体例について調べる。		(2h) (2h)		
13回	現代的教育課題について ②（SDGs）ESD・SDGsの定義				事前：ゲストに質問したい内容を検討する。 事後：分かった内容や疑問点を整理する。		(1h) (1h)		
14回	現代的教育課題について ②（SDGs）事例紹介				事前：プレゼン資料を作成し、発表に備える。 事後：発表資料を振り返り、加筆修正する。		(2h) (2h)		
15回	スタートカリキュラム				事前：当該テーマについて情報を収集する。 事後：当該テーマの概要をまとめる。		(1h) (1h)		

18週	学期末テスト（又は学期末課題レポート）	事前：学期末テストに向けて復習する。 事後：学期末テストの結果を振り返る。	(8h) (8h)
テキスト	指定図書なし ※ 本学及び岐阜女子大学の e-learning 教材を適宜、紹介・利用する		
参考資料など	「基本保育シリーズ 教育原理」公益財団法人 児童育成協会 矢部・北野（編）〔中央法規：2016〕¥2,160		
授業の評価 方法・基準	①期末テスト（又は学期末レポート）50% ②レポート課題 40% ③発表・態度 10% で総合的に評価する ※ コロナの状況によっては授業内容・評価方法を変更する場合があります。		
履修条件	受講マナー（遅刻・欠席・私語・居眠り等）に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと		
関連科目・次のス テージ	関連科目「教育方法論」ほか、教育学全般にかかわる基礎的な科目です。講義と並行して、教員・公務員採用試験の受験対策に 向けた自主学習にも積極的に取り組みましょう。		
オフィスアワー	水曜日 3 講目以降（18：00～17：50）		
授業や課題に対 するフィードバ ック	テスト・レポート課題等については、クラスの全体的な傾向と今後の課題等について概説し、返却いたします。		
受講生へのメッ セージ	普段から教育関連のニュースや論文に目を向けましょう。また、授業に関する相談や要望等があれば遠慮なく声をかけて下さい。 連絡先：matayoshi-i@owjc.ac.jp		
7/16/2023の 実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート (○) ディスカッション (○) プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL 米課題解決型 () 反転学習 () 小テスト (○) ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	教育心理学	担当者	渡名喜舞衣子	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択必修	ナンバリング	ED005		免許・資格要件等	小学校教諭二種免許状:選択必修, 幼稚園教諭二種免許状:選択必修			
授業の到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について教育心理学的な観点を持ち、教育活動を説明できる。さらに、習得した基礎的理論・知識について、具体的場面でどのように活用するかを主体的に考えることができる。								
授業概要	発達、学習、動機づけ、パーソナリティ、学級集団、評価などについての教育心理学における基礎理論について理解する。教育者として、幼児・児童および生徒の「主体的な学び」をどのように支え、豊かな知識や人間性を育むかについて理解を深め、具体的な学習指導や生徒指導と関連づけて考える。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける							
	△	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1 回	オリエンテーション (教育心理学とは) 発達(1) (発達、人はどのように発達するのだろうか? ①)				事後:教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H	
2 回	発達(2) (人はどのように発達するのだろうか? ②, 発達とは)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
3 回	発達(3) (発達を規定する要因, 発達を促す教育)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
4 回	学習(1) (記憶、知識をしっかりと身につけるには?)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
5 回	学習(2) (学習、子どもの行動はどうやって身につく?)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
6 回	動機づけ(1) (意欲とは? 無気力を防ぎ、意欲を高めるには?)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
7 回	動機づけ(2) (意欲の「質」)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
8 回	パーソナリティを理解する(1) (自己とは、パーソナリティの測定)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
9 回	パーソナリティを理解する(2) (パーソナリティの理論, 自分らしさとは?)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
10 回	人間関係と社会性 (人間関係の中でどのように発達する?)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
11 回	学級集団(1) (学級集団, 学級における教師と子どもの関係)				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	
12 回	学級集団(2) (学級における仲間関係) 学校不適応				事前: 次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			0.5H 0.5H	

13回	発達障害(1) (知的能力の発達, 発達障害のアセスメント)	事前: 次回のテキスト当該ページ読み, 重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて, 自分の言葉でまとめる。	0. 5H 0. 5H
14回	発達障害(2) (発達障害とは?)	事前: 次回のテキスト当該ページ読み, 重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて, 自分の言葉でまとめる。	0. 5H 0. 5H
15回	まとめと定期試験	事前: 本講義について振り返り, 定期試験に向けて復習する。	2H
16回	学習指導と教育評価 (学習指導をどのように行う?)	事前: 次回のテキスト当該ページ読み, 重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後: 教育心理学のキーワードについて, 自分の言葉でまとめる。	0. 5H 0. 5H
テキスト	「実践につながる教育心理学」黒田祐二(編) 北樹出版		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 「月刊誌児童心理」金子書房, 「キーワード動機づけ心理学」上淵寿(編) 金子書房		
授業の評価方法・基準	①授業への参加態度(10%), ②リアクションペーパーの内容(10%), ③授業で課す課題の内容(40%), ④期末試験(40%)で総合的に評価する。		
履修条件	原則, 初等教育コースであること。		
関連科目・次のステージ	特別な支援を要する子どもの理解と実際Ⅰ, 特別な支援を要する子どもの理解と実際Ⅱ, 生徒指導, 教育相談概論, カウンセリング概論		
オフィスアワー	月曜日午後(事前に連絡して下さると助かります。)		
授業や課題に対するフィードバック	振り返りシートにおいて質問等あった場合は, 次回授業内でコメントし, クラス全体で共有します。		
受講生へのメッセージ	復習および学習の深化に向けて, 各自「教育心理学キーワード集」のまとめに取り組みましょう。 お互い気持ちの良い授業をつくりましょう。		
アクティブラーニングの実施	(○)ペアワーク ()プレゼンテーション ()フィールドワーク ()ロールプレイング (○)振り返りシート (○)ディスカッション ()プロジェクト学習 ()ピアサポート (○)質問及びフィードバック (○)動画等メディア ()ディベート ()PBL※課題解決型 ()反転学習 ()小テスト ()ゲストスピーカー その他()		

科目区分	専門	科目名	発達心理学	担当者	渡名喜舞衣子	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択必修	ナンバリング	ED006	免許・資格要件等	幼稚園教諭二種免許状:選択必修, 保育士資格:必修				
授業の到達目標	幼児、児童および生徒の心身の発達過程及び学習の過程について学び、保育・教育実践に関わる発達心理学の基礎知識を他者に説明できる。さらに、発達心理学的視点を持ち、子どもの表面的な行動だけでなく、心理的特性や行動の背景や変化の過程にも目を向けた子ども理解に基づいて、保育・教育を実践する考え方を身につけている。								
授業概要	発達心理学の基礎理論や生涯発達の観点から胎児期から青年期までの発達の過程(タテの発達)、「知・情・意」を中心とした各領域の発達の過程(ヨコの発達)について学ぶ。発達の過程や初期経験の重要性、人との相互的にかかわりを通じた発達、遊びや生活を通じた学習の過程について具体的に理解し、保育・教育実践とどのように結びつけるかを考える。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				時間
1回	オリエンテーション 発達をとらえる視点(1) 子どもの発達を理解することの大切さ				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
2回	乳幼児期の発達				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
	各領域の発達(1) 身体的機能と運動機能の発達				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
3回	乳幼児期の発達				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
	各領域の発達(1) 身体的機能と運動機能の発達 各領域の発達(2) 情緒の発達と自我				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
4回	子どもの発達を理解することの意義(2) 子どもの発達と環境、発達理論と子ども観・保育観				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
					事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
5回	乳幼児期の発達				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
	各領域の発達(2) 情緒の発達と自我				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
6回	乳幼児期の発達				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
	各領域の発達(3) 自己主張と自己抑制				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
7回	乳幼児期の発達				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
	各領域の発達(4) 愛着の形成、社会的相互作用				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
8回	基本的生活習慣の獲得と発達				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
					事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
9回	乳幼児期の発達				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
	各領域の発達(5) 知覚と認知の発達				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
10回	乳幼児期の発達				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
	各領域の発達(6) 言葉の発達と社会性				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
11回	学習の過程(1) 乳幼児の学びにかかわる理論・乳幼児の学びを支える動機づけ				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
					事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H
12回	学習の過程(2) 乳幼児の学びの過程と特性				事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。				0.5H
					事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				0.5H

13回	児童期の発達	事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。	0.5H 0.5H
14回	青年期の発達	事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。	0.5H 0.5H
15回	定期試験	事前：本講義について振り返り、定期試験に向けて復習する。	3H
16回	学習の過程(4)子どもの学びと評価、子どもの学びを支える保育・教育	事前：次回のテキスト当該ページ読み、重要語句やわからない事柄をピックアップする。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。	0.5H 0.5H
テキスト	「保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解」井戸ゆかり(編) 萌文書林		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館		
授業の評価方法・基準	①授業への参加態度(10%)、②リアクションペーパー(10%)、③授業で課す課題の内容(30%)、④期末試験(50%)で総合的に評価する。		
履修条件	原則、心理教育コース・福祉教育コースであること。		
関連科目・次のステージ	幼児理解、保育内容人間関係、保育内容言葉、子ども家庭支援の心理学		
オフィスアワー	月曜日午後(事前に連絡してくださると助かります。)		
授業や課題に対するフィードバック	リアクション・ペーパーにおいて質問等あった場合は、次回授業内でコメントし、クラス全体で共有します。		
受講生へのメッセージ	お互い気持ちの良い授業をつくりましょう。 面接授業と遠隔授業で大変かもしれませんが、将来出会う子ども達のためにしっかり学びましょう。		
アクティブラーニングの実施	(○)ペアワーク ()プレゼンテーション ()フィールドワーク ()ロールプレイング (○)振り返りシート (○)ディスカッション ()プロジェクト学習 ()ピアサポート (○)質問及びフィードバック (○)動画等メディア ()ディベート ()PBL※課題解決型 ()反転学習 ()小テスト ()ゲストスピーカー その他()		

科目区分	専門	科目名	生徒指導	担当者	桃原亮昌	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE007	資格・免許要件	小学校2種必修				
授業の到達目標	生徒指導は学習指導とともに、学校教育の基本的な機能である。学校内の様々な生徒指導場面における基本的な対応力を身につけるとともに、授業や学校行事等における実践的指導力を習得する。								
授業概要	教育現場では、価値観や児童が多様化し、特に生徒指導は複雑化・困難の度を増してきている。生徒指導の理論を理解するとともに、教育現場の具体的な事例を学びながら生徒指導の基礎を身につけ、生徒指導が実践できる資質・能力を育成する。また積極的な生徒指導を行うことで、児童生徒の生きる力を支援できるようにする。								
グローバル (DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1回	オリエンテーション、生徒指導の意義				事前：生徒指導の意義について調べておく		2h		
					事後：生徒指導の重要性をまとめる		2h		
2回	生徒指導と教育課程に基づく指導との関係				事前：教育課程の位置づけを調べておく		2h		
					事後：生徒指導と教育課程の位置・関係づけをまとめる		2h		
3回	特別活動・課外活動と生徒指導				事前：特別活動・家庭外活動との関係を調べておく		2h		
					事後：特別活動・課外活動との関係を具体的にまとめる		2h		
4回	子どもの問題行動に対する指導① いじめ				事前：いじめ問題について調べておく		2h		
					事後：いじめ問題の指導及び対策をまとめる		2h		
5回	子どもの問題行動に対する指導② 不登校・校内暴力等				事前：不登校・校内暴力問題等について調べておく		2h		
					事後：不登校・校内暴力問題等の指導及び対策をまとめる		2h		
6回	子どもの問題行動に対する指導③ 薬物乱用・万引き等				事前：薬物乱用・万引き問題等について調べておく		2h		
					事後：薬物乱用・万引き問題等の指導及び対策をまとめる		2h		
7回	生徒指導の課題と児童理解				事前：生徒指導の課題について調べておく		2h		
					事後：生徒指導の課題と対策をまとめる		2h		
8回	生徒指導と学級経営① 規範意識				事前：学級の規範意識について調べておく		2h		
					事後：規範意識を学級経営に生かすようにまとめる		2h		
9回	生徒指導と学級経営② 居場所づくり				事前：居場所づくりについて調べておく		2h		
					事後：学級経営の中で居場所づくりの重要性をまとめる		2h		
10回	命と心の教育と生徒指導				事前：命と心の教育について調べておく		2h		
					事後：生徒指導と命及び心の教育との関係をまとめる		2h		

11回	学級崩壊に対する生徒指導	事前：なぜ学級崩壊が起こるのか調べておく 事後：学級崩壊を起こさせない指導をまとめる	2h 2h
12回	インターネット・携帯問題に対する生徒指導	事前：インターネット・携帯等の問題について調べておく 事後：インターネットや携帯等の正しい使い方などまとめる	2h 2h
13回	学校における指導体制	事前：校内の指導体制について調べておく 事後：学校職員全体で指導する大切さをまとめる	2h 2h
14回	生徒指導の進め方	事前：どのように生徒指導を推進するのか調べておく 事後：生徒指導主任を中心に計画的・継続的に推進することをまとめる	2h 2h
15回	家庭・地域・関係機関と連携した生徒指導	事前：家庭・地域・関係機関との連携について調べておく 事後：家庭・地域・関係機関との連携の大切さをまとめる	2h 2h
16回	まとめのテスト及び反省と評価（ファイル提出）	事前：講義のまとめと課題を確認しておく 事後：学んだことを教育実習等に生かす	2h 2h
テキスト	小学校学習指導要領解説（文部科学省）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 生徒指導リーフ 生徒指導提要		
授業の評価 方法・基準	テスト(70%)、授業態度(10%)、提出物(10%)、学習ファイルのまとめ(10%)等で評価する。		
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭を希望する。		
履修科目・次の ステージ	小学校の実践指導に生かすことができる		
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。		
授業や課題に 対するフィード バック 受講生へのメッ セージ アクティブラー ニングの実施	講義で毎回記入するワークシートのチェックを行い理解度を確認する。 児童の「心の居場所づくり」ができるよう取り組みましょう。 (○)ペアワーク ()プレゼンテーション ()フィールドワーク (○)ロールプレイング (○)振り返りシート (○)ディスカッション (○)プロジェクト学習 ()ピアサポート (○)質問及びフィードバック (○)動画等メディア (○)ディベート ()PBL課題解決型 (○)反復学習 ()小テスト ()ゲストスピーカー ()その他()		

科目区分	専門	科目名	特別活動の指導法	担当者	仲西 起實	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	小学校教諭二種免許状 必修			
授業の到達目標		・特別活動の内容を理解し、学級担任として必要な知識・技能（指導案作成と授業力）を身に付けている。							
授業概要		・特別活動の目標、内容、基本的な性格等について理解を深め、並行して実践的な学修活動をする。							
ディプロマ（DP） と授業の対応	◎	①	全児童が集団の中で認められ、活きるような学級づくりを追求する。						
	◎	②	学級担任として必要な特別活動の知識・技能を身に付ける。						
	○	③	いじめ、学級崩壊、キャリア形成等への最善策を学び続ける力を身に付ける。						
	○	④	グループや学級全体で話し合い、仲間と協働できる力を身に付ける。						
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目、○＝DP 達成の為に重要な項目、△＝DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画 ※G：グループ、特活：特別活動			時間外学習			時間	
第1回 対面①	オリエンテーション（シラバス理解等）6班編成	事後：資料の読み直し						2h	
第2回 対面①	特別活動の目標、内容等の理解	事前：「特別活動の改訂」を調べる 事後：「特別活動の改訂」の理解を深める						2h 2h	
第3回 対面②	学級活動(1)(2)(3)理解、授業計画、指導案の理解準備	事前：小学校での学級活動を思い出す 事後：学級活動の理解を深める						2h 2h	
第4回 対面②	学級活動の目標と内容理解、(1)(2)(3)の学習過程比較	事前：「学級活動(1)(2)(3)」を予習する 事後：「学級活動(1)(2)(3)」を理解する						2h 2h	
第5回 対面③	学級活動(1)議題の模擬授業（ G）と話し合い	事前：「学級活動(1)」の指導案を読んでおく 事後：「学級活動(1)」をまとめる						2h 2h	
第6回 対面③	学級活動(1)(2)(3)の具体的な差異、指導案の項目確認	事前：「学級活動(1)(2)(3)」を差異等調べる 事後：「学級活動(1)(2)(3)」の理解を深める						2h 2h	
第7回 対面④	学級活動(1)議題の模擬授業（ G）と話し合い	事前：「学級活動(1)」の指導案を読んでおく 事後：「学級活動(1)」の理解を深める						2h 2h	
第8回 対面④	学校行事、児童会、クラブ活動を理解する	事前：学校行事、児童会、クラブ活動を調べる 事後：学校行事、児童会、クラブ活動を理解する						2h 2h	
第9回 対面⑤	学級活動(2)の模擬授業（ G）と話し合い	事前：「学級活動(2)」の指導案を読んでおく 事後：「学級活動(2)」をまとめる						2h 2h	
第10回 対面⑤	「いじめ」の理解と対応や取り組み	事前：「いじめ」の情報収集 事後：「いじめ」を出さない方法を理解する						2h 2h	
第11回 対面⑥	学級活動(3)の模擬授業（ G）と話し合い	事前：「学級活動(3)」をまとめる 事後：「学級活動(3)」の理解を深める						2h 2h	
第12回 対面⑥	「学級開き」提案、「学級崩壊」の原因・対策等の理解	事前：「学級開き」「学級崩壊」の情報収集 事後：「学級開き」「学級崩壊」の理解						2h 2h	
第13回 対面⑦	学級活動(3)の模擬授業（ G）と話し合い	事前：「学級活動(3)」の指導案を読んでおく 事後：「学級活動(3)」をまとめる						2h 2h	
第14回 対面⑦	学校行事の理解と学級の対応	事前：「学校行事」を予想する 事後：「学校行事」の取り組み等を理解する						2h 2h	
第15回 対面⑧	学校行事を受けた模擬授業（ G）と話し合い	事前：「学校行事」の指導案を読んでおく 事後：「学校行事」の授業をまとめる						2h 2h	
第16回 対面	まとめの試験実施	【振り返りと確認】							
テキスト	「小学校学習指導要領解説特別活動編」「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編」								
参考資料など	図書館の雑誌等、適宜紹介する								
授業の評価方法・基準	試験（60％）、遠隔の課題（20％）、指導案（20％）、授業記録等、意欲や態度面は加点、減点								
履修条件	テキストの購入								
関連科目・次のステージ	関連科目は特に生徒指導と道徳。教育実習や学校支援が次のステージとなる。								
オフィスアワー	授業前後								
授業や課題に対するフィードバック	模擬授業の記録（学生記述）から、良かった点や改善したいところなどをまとめて提示し、確認することで次の模擬授業の改善につなげる。								
受講生へのメッセージ	質問や意見を発表し合い、みんなで楽しい授業をつくっていきましょう								
アクティブラーニングの実施	（）ペアワーク（o）プレゼンテーション（）フィールドワーク（o）ロールプレイング（o）振り返りシート（o）ディスカッション（）プロジェクト学習（）ピアサポート（）質問及びフィードバック（）動画等メディア（）ディベート（）PBL※問題解決学習（）反転学習（）小テスト（）ゲストスピーカー その他（）								

科目区分	専門	科目名	道徳教育の指導法	担当者	桃原亮昌	授業時間	講義	単位数	2
学習要件	選必	オンライン学習	ED001	資格・免許要件	小学校二種必修				
授業の到達目標	道徳教育の中で人間尊重の精神、生命に対する畏敬の念、社会の中で自主的に生きるための基礎として道徳について学ぶ。また、道徳教育の内容及び指導法について実践的に学ぶことを目指す。								
指導要綱	学校においては、人間関係からくるいじめ、規範意識の低下からくる基本的生活習慣の不確実性があることなど、児童の心と体と状況にかかる課題が多い。その課題解決に向けて学習指導要領を基礎とし、学校現場で指導できるように実践的に取り組むことができるようにする。								
ディプロマ 目標と授業の対応	① ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	② ② 保育者・教育者としての専門知識・技能・技術を身につける。								
	③ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	④ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力をつける。								
	●=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画		時間外学習		時間			
1回	オリエンテーション、道徳教育とは等		事前：道徳教育について調べておく 事後：授業の全体的流れを理解しまとめる		2h 2h				
2回	道徳教育の改定の基本方針及び要点		事前：改訂の基本方針及び要点について調べておく 事後：改訂の基本方針及び要点を具体的にまとめる		2h 2h				
3回	道徳教育の目標		事前：学習指導要領の道徳教育の目標を調べておく 事後：道徳教育の目標をまとめる		2h 2h				
4回	道徳科の目標		事前：学習指導要領の道徳科の目標を調べておく 事後：道徳科の目標をまとめる		2h 2h				
5回	道徳科の内容（内容の基本的性格）		事前：道徳科の内容について調べておく 事後：道徳科の内容の基本的性格を具体的にまとめる		2h 2h				
6回	内容項目の指導の観点 A 主として自分自身に関する事		事前：内容項目の一覧表からA観点を調べておく 事後：A観点について6領域を学年別におさえまとめる		2h 2h				
7回	B 主として人との関わりに関する事		事前：内容項目のB観点を調べておく 事後：B観点について5領域を学年別におさえまとめる		2h 2h				
8回	C 主として集団や社会との関わりに関する事		事前：内容項目のC観点を調べておく 事後：C観点について7領域を学年別におさえまとめる		2h 2h				
9回	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事		事前：内容項目のD観点を調べておく 事後：D観点について4領域を学年別におさえまとめる		2h 2h				
10回	指導計画作成上の配慮事項及び道徳科の指導		事前：指導計画作成方法等について調べておく 事後：指導計画作成と指導について具体的にまとめる		2h 2h				
11回	指導の配慮事項及び教材に求められる内容の観点		事前：特に指導の配慮事項について調べておく 事後：指導及び内容の観点を具体的にまとめる		2h 2h				
12回	道徳科の評価		事前：道徳科の具体的評価について調べておく 事後：評価の仕方を観点をおさえ具体的にまとめる		2h 2h				

13回	道徳科指導案の作成と検討	事前：指導案作成方法について項目をおさえ調べておく 事後：作成した指導案を細かく検討し模擬授業に生かす	2h 2h
14回	模擬授業の実践と評価	事前：指導案を基に授業展開例をチェックしておく 事後：模擬授業を実践しての成果と課題をまとめる	2h 2h
15回	模擬授業のまとめ	事前：模擬授業の成果と課題をチェックしておく 事後：模擬授業の成果と課題をまとめ今後に生かすようにする	2h 2h
16回	まとめのテスト、講義の総括	事前：講義全体のまとめと課題を確認しておく 事後：学んだことを教育実習に生かす	2h 2h
テキスト	小学校学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）		
参考資料など	【導入を必須としないもの】 授業中に随時紹介する。		
授業の評価方法・基準	テスト(70%)、学習態度(10%)、提出物(10%)、ファイルのまとめ等(10%)で評価する。		
修習条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭を希望する。		
関連科目・次のステージ	小学校学習指導要領解説の道徳編を熟読すること。 小学校の教育実習に生かすことができること。		
オフィスアワー 授業や演習に対するフィードバック	授業中に紹介及び案内等を行う。 講義で毎回配入するワークシートのチェックを行い理解度を確認する。		
受講生へのメッセージ	今、小学校で重要視されている科目です。心と命の教育をキーワードにして一緒に学びましょう。		
アクティブラーニングの実施	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL課題解決型 ☐ 反復学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー ☐ その他()		

科目区分	専門	科目名	ゼミナール（前期）	授業費	上原健二	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE072	資格・免許要件	保育士資格 選択必修				
授業の到達目標	学生自身が関心のあるテーマを設定することにより、個々の学生がそれぞれの課題意識を明確化できるようになる。設定したテーマに関連する情報を必要に応じて収集・整理しつつ、客観的な情報を活用しながら、自身の主張を明確化し、周囲に対して表現できるようになる。								
授業概要	学生個人またはグループとしてテーマを設定し、情報収集・整理、調査を経て最終的にはゼミナール論文をまとめる。学生一人一人の主体的な取り組みによって、ゼミ生同士で相互に学びあいの場を作り上げる。本ゼミナールでは、主に社会福祉に関連するテーマに基づいてゼミナール活動を展開することとし、学内・学外における活動を積極的に活用しながらテーマに応じた支援の実践を学びつつ、課題の整理につなげていく。								
ディプロマ（DP）と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	● ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	● ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1 週	学科内のオリエンテーション 各ゼミナールの紹介、希望調査の実施				授業としての「ゼミナール」の内容や位置づけについて理解する。		2H		
2 週	ゼミナールのメンバー調整・確定。上原ゼミナール内のオリエンテーション				自己紹介の内容について考える。 ゼミ活動の年間計画について確認する。		2H 2H		
3 週	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論①				各自の関心のあるテーマに沿ってミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。		2H 2H		
4 週	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論②				各自の関心のあるテーマに沿ってミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。		2H 2H		
5 週	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論③				各自の関心のあるテーマに沿ってミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。		2H 2H		
6 週	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論④				各自の関心のあるテーマに沿ってミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。		2H 2H		
7 週	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論⑤				各自の関心のあるテーマに沿ってミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。		2H 2H		
8 週	社会福祉、関連分野の現場を知る（現場訪問：場所は未定。新型コロナウイルス感染状況を踏まえて判断した上で検討）				各自の関心のあるテーマに沿って訪問したい現場を検討し、事前学習を行う。		2H 2H		
9 週	子どもフェスタに向けたテーマを考える。				子どもフェスタに向けて取り組みたいことを考える。		2H 2H		
10 週	子どもフェスタに向けたテーマに沿って、試験的に準備する。				子どもフェスタに向けて試験的に取り組む準備を進める。		2H 2H		
11 週	保育の教材について知る（バルーンアート）合同ゼミ				バルーンアートについて知りたいことをまとめる。		2H 2H		
12 週	夏期の社会福祉、関連分野の現場訪問、合宿に向けた計画を立てる。（新型コロナウイルス感染状況を踏まえて判断した上で検討）				夏期の現場訪問や合宿先を検討する。		2H 2H		
13 週	夏期の社会福祉、関連分野の現場訪問、合宿に向けて先方と調整を行う。（場所は未定。新型コロナウイルス感染状況を踏まえて判断した上で検討）				夏期の現場訪問や合宿先について、事前に情報を得る。		2H 2H		
14 週	保育者として社会福祉・関連分野を知る（現場訪問）（現場訪問：場所は未定。新型コロナウイルス感染状況を踏まえて判断した上で検討）				社会福祉・関連分野の現場の訪問先について調べる。		2H 2H		
15 週	保育者としての資質を高める 沖縄の自然について知る				沖縄の自然について調べる。		2H 2H		

16 週	保育者としての資質を高める チームワークで料理をする	皆で協力して料理を準備する。	2H
テキスト	特になし		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 藤田哲也編著『大学基礎講座 改増版～充実した大学生活をおくるために～』北大路書房 2006 年 飯田良治他編『課題研究・ゼミナールの手引き』明文書林 1988 年		
授業の評価方法・基準	ゼミナール論文 40% 小レポート 40% 受講態度 20%		
履修条件	自分自身でテーマを設定し、主体的に取り組むこと。通年科目であるため、前期の受講状況によっては後期の受講の可否に影響があることを踏まえ、積極的に取り組むこと。		
関連科目・次のステージ	前期は各種実習に向けて、後期は卒業後に向けた2年間のまとめとしての取り組みを意識して取り組む。		
オフィスアワー	金曜日5時間目		
授業や課題に対するフィードバック	提出されたミニレポート課題などは内容を確認後、グループワークなどに活用しながら、内容のポイントやねらいなどの解説を踏まえて、返却する。		
受講生へのメッセージ	社会で起こっている様々な話題を「社会福祉」のフィルターを通して考えてみましょう。		
アクティビティの実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション (○) フィールドワーク () ロールプレイング () 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL 課題解決型 () 反転学習 () 小テスト (○) ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分	専門	科目名	ゼミナール	担当	新堀 さき	授業形態	講義・演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士資格：選択必修			
授業の到達目標	本ゼミナールでは、教育機器を活用し教材作成する力、実践力、問題解決力を習得する。								
授業概要	教育の情報科に関する手引きの概要には、新学習指導要領においては、初めて「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、教科等横断的にその育成を図るとともに、その育成のために必要なICT環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしており、情報教育や教科等の指導におけるICT活用など、教育の情報化に関わる内容の一層の充実について述べられている。このゼミナールでは「プログラミング教育」「教科等の指導におけるICTの活用」の2つについて取り上げ、テーマの設定、調査の準備、調査方法の検討、実践、分析方法、実践方法等について、講義、ディスカッション、演習、フィールドワーク等を通じ問題解決する力を身に付け、実践力を習得する。 また、夏休み等における子ども向けプログラミング学習のイベントに参加し、実践、振り返りを行う。 ※実施の日程調整によりシラバスで提示した実施例に変更が生じる可能性もある（前期・後期で3回実施予定）								
ディプロマ（DP）と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎＝DP達成の為に特に重要な項目 ○＝DP達成の為に重要な項目 △＝DP達成の為に望ましい項目								
授業計画					時間外学習		時間		
1	オリエンテーション	事前： 事後：							
2	小学校学習指導要領等で求められているプログラミング教育について考える① 講義・グループディスカッション	事前：小学校プログラミング教育について資料を集める 事後：小学校プログラミング教育についてポイントを押さえる					0.5h 0.5h		
3	小学校学習指導要領等で求められているプログラミング教育について考える② 講義・グループディスカッション	事前：小学校プログラミング教育について資料を集める 事後：小学校プログラミング教育についてポイントを押さえる					0.5h 0.5h		
4	小学校学習指導要領等で求められているプログラミング教育について考える③ 演習（ゲストスピーカー）	事前：小学校プログラミング教育についてポイントを押さえる 事後：演習の振り返り					0.5h 0.5h		
5	小学校学習指導要領等で求められているプログラミング教育について考える④ scratch 演習（ゲストスピーカー）	事前：scratch で図形を描く 事後：演習の振り返り					0.5h 0.5h		
6	小学校学習指導要領等で求められているプログラミング教育について考える⑤ scratch 演習（ゲストスピーカー）	事前：scratch で音を入れる 事後：演習の振り返り					0.5h 0.5h		
7	小学校学習指導要領等で求められているプログラミング教育について考える⑥ scratch 演習（ゲストスピーカー）	事前：scratch でゲームを作る 事後：演習の振り返り					0.5h 0.5h		
8	プログラミング教育を授業に取り入れる方法を考える① 指導案作成 scratch 演習（ゲストスピーカー）	事前：小学校学習指導要領、指導書から単元を検討する 事後：小学校学習指導要領、指導書から単元を検討する					0.5h 0.5h		
9	プログラミング教育を授業に取り入れる方法を考える② 指導案作成 scratch 演習（ゲストスピーカー）	事前：小学校学習指導要領、指導書から単元を検討する 事後：小学校学習指導要領、指導書から単元を検討する					0.5h 0.5h		
10	プログラミング教育を授業に取り入れる方法を考える③ 指導案作成	事前：小学校学習指導要領、指導書から単元を検討する 事後：小学校学習指導要領、指導書から単元を検討する					0.5h 0.5h		

11回	プログラミング教育を授業に取り入れる方法を考える④ 模擬授業・授業検討	事前：再度指導案の検討 事後：再度指導案の検討	0.5h 0.5h
12回	プログラミング教育を授業に取り入れる方法を考える⑤ 模擬授業・授業検討	事前：再度指導案の検討 事後：再度指導案の検討	0.5h 0.5h
13回	プログラミング教育を授業に取り入れる方法を考える⑥ 模擬授業・授業検討	事前：再度指導案の検討 事後：指導案を完成させる	0.5h 0.5h
14回	フィールドワーク①計画の立案事前学習	事前：資料収集 事後：役割分担等の確認	0.5h 0.5h
15回	フィールドワーク②実施 ※実施の日程調整によりシラバスで提示した実施順に変更が生じる可能性もある	事前：資料の準備 事後：実施しての課題を考える	0.5h 0.5h
16回	フィールドワーク③振り返り	事前：実施しての課題を考える 事後：次への課題設定	0.5h 0.5h
17回	子どもフェスタ・神女祭に向けて①	事前：子どもフェスタに向けてのテーマを考える。	0.5h
18回	子どもフェスタ・神女祭に向けて②	事前：子どもフェスタに向けて資料収集および材料収集をする。 事後：課題点を見つけ、次回に向けての目標設定を行う	0.5h 0.5h
19回	子どもフェスタ・神女祭に向けて③	事前：課題点を見つけ、次回に向けての目標設定を行う 事後：課題点を見つけ、次回に向けての目標設定を行う	0.5h 0.5h
20回	ICT教育について考える①	事前：これまで受けてきたICT教育について考える。 事後：ICT教育の課題と活用について振り返る。	0.5h 0.5h
21回	ICT教育について考える② 電子黒板	事前：これまで受けてきたICT教育について考える。 事後：ICT教育の課題と活用について振り返る。	0.5h 0.5h
22回	ICT教育について考える③ フラッシュカード等の制作、グループ発表、検討会	事前：フラッシュカードの単元を考える 事後：フラッシュカードを見直す	0.5h 0.5h
23回	ICT教育について考える④ フラッシュカード等の制作、グループ発表、検討会	事前：フラッシュカードを見直す 事後：発表の振り返り	0.5h 0.5h
24回	電子黒板を活用した授業実践① 指導案作成	事前：教科、単元の設定、資料収集 事後：教科、単元の設定、資料収集	0.5h 0.5h
25回	電子黒板を活用した授業実践② 指導案作成・教材作成	事前：指導案の検討 事後：模擬授業の準備	0.5h 0.5h
26回	電子黒板を活用した授業実践③ 模擬授業	事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の振り返り	0.5h 0.5h
27回	各テーマ教材作成①	事前：教材作成のテーマ設定に向けて資料収集 事後：教材の収集、作成	0.5h 0.5h
28回	各テーマ教材作成②	事前：教材の収集、作成 事後：教材の収集、作成	0.5h 0.5h
29回	フィールドワーク①計画の立案事前学習	事前：資料収集 事後：役割分担等の確認	0.5h 0.5h
30回	フィールドワーク②実施 ※実施の日程調整によりシラバスで提示した実施順に変更が生じる可能性もある	事前：資料の準備 事後：実施しての課題を考える	0.5h 0.5h
31回	フィールドワーク③振り返り まとめ	事前：最終まとめに向けて準備 事後：振り返り・まとめ	0.5h 0.5h

科目区分	専門	科目名	ゼミナール(前期)	担当者	又吉 香	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE072	資格・免許要件	保育士の選択科目				
授業の到達目標	小学校教育の現場で必要とされる教材研究の実践方法を理解し、ICT 機器やデジタルアーカイブ技術を活用した教材開発を行うことができる。また幼少期における英語教育の基礎知識を基に、効果的な英語指導を実践できる。更に、地域の課題を発見し、主体的に他者と協働して課題解決に向けた計画を提案する資質・能力を有している。								
授業概要	保育や教育の現場における今日的課題について情報を収集、整理し、課題解決に向けた PBL 型アクティブラーニングを通して専門的な知識・技能を磨きます。またフィールドワークを行いながら、デジタルアーカイブの手法を用いた地域の文化資料の収集・記録・管理・流通・利用の知識・技術を用いた教材開発の実践方法を学びます。特に前期は、子ども向け英語教材としてのデジタルコンテンツの作成を中心に、デジタルアーカイブの技術(記録・撮影・加工・編集等)を学びます。								
ディプロマ部門と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								

受講生へのメッセージ	ゼミナールは少人数での授業形態となりますが、特にグループワーク活動を中心として、協働しながら学びあう機会となります。協調性はもちろん、積極的に関わろうとする主体性が求められます。並行して、個人研究にも取り組んでもらうので、計画的な学習を心がけましょう。
7つのグループの表現	☒ ペアワーク ☒ プレゼンテーション ☒ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☒ ディスカッション ☒ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☒ 質問及びフィードバック ☒ 動画等メディア ☐ ディベート ☒ PBL※課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他 ()

科目区分	専門	科目名	前期「特別支援教育と自立活動」ゼミナール	編纂者	高教 諭	後援機関	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE072	資格・免許要件	保育士選択必修				
授業の到達目標	①障害のある子の支援について積極的に興味・関心をもち、自ら進んで学習し実践への意欲を高めることが出来る。 ②主体性、協働しながら学ぶ意欲をもとに、他クラスの学生との学習、ディスカッション及び特別支援教育、保育現場におけるフィールドワーク等を通して、プレゼンとコミュニケーション能力、専門職業人としての資質を高めることが出来る。								
授業概要	本ゼミでは、障害と配慮について、特別支援学校の幼小中高に共通して指導する特別な指導「自立活動」（特別支援学校学習指導要領解説）を基に障害種別調査・研究・発表・制作等をグループまたは個別で行います。ゼミ活動が、今後の職業、社会生活で役立つことを目指して、障害による学習及び生活上の困難と合理的配慮の理解、個別の支援計画作成及び指導、保育に活かす教材制作などを研究テーマ、課題とします。特別支援学校見学、当事者講話等も予定。授業計画は遠隔と対面(面談)授業で変更があります。								
ディプロマ（DP）と授業の対応	◎ ① 常に問題意識を持ち、積極的な問題の発見やそれに対する解決方法を立案・実行できる能力（問題発見力・計画力・創造力・実行力） ◎ ② 自分の考えをきちんと順序立てて説明し、相手の理解を得る能力（コミュニケーション能力） ◎ ③ 結果を冷静に振り返り、総括し、周囲と共有することのできる能力（状況把握力・前に踏み出す力） ◎＝DP 達成の為に特に重要な項目 ○＝DP 達成の為に重要な項目 △＝DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション(全体) 各ゼミナールのテーマ、内容、受講心得等の説明、グループ討議（自己紹介）				事後：オリエンテーションから自らの課題、考え確認				2H
2回	・ゼミの研究テーマ、課題から研究予定テーマ（仮題）とゼミ活動計画（案）作成 ・「自立活動」についてレポート				事前：ゼミへの準備（『解説「自立活動」編』を読む） 事後：研究テーマ、課題を「自立活動」示す指導内容例と留意点を見つける。				2H 2H
3回	・研究テーマとゼミ活動計画発表と「自立活動」についてグループ討議				事前：ゼミ活動目標、計画の作成 事後：研究テーマ、活動計画修正				2H 2H
4回	・研究テーマと活動計画によるワーク① ：各研究テーマに関する障害種別の「自立活動」の内容区分から具体的指導例と留意点の一覧資料作成（エクセル様式等）				事前：ゼミ計画と新たな視点、自分の考え確認 事後：作成資料の確認				2H 2H
5回	・教育・保育・施設におけるフィールドワーク（1） ワーク：障害別、特性への具体的な支援、環境、教材の実態				事前：フィールドワーク（1）の対象とする障害を調べる				2H
6回	・フィールドワーク（1）での見聞を振り返りレポート作成				事後：フィールドワーク（1）で見聞したことを振り返りレポート作成				?
7回	・研究テーマと活動計画によるワーク② ：フィールドワーク（1）の対象障害と「自立活動」のグループ討議				事前：フィールドワーク（1）の対象障害の特性理解 事後：見聞したことを振り返り障害の理解を深める				2H 2H
8回	・研究テーマと活動計画によるワーク③ ワーク：各研究テーマに関する障害種別の「自立活動」の内容区分から障害特性と指導と留意点の一覧資料作成				事前：「自立活動の区分と項目」記入確認と修正 事後：作成資料の点検、自己課題を見出し取り組む				2H 2H
9回	・一覧資料作成の中間報告、グループ討議				事前：作成資料の点検、自己課題を見出し取り組む 事後：障害理解と支援事項の振り返り				2H 2H
10回	・ワーク④：「自立活動」の内容区分から障害特性と指導と留意点の一覧資料作成				事前：フィールドワークの対象と実態をまとめる 事後：見聞したことを振り返り障害の理解を深める				2H 2H
11回	・教育・保育・施設におけるフィールドワーク（2） ワーク：障害別、特性への具体的な支援、環境、教材の実態				事前：フィールドワークの対象と実態をまとめる				2H 2H
12回	・フィールドワーク（2）での見聞を振り返りレポート作成				事後：フィールドワーク（2）で見聞したことを振り返りレポート作成				2H
13回	フィールドワーク（1）（2）の対象と研究テーマとの関連等のプレゼン：障害別事例の具体的な支援、指導計画、教材を報告				事前：プレゼン準備 事後：各プレゼンの評価と意見をレポートにまとめる（ゼミの振り返りと自己課題への取り組み）				2H 2H

14 週	研究テーマとの関連プレゼンの評価 (3名へのコメント, 評価資料作成)	事前: プレゼン準備 事後: 各プレゼンの評価と意見をレポートにまとめる	2H 2H
15 週	フィールドワーク (1) (2) の対象と研究テーマとの関連等の プレゼン: 障害別事例の具体的な支援、指導計画、教材を発表	事前: プレゼン準備 事後: 各プレゼンの評価と意見をレポートにまとめる (ゼミの振り返りと自己課題への取り組み)	2H 2H
16 週	前期のまとめと後期の計画の作成	事前: 前期の振り返り 事後: 後期ゼミへの計画提出	2H 2H
テキスト	『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)』平成 30 年 3 月発行 文部科学省著作権所有 開隆堂出版 (159 円+税)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業に関連する新聞・雑誌等を参考とする		
授業の評価 方法・基準	個々の「テーマ設定」から「まとめ」に至る作業の進捗状況 30%・積極的な学習態度 30%・学習成果の資料とプレゼン 40%により評価する		
履修条件	特別の支援(障害)教育、保育に関する研究テーマ、課題に主体的、積極的に日々向上心を持って関わろうとするもの		
関連科目・次のス テージ	「特別の支援を必要とする子どもの理解と実践」科目。障害のある子の支援に関する研究テーマ、課題に主体的に学ぶ技術の向上・獲得。後期ゼミナールと全専任講師が関わる「保育・教職実践演習」からの学びから就職活動、就職へとつなげる。		
オフィスアワー	月曜日、木曜日 2 時間目		
授業や課題に対 するフィードバ ック	自己課題の取り組みへの振り返りやディスカッションを通し、苦手意識を分析、より活発な活動や障害への理解につながる様にバックアップして行く。		
受講生へのメッ セージ	障害のある子(者、家族)と一緒にいて楽しいと自ら感じたことを伝え、分かち合う時と場所をつくろう。 子どもフェスタ、大学祭、学内発表において、障害(特別の支援)に関わる楽しさと面白さの発見を自信をもって伝えよう。		
7対7対2の 実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション (○) フィールドワーク (○) ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 (○) ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア (○) ディベート () PBL 系課題解決型 (○) 反転学習 () 小テスト (○) ゲストスピーカー その他(制作演習!!)		

科目区分	専門	科目名	ゼミナール	担当者	渡名喜舞衣子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			免許・資格要件等		保育士資格:選択		
授業の到達目標	「乳幼児」、「心」、「保育」、「子育て」をキーワードとし、関心のあるテーマを見つけ、これまでに明らかになっていることを調べ、「なぜ？」と自ら考え、教員や他の学生とディスカッションすることで理解を深め、自分の言葉で説明できるコミュニケーション能力を高める。また、子どもだけでなく、等身大の私たちや保護者の心についても学び、自己理解・他者理解を深めることができる。保育現場での実践を想定し、保育教材制作や模擬遠足等を実施することを通して試行錯誤しながら保育を創り出す意欲を持つ。特に後期は、就職に向けて情報を収集し、主体的に就活に取り組むことができるようになる。								
授業概要	各自学び深めたいテーマを決め、保育教材制作や調べ学習、アンケート調査等を通して、学ぶ楽しさを実感しながら、さらに学んだことを相手に伝えるプレゼンテーション力を身につける。各種実習を振り返り、ディスカッションを通して、就職に向けて自分の将来について主体的に考える。「模擬遠足」に向けて、計画・準備・運営・振り返りを通して、今後保育現場で必要とされる協働性や実践力を高める。その他、学生が提案する活動を積極的に取り入れ実施する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける ○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画				時間外学習			時間
1回	全体オリエンテーション ゼミの説明・希望調査				ゼミナールで取り組みたいことを各自考え、まとめる。			1H	
2回	本ゼミナールのオリエンテーション				ゼミナールで取り組みたいことを各自考え、まとめる。			1H	
3回	チャイルド・ビジョン作成および実践				チャイルド・ビジョンの実践をまとめる			1H	
4回	チャイルド・ビジョン実践発表、実習に向けて保育教材制作について計画する①				どんな保育教材を制作するか調べ、考える。			1H	
5回	実習に向けて保育教材制作について計画する②				どんな保育教材を制作するか調べ、考える。お互いで制作した保育教材を共有するために、プレゼン内容をまとめる。			1H	
6回	各自の保育教材制作計画を発表・決定する 実習に向けて保育教材制作①準備				ゼミナールで取り組みたいことを各自考え、まとめる。			1H	
7回	実習に向けて保育教材制作②準備・制作				保育教材の制作に取り組む。			1H	
8回	実習に向けて保育教材制作③制作				保育教材の制作に取り組む。			1H	
9回	子どもや保護者について学ぶ フィールドワーク				フィールドワークについてまとめる。			1H	
10回	実習に向けて保育教材制作③制作				遠足の安全管理・配慮について考える。			1H	
11回	保育教材の発表①				教材の発表の準備をする。			1H	
12回	保育教材の発表② 教材制作・テーマについて研究②				教材の発表の準備をする。			1H	
13回	園外保育について① 遠足等の行事を計画・下調べ、遠足等の安全管理等について考える 模擬遠足「こどもの国」の計画を立てる				遠足の安全管理・配慮について考える。			1H	
14回	園外保育について② 遠足のしおりを作成する				「遠足のしおり」の作成に取り組む。			1H	
15回	まとめ				前期の取組について振り返る。			1H	
テキスト	特に使用しない。適宜資料を配布する。								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「保育所保育指針解説書」厚労省 フレーベル館								
授業の評価方法・基準	①授業への参加態度(50%)、②リアクションペーパー(10%)、③授業で課す課題の内容(40%)で総合的に評価する。								
履修条件	原則、心理教育コース・福祉教育コースであること。								
関連科目・次の									

ステージ	
オフィスアワー	渡名喜:月曜日午後・金曜日午前(事前に連絡して下さると助かります。)
授業や課題に対するフィードバック	振り返りシートにおいて質問等あった場合は、次回授業内でコメントし、全体で共有します。
受講生へのメッセージ	ゼミナールは学生が主人公です。主体的に取り組みましょう。お互い気持ちの良い授業をつくりましょう。
アクティビティの実施	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL※課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他()

科目区分	専門	科目名	ゼミナール	担当者	赤嶺 綾支子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE072	資格・免許要件	保育士選択必修				
授業の到達目標	①幼児教育に関するさまざまな知識・技能を応用し、保育の常時活動内で行うための主に表現に関わる遊びの開発と指導実践を行なうことができる。 ②他者との協働作業を通して自己理解と他者理解を深め、主体的に課題を把握し解決に向かおうとする姿勢、他者と協力し問題解決を図る力を身に付けることができる。								
授業概要	本ゼミナールでは、前期・後期を通して、これまでに習得した幼児教育に関わる知識・技能を保育現場で生かし、応用するための実践力を身に付けていく。前期の授業では、「保育の常時活動内で行なうことを想定した表現に関わる遊びの開発と実践」を最終目的とし、主にグループワークを中心としながらリトミック、絵本、合奏を用いた遊びの可能性について学び、発想を表現に繋げる具体的な方法を探る。他者と協働しながら表現遊びの開発と実践を行なう中で、自らの役割を知覚して得意分野を生かし、他者と助け合いながら苦手分野を克服するための努力を積み重ね、問題解決を図る経験を積み重ねながら、保育士としての資質を向上させていく。								
ディベロッパー (DP)と授業の対応	① 常に問題意識を持ち、積極的な課題の発見やそれに対する解決方法を立案・実行できる能力（課題発見力・計画力・創造力・実行力） ② 自分の考えをきちんと順序立てて説明し、相手を説得する能力（コミュニケーション能力） ③ 結果を冷静に振り返り、統括し、周囲と共有することのできる能力（状況把握力・前に踏み出す力） ●=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション、ゼミナールの説明				事後：オリエンテーションの内容理解と復習			2h	
2回	保育所実習Ⅰの振り返り（実習の報告と全体共有） 領域「表現」の指導実践に関する個別課題の把握				事前：保育所実習Ⅰの報告発表の準備 事後：課題1「自己課題について」			2h 2h	
3回	表現に関わる遊びの開発に関する先行実践事例の検証と分析 （子どもの主体性を育み、他者理解を促す表現活動の有り方）				事前：配布資料の読解 事後：課題2「遊びのアイディア」			2h 2h	
4回	リトミックを応用した遊びと即興① （基本動作と合図の即興）				事前：配布資料の読解 事後：ゼミの振り返りと即興表現の復習			2h 2h	
5回	リトミックを活用した遊びと即興② （基本動作と合図、模倣表現のための即興）				事前：配布資料の読解 事後：ゼミの振り返りと即興表現の復習			2h 2h	
6回	リトミックを活用した遊びと即興③ （リズム表現、演出のための即興）				事前：配布資料の読解 事後：課題3「リトミックを応用した遊び」			2h 2h	
7回	絵本を活用した遊びと即興① （音の響きに注目した遊びの実践、表現活動のための即興）				事前：配布資料の読解 事後：ゼミの振り返りと即興表現の復習			2h 2h	
8回	絵本を活用した遊びと即興② （登場人物に着目した遊びの実践、表現活動のための即興）				事前：配布資料の読解 事後：ゼミの振り返りと即興表現の復習			2h 2h	
9回	絵本を活用した遊びと即興③ （ストーリーの透視による遊びの実践と、演出・表現活動のための即興）				事前：配布資料の読解 事後：課題4「絵本を活用した遊び」			2h 2h	
10回	合奏による音楽遊びの実践 （楽器の奏法と音色の特徴、合奏が育むコミュニケーション能力）				事前：配布資料の読解 事後：ゼミの振り返りと演奏の復習			2h 2h	
11回	合奏による音楽遊びと楽曲アレンジ術 （合奏の実践、楽曲のアレンジ方法）				事前：配布資料の読解 事後：課題5「合奏スコアの作成」			2h 2h	
12回	グループワーク①遊びの開発と実践（指導案の作成）				事前：配布資料の読解 事後：指導案の作成			2h 2h	
13回	グループワーク②遊びの開発と実践（指導案の作成）				事前：指導案の作成 事後：指導案の作成			2h 2h	

14 週	グループワーク③遊びの開発と実践（リハーサル）	事前：指導実践の準備 事後：指導実践の準備	2h 2h
15 週	各グループで開発した遊びの指導実践	事前：指導実践の準備 事後：ゼミの振り返り	2h 2h
16 週	前期のまとめ 各グループが開発した遊びの全体共有と自己課題の再認識	事前：最終課題「開発した遊びの指導案」 事後：実習に向けた準備	2h 2h
テキスト	指定なし（授業内で資料を配布する）		
参考資料など	適宜、授業内で紹介する		
授業の評価 方法・基準	課題の提出 80%、学習態度（協働作業への積極的な参加や課題の解決に向けた取り組み）80%、 学習成果（指導案と指導実践の内容）40%		
履修条件	より良い保育の実践を目指し、向上心と好奇心を持ち研究に取り組めるもの		
関連科目・次のス テージ	幼児教育に関わる全ての学びと連動させ、表現遊びの持つ可能性について思考を深めます。習得した知識・技能を実習に生かし、 さらなる自己課題の発見と後期ゼミナールでの研究につなげます。		
オフィスアワー			
授業や課題に対 するフィードバッ ク	授業内でのディスカッションを通して、研究への取り組みを支えます。また、作成された指導案及び指導実践の内容から個々の 課題を探り、技術力・指導力の向上につなげる助言を行ないます。開発された遊びをさらに練り上げ、クラス全体で共有し、保 育、幼児教育の場で活用できる実践的な指導案として仕上げるための支援を行ないます。		
受講生へのメッ セージ	遊びの質を高めることで子どもたちはぐんぐん伸びていきます。あなたの豊かな発想力を生かして、子どもの力を引き出すこと のできる実践的な表現遊びを創りましょう。		
777(7)ラーニングの 実施	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL系課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他()		

科目区分	専門	科目名	ゼミナール (前半)	担当者	現地知習	履修形態	演習	単位数	2
卒業要件	必須	ナンバリング	EE072		資格・免許要件	保育士資格選択必修			
授業の到達目標	保育者・教育者としての特別な配慮が必要な子どもへの専門的な知識を深め、その対応の方法、遊びの重要性を知る。 SDG 5を取り入れ障がいのある子ども達の生活や遊びを考える。								
授業概要	保育士資格取得のための選択科目であるゼミナールを通じ、保育者としての専門的な知識と技術、子どもへの対応などを深めていく。また、SDG 5の考え方を取り入れ、地域の社会資源の活用や地域とつながりより実践的な演習を重ねていくことも重視する。ゼミナールの仲間と共に主体的に課題を見つけ、そこに取り組みまとめる力とプレゼン力を身に付けて、保育現場で活躍できる力を身に付ける。								
学習目標 (DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	● ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	● ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	●=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1 回	オリエンテーション 年間計画の確認				事前：自己紹介の内容をまとめる 事後：年間計画の確認		0.5H 0.5H		
2 回	障害特性を学び、その障がいの特性調べ、その障害にあった活動内容を考える 1 (図書館学習)				事前：自分の興味がある障害について調べる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
3 回	障害特性を学び、その障がいの特性調べ、その障害にあった活動内容を考える 2 (図書館学習)				事前：障がい特性についてまとめる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
4 回	障害特性を学び、その障がいの特性調べ、その障害にあった活動内容を考える 3 (調べ学習の報告会)				事前：障がい特性についてまとめる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
5 回	障がいを持った子ども達への社会的な支援を知る				事前：テキスト P28 ～P49 まで予習 事後：学習のまとめ		1H 1H		
6 回	障がい児のあそびの実例 1 (小麦粉ねんどあそび)				事前：小麦粉ねんどの作り方を調べる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
7 回	障がい児のあそびの実例 2 (片栗粉あそび)				事前：感覚遊びについて調べる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
8 回	障がい児のあそびの実例 1 (自然を使った遊びを考える) フィールドワーク				事前：身近な草花を調べてくる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
9 回	障がい児のあそびの実例 2 (自然を使った遊びを考える) フィールドワーク				事前：身近な草花を使った遊びを考えてくる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
10 回	障がい児保育の環境を考える 1 (沖縄の保育現状を知る)				事前：沖縄の保育の現状を調べる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
11 回	障がい児保育の環境を考える 2 (SDG 5について学ぶゲストスピーカー)				事前：SDG 5について調べる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
12 回	障がい児保育の環境を考える 3 (SDG 5の考え方と障がい児のあそびを考える)				事前：SDG 5について調べる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
13 回	障がい児保育の環境を考える 4 (SDG 5の考え方から障がい児のあそびを考える)				事前：SDG 5について調べる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
14 回	障がい児保育の環境を考える 5 (SDG 5の考え方から地域とつながる)				事前：県・市町村・企業などの SDG 5への取り組みを調べる 事後：学習のまとめ		1H 1H		
15 回	障がい児保育についてまとめる (今までのまなびをまとめ、あそびを体験し、そこから障害児への対応を考える)				事前：テキストを読み予習する 事後：障がい児のあそびについてまとめる		1H 1H		

10 週	前期の学習のまとめ	事前：障がい児のあそびについてまとめる 事後：障がい児のあそびについてまとめる	1H 1H
テキスト	こどもたちの保育・療育をよくなる会編著「療育ってええな！」		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針 必要に応じて資料を配布する		
授業の評価 方法・基準	総合評価 ー参加の状況（50％）学習後にまとめたノートの状況（30％）学外研修のまとめ（20％）		
履修条件	障がい児への支援について学ぶ意識を持ち参加すること。ゼミナールには主体的に参加する事。 Google クラウドにて提示された課題を提出する事で出席とする。		
関連科目・次のス テージ	特別の支援を必要とする子どもの理解と実践Ⅰとの関連性を持ちながら障がいの特性を踏まえて沖縄県の障がい児保育への理解を深める		
オフィスアワー	授業後、またはメール等で対応		
授業や課題に対 するフィードバ ック	授業後の質疑応答、ゼミ用のノートを活用してフィードバックを行う		
受講生へのメッ セージ	障がいを持っている子ども達の理解を深めることで、保育者としての総合的な力をつけることが出来ます。保育現場での経験を活かし実践的な内容で障がい児保育についての理解を深め保育士の仕事のすばらしさを伝えていきたいと考えています。一緒に学びましょう。		
7月17日（土）の 実施	(○) ペアワーク (○) プレゼンテーション (○) フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート (○) 質問及びフィードバック (○) 動画等メディア () ディベート () PBL課題解決型 () 反転学習 () 小テスト (○) ゲストスピーカー その他 ()		

科目区分		科目名	読書ゼミナール前期	担当者	桃原亮昌	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	EE072	資格・免許要件					
授業の到達目標	「読みの世界を広げる」のテーマのもと、沖縄（郷土）、日本、世界の3領域の絵本教材をグループで実践的に研究し、成果をまとめ発表する。研究したものを小学校やこども園で実践し、今後に生かす。また地域教育施設等を視察し図書館教育や読書教育等について学ぶ。								
授業概要	(1) 教材の読みについて、各グループで研究を行う。 (2) 読みの楽しさを学ぶとともに小学校・こども園において活動を行い、研究内容を実践的にまとめる。 (3) 公立図書館や公民館等の教育施設等を視察したり、読書教育実践者からの学びを通して研究をまとめる。								
ディプロマ (DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP達成の為に特に重要な項目 ○=DP達成の為に重要な項目 △=DP達成の為に望ましい項目								
	授業計画					時間外学習		時間	
1回	ゼミ概要の説明、ゼミの進め方、役割分担					事前：読書ゼミの情報を収集しておく 事後：ゼミの進め方を知り計画をまとめる		1 h 1 h	
2回	「読みの世界に広げる」「読書の意義」について					事前：読書指導の意義等について調べ学習 をしておく 事後：読書の意義を理論的にまとめる		1 h 1 h	
3回	グループ編成及び教材の理論研究					事前：グループの希望と絵本について調べておく 事後：絵本全体について各グループでまとめる		1 h 1 h	
4回	研究のまとめ方について（理論研究）					事前：研究プロットについて調べておく 事後：理論研究プロットを的確にまとめる		1 h 1 h	
5回	教材の選定及び読み聞かせ実践研究					事前：沖縄、日本、世界の絵本について調べておく 事後：3領域を調べ読み聞かせの具体的な方法についてまとめる		1 h 1 h	
6回	教育施設視察					事前：地域図書館について調べておく 事後：図書館を視察しての学びをまとめる		1 h 1 h	
7回	各グループの事例研究①					事前：3領域についてそれぞれ調べておく 事後：各領域のよさ等を理論的にまとめる		1 h 1 h	
8回	各グループの事例研究②					事前：3領域についてそれぞれ調べておく 事後：各領域のよさ等を理論的にまとめる		1 h 1 h	
9回	視点を踏まえた教材づくり					事前：教材作り方法を具体的に調べておく 事後：3領域の絵本の読み聞かせから教材をつくりまとめる		1 h 1 h	

10回	読み聞かせ前の雰囲気づくり（手遊び、ゲーム等）	事前：読み聞かせの雰囲気づくりについて調べておく 事後：雰囲気づくりを生かせるようにする	1 h 1 h
11回	小学校及びこども園での授業実践準備	事前：図書の選定と同時に手遊びやゲーム等について調べておく 事後：小学校・こども園での事前準備をする	1 h 1 h
12回	小学校及びこども園での授業実践	事前：授業実践の流れを確認しておく 事後：小学校・こども園で実践して今後に生かす	1 h 1 h
13回	小学校及びこども園での授業実践の反省・まとめ	事前：小学校・こども園で授業実践しての反省をまとめておく 事後：小学校・こども園で授業実践しての成果と課題をまとめる	1 h 1 h
14回	教育施設視察	事前：地域公民館について調べておく 事後：公民館を視察しての感想をまとめる	1 h 1 h
15回	ビブリオバトルの実践	事前：ビブリオバトルについて調べておく 事後：ビブリオバトルを実践して学んだことをまとめる	1 h 1 h
16回	実践のまとめ及び評価	事前：前期の振り返りを記録しておく 事後：前期のまとめを後期に生かすようにする	1 h 1 h
テキスト	「読書教育への招待」国立教育研究所編 東洋館出版社		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 ゼミナールの中で適宜紹介する。		
授業の評価方法・基準	研究レポートのまとめ及び発表（70%）、授業実践（10%）、授業態度（10%）、ワークシートまとめ（10%）で評価。		
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで読み聞かせ等、読書活動に意欲のある。		
関連科目・次のステージ	図書館の本を多く読んでおくこと。 小学校やこども園等、学校現場で実践的に生かすことができる。		
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。		
授業や課題に対するフィードバック 受講生へのメッセージ アクティブラーニングの実施	授業で毎回記入するワークシートのチェックを行い理解度を確認する。 読み聞かせのよさを認識し、楽しく実践できるようにしましょう。 (○)ペアワーク ()プレゼンテーション (○)フィールドワーク (○)ロールプレイング (○)振り返りシート (○)ディスカッション (○)プロジェクト学習 ()ピアサポート (○)質問及びフィードバック (○)動画等メディア (○)ディベート ()PBL課題解決型 (○)反復学習 ()小テスト ()ゲストスピーカー ()その他 ()		

科目区分	専門	科目名	ゼミナール（前期）	担当者	石垣愛一郎	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格（選択）				
授業の到達目標	本ゼミナールは「体育あそび」をメインテーマに様々な活動を展開する。前期終了後の実習を踏まえて、実習で応用できそうな「体育あそび」の展開の仕方を様々な方法で学ぶ。「堂々と人前に立つ」ことを意識した各ゼミナール生の発表の場を楽しみながら設けることで、「わかりやすく説明できる技術」を身につける。また学外活動として幼児教育の現場で身につけたことを試す機会を設ける。								
授業概要	自分が理解、経験した体育あそびをどう他人に分かりやすく伝え、楽しく展開するかを学び、学外活動・実習その他を通して実践する。一度実践したものを事後反省して、学びを深め、さらなるレベルアップを目指す。								
ディプロマ（DP）と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習		時間		
1回	ゼミナールの紹介 ゼミナールとは？ ゼミナール生の募集・選定作業				事後：本ゼミナールの趣旨を理解する。		(2)		
2回	本ゼミナールの紹介、ゼミナール担当教員の紹介、学内外活動の希望調査、ゼミナール学生の紹介をゲームを通して行う。				事前：本ゼミナール選定理由を確認する。 事後：ゼミナール生をお互いが理解する。		(2)		
3回	体育授業動画撮影① 年間計画を立てる#1				事前：動画撮影の準備、実行、反省。 事後：年間計画と各自の役割を確認する。		(2)		
4回	体育授業動画撮影② 年間計画を立てる#2				事前：動画撮影の準備、実行、反省。 事後：年間計画と各自の役割を確認する。		(2)		
5回	「体育あそび」メニュー探し（図書館）その1				事前：実習を踏まえたあそびの事前調査 事後：資料・著書の見聞を広める。		(2)		
6回	「体育あそび」メニュー探し（図書館）その2				事前：あそびメニューをまとめておく。 事後：メニューの発表準備を進める。		(2)		
7回	「体育あそび」メニュー 発表会 その1				事前：各自メニュー発表の準備をする。 事後：発表メニューをまとめる。		(2)		
8回	「体育あそび」メニュー 発表会 その2				事前：各自メニュー発表の準備をする。 事後：発表メニューをまとめる。		(2)		
9回	学外出張授業準備（案）				事前：あそびメニューをまとめておく。 事後：学外出張授業の具体的準備をする。		(2)		
10回	学外出張授業及び交流会				事前：ゼミ生間の役割分担と準備をする。 事後：授業及び交流会の振り返りをする。		(2)		
11回	学外出張授業反省会				事前：各自反省・実習準備をまとめる。 事後：あそびメニューの報告書作成準備をする。		(2)		
12回	実習前課題等の話し合い・学び その1				事前：責任実習の準備をする。 事後：責任実習メニューの全体確認をする。		(2)		
13回	実習前課題等の話し合い・学び その2				事前：責任実習の準備をする。 事後：責任実習メニューの全体確認をする。		(2)		
14回	本ゼミナール レクレーション				事前：レクメニューの検索をする。 事後：レクメニューの振り返りをする。		(2)		

15 回	こどもフェスタ（後期）へ向けての話し合い	事前：こどもフェスタ出し物を調査する。 事後：こどもフェスタの準備を把握する。	(2)
16 回	本ゼミナール前期まとめ	事前：前期ゼミ振り返り発表の準備をする。 事後：実習直前の準備（責任実習）をする。	(2)
テキスト	なし		
参考資料など	ゼミナール担当教員からの資料及び図書館にある書籍		
授業の評価 方法・基準	「体育あそび」メニューの検索、まとめ、プレゼンテーション、実践、事後反省までの流れをサイクルとして実践する。80% 他のゼミナール生と協働し、活動そのものを楽しむ姿勢をみせる。20%		
履修条件	体調管理をすること。堂々と自己表現する力を身につけること。		
関連科目・次のス テージ	前期終了後の実習（小学校教育実習・保育実習Ⅱ・児童館実習）においてゼミナールで経験したことが実践できるよう準備する。		
オフィスアワー	事前に打ち合わせをした上で、授業外すべての時間をオフィスアワーとする。		
授業や課題に対 するフィードバ ック	本ゼミナールは学生主体で展開していくため、毎授業内においては「体育あそび発表会」を前後して準備から振り返りまでを全体的に実践する。また授業外では常に対話を通してフィードバックを行う体制を整える。		
受講生へのメッ セージ	常に楽しく、元気よく、前向きな姿勢で「体育あそび」を中心にした学内外イベントの企画、運営、実行、反省までを追求しましょう。 連絡先：ishigaki-n@wjc.ac.jp		
7717'ラーニングの 実践	☐ ペアワーク ☐ プレゼンテーション ☐ フィールドワーク ☐ ロールプレイング ☐ 振り返りシート ☐ ディスカッション ☐ プロジェクト学習 ☐ ピアサポート ☐ 質問及びフィードバック ☐ 動画等メディア ☐ ディベート ☐ PBL※課題解決型 ☐ 反転学習 ☐ 小テスト ☐ ゲストスピーカー その他（ ）		

科目区分	専門	科目名	保育・教育支援インターン シップⅠ	履修者	新規 さき	履修回数	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士資格、小学校教諭・幼稚園教諭二種免許状：選択必修			
授業の到達目標	教育現場を実際に訪問し、教育活動を観察、補助することを通して、教職に対する学習意欲の向上へと繋げ、教職に対する自覚を高める。								
授業概要	保育・教育支援インターンシップにおいて実際に教育現場を訪問することに先立ち、事前学習においては社会人としてのマナー（服装、言葉づかい、交通マナー等）を含め、児童に関する守秘義務の厳守等の事前確認を行う。事前学習後、各自学校教育現場を選択し、実際に教育現場を訪問しどのような教育活動が展開されているかを観察する。また、教育活動に支障がない範囲で教育活動に参加する。その後、事後の振り返りとしてグループワークや報告会等を通して教職に対する知識を深め、実践力高める。								
ディベロパ（DP）と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。								
	○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	●=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
授業計画					時間外学習			時間	
1 週									
2 週	【事前学習】								
3 週	社会人としてのマナー（服装、言葉づかい、交通マナー等）の確認、								
4 週	児童に関する守秘義務の厳守等について考える。								
5 週									
6 週	【教育現場訪問】								
7 週	週に1回程度、訪問、観察をする。教育現場への訪問は原則として、								
8 週	受け入れ先との調整によって確定するため、回数は変動する。訪問場								
9 週	所については、県内の教育現場から選択し、教員側で確認し決定とす								
10 週	る。教育現場の訪問後は、観察記録を記入し、担当教員に提出する。								
11 週									
12 週	【事後学習】								
13 週	前期、後期の終了前に事後学習を設定する。観察記録をもとにグルー								
14 週	プワークし、教職に対する知識を深め実践力を高める。後期の事後学								
15 週	習の際には報告会を設定し、学びを深める。								
16 週									
テキスト	各講義で使用しているテキストとし、課題に合わせ活用する								
参考資料など	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領								
授業の評価方法・基準	訪問先への参加意欲・態度、観察記録等の提出物から総合的に評価する。								
履修条件	社会人としてのマナーを守り、保育・教育者としての自覚を持ち学ぶことができる。								
関連科目・次のステージ	これまで受講してきた科目と関連させ、理論と実践を結びつけ学びを深めましょう。教育実習、卒業後の実践につながります。								
オフィスアワー	月曜日の3校目								
授業や課題に対するフィードバック	インターンシップ報告書を記入し、提出するインターンシップ先にも毎回提出する）事前事後学習において、ペアワーク、ディスカッションを実施し、その都度フィードバックします。								
受講生へのメッセージ	社会人として、保育・教育者としての自覚をもち、大学講義での学びと実践を結びつけ深い学びになるよう目標を持って取り組みましょう。								
ディベロパの実践	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック () 動画等メディア () ディベート () PBL※課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他(学外活動)								

科目区分	専門	科目名	保育・教育支援インターンシップⅡ	履修者	新規 さき	履修形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング				資格・免許要件	保育士資格、小学校教諭・幼稚園教諭二種免許状：選択必修		
授業の到達目標	保育・教育支援インターンシップⅠの振り返りから各自課題意識を持ち、教育現場を実際に訪問し、教育活動を観察、補助することを通して、さらなる教職に対する学習意欲の向上、教職に対する自覚を高める。								
授業概要	保育・教育支援インターンシップⅠでの学習の振り返りを行い、各自の課題を抽出する。保育・教職インターンシップⅡでは、課題意識をしっかりと持ち、将来を見据え教育現場において活動を行う。事後の振り返りとして、自己の課題への振り返り、グループワークや報告会等を通して教職に対する知識を深め、実践力高める。								
イブニング（DP）と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力をつける。 ○＝DP 達成のために特に重要な項目 △＝DP 達成のために重要な項目 △＝DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				時間
1 週	【事前学習】 社会人としてのマナー（服装、言葉づかい、交通マナー等）の確認、児童に関する守秘義務の厳守等について再度確認をする。保育・教職インターンシップⅠの振り返りから、保育・教育インターンシップⅡへの自己課題設定を行う。 【教育現場訪問】 に1回程度、訪問、観察をする。教育現場への訪問は原則として、受け入れ先との調整によって確定するため、回数は変動する。訪問場所については、県内の教育現場から選択し、教員側で確認し決定とする。教育現場の訪問後は、観察記録をつけ、担当教員に提出する。 【事後学習】 訪問、使用の終了後に事後学習を設定する。観察記録をもとに、自己課題への振り返りを行い、グループワークし、教職に対する知識を深め実践力高める。後期の事後学習の際には報告会を設定し、学びを深める。				事前学習：社会人としてのマナーについて考え、教育現場の訪問前に必ず、各専門科目との関連を考え目標を設定すること。 事後学習：訪問後は、観察記録を記入し、振り返りを行い新たな課題を設定すること。				
2 週									
3 週									
4 週									
5 週									
6 週									
7 週									
8 週									
9 週									
10 週									
11 週									
12 週									
13 週									
14 週									
15 週									
16 週									
テキスト	各講義で使用しているテキストとし、課題に合わせて活用する								
参考資料など	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領								
授業の評価方法・基準	訪問先への参加意欲・態度、観察記録等の提出物から総合的に評価する。								
履修条件	社会人としてのマナーを守り、保育・教育者としての自覚を持ち学ぶことができる。								
関連科目・次のステージ	これまで受講してきた科目と関連させ、理論と実践を結びつけ学びを深めましょう。教育実習、卒業後の実践につながります。								
オフィスアワー	月曜日の3校目								
授業や課題に対するフィードバック	インターンシップ報告書を記入し、提出するインターンシップ先にも毎回提出する） 事前事後学習において、ペアワーク、ディスカッションを実施し、その都度フィードバックします。								
受講生へのメッセージ	社会人として、保育・教育者としての自覚をもち、大学課程での学びと実践を結びつけ深い学びになるよう目標を持って取り組みましょう。								
フューチャングの実施	(○) ペアワーク () プレゼンテーション () フィールドワーク () ロールプレイング (○) 振り返りシート (○) ディスカッション () プロジェクト学習 () ピアサポート () 質問及びフィードバック () 動画等メディア () デベート () PBL系課題解決型 () 反転学習 () 小テスト () ゲストスピーカー その他(学外活動)								